

# 宮崎県地震・津波及び被害の想定について

(被害想定結果の位置付け)

今回の被害想定は、宮崎県地震・津波及び被害の想定（平成 25 年 10 月公表）について、最新のデータ（建築物や人口、ライフライン等のデータ、津波避難意識アンケート結果等）に基づき、再計算したものである

令和 2 年 3 月

宮 崎 県



# 目 次

はじめに	.....	1
第1章 津波浸水想定	.....	3
第2章 地震動想定	.....	9
第3章 被害想定	.....	12
第4章 減災効果	.....	26
※宮崎県防災会議地震専門部会専門委員名簿	.....	30
※被害想定の内訳	.....	32



## はじめに

平成23年3月11日、三陸沖を震源とする巨大な海溝型地震「東北地方太平洋沖地震」は、東北地方から関東地方にかけての太平洋沿岸部を中心に甚大な被害をもたらし、多くの尊い命を奪う未曾有の大災害となりました。

長く続く強い揺れ、そして、その後にやってきた巨大津波。私たちは自然の脅威を改めて認識することになりました。

一方、静岡県の駿河湾から日向灘まで延びる南海トラフと呼ばれる海溝でも、歴史上たびたび南海地震（M8クラス）や日向灘地震（M7クラス）などが発生していることから、国（内閣府）<sup>1,2,3</sup>は、「東北地方太平洋沖地震」を踏まえ、南海トラフで科学的に考えられる最大クラスの地震予測として、平成24～25年度にかけて、南海トラフ内全体でM9クラスの地震が発生した場合の震度分布や津波高、各種被害の想定を公表しました。さらに、令和元年6月、国（内閣府）<sup>4,5</sup>は「南海トラフ地震防災対策推進基本計画」のフォローアップとして、最新のデータ（建築物や人口、ライフライン等のデータ、津波避難意識アンケート結果等）に基づき、各種被害の想定を再計算し公表しました。

このような巨大地震・津波は、本県はもちろんのこと、西日本を中心に東日本大震災を超える甚大な人的・物的被害が発生し、我が国全体の国民生活・経済活動に極めて深刻な影響が生じる、まさに国難とも言える大規模災害になるものと想定されます。

このことから、これまで実施してきた取り組みに引き続き、巨大地震・津波に対しては、何よりも「命を守る」ことを基本として、被害の最小化を主眼とする「減災」の考え方が重要であり、防災教育や防災に関する啓発等により住民の自助、共助の取組を強化していくとともに、建物の耐震化や海岸保全施設、避難施設及び防災施設の整備等のハード対策と、素早く確実な情報伝達や避難訓練等のソフト対策を総合的に取り組みながら、住民一人ひとりが主体的かつ迅速に避難行動が取れるよう対策を講じていかなければなりません。

このため、本県では、平成25年10月の県の想定、国（内閣府）の想定を踏まえながら、県内の現況を可能な限り反映させ、地震・津波に関するより詳細な予測を行うとともに、それらに起因する各種被害の想定を行い、県内外の有識者による宮崎県防災会議地震専門部会<sup>6</sup>での審議を踏まえ、防災対策の基礎資料として取りまとめました。今回の想定では、平成25年の想定から5年以上が経過していることから、これまでの防災対策の取り組みの効果を把握するために、地震動、津波は平成25年の結果を用いて、そのほかは最新のデータ（建築物や人口、ライフライン等のデータ、津波避難意識アンケート結果等）に基づき、各種被害の想定を再計算し、「新・宮崎県地震減災計画」の改訂および今後の地震防災対策の基礎資料として取りまとめました。

今後、この資料をもとに市町村や九州各県、関係機関とも連携し、自助、共助、公助のバランスのとれた、短期・中期・長期の対策に総合的に取り組むこととしております。

<sup>1</sup> 内閣府 南海トラフの巨大地震モデル検討会（2012）：南海トラフの巨大地震モデル検討会（第二次報告）（平成24年8月29日発表）

<sup>2</sup> 内閣府 南海トラフ巨大地震対策検討ワーキンググループ（2012）：南海トラフ巨大地震の被害想定について（第一次報告）（平成24年8月29日発表）

<sup>3</sup> 内閣府 南海トラフ巨大地震対策検討ワーキンググループ（2013）：南海トラフ巨大地震の被害想定について（第二次報告）（平成25年3月18日発表）

<sup>4</sup> 内閣府 【参考】南海トラフ巨大地震の被害想定（建物被害・人的被害）（再計算）（令和元年6月）

<sup>5</sup> 内閣府 【参考】南海トラフ巨大地震の被害想定（施設等の被害・経済的な被害）（再計算）（令和元年6月）

<sup>6</sup> 令和元年度宮崎県地震専門部会専門委員については、P.30に記載

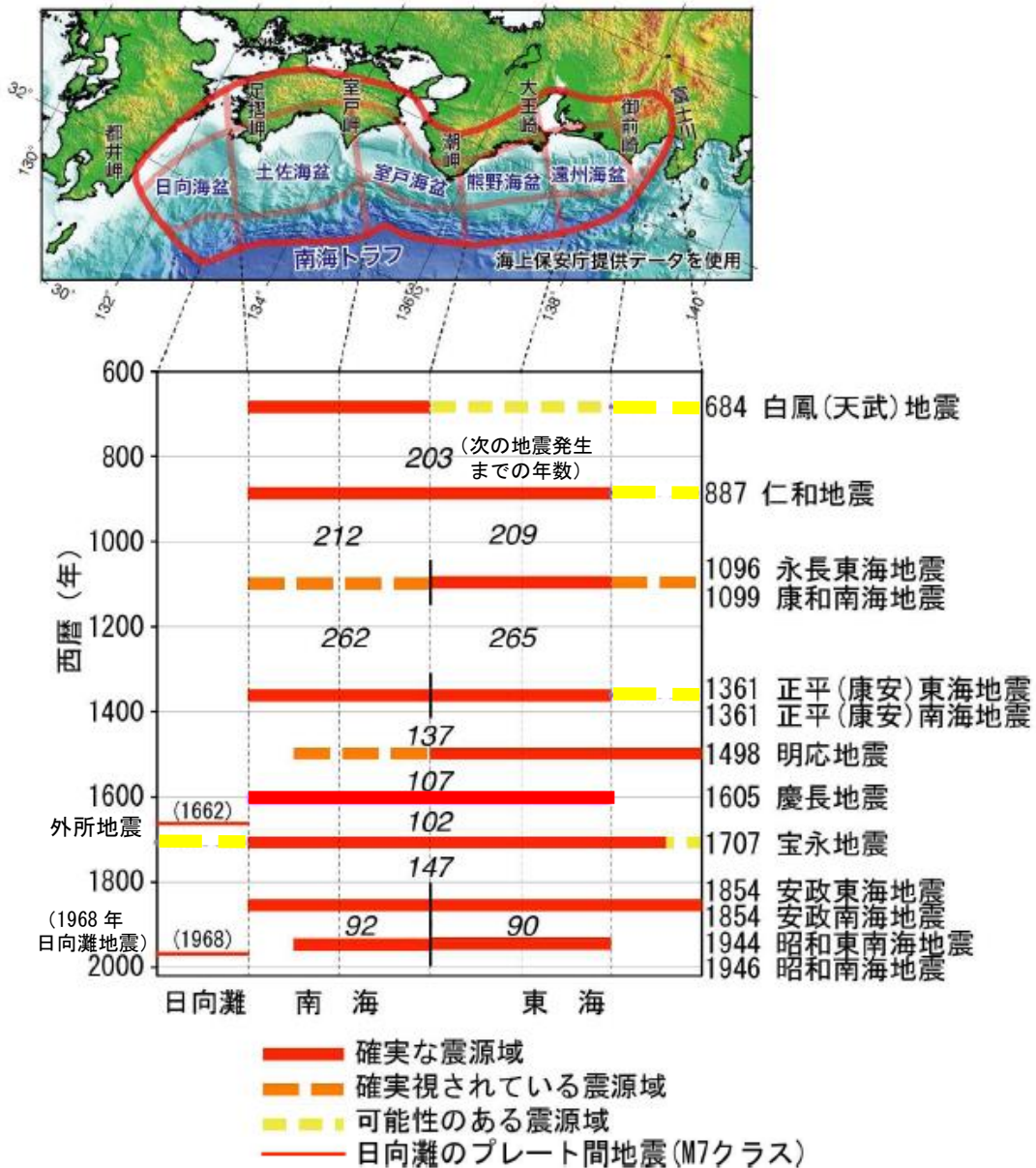


図 南海トラフ沿いの地震の発生状況

参考：地震調査研究推進本部（2013）資料<sup>7</sup>をもとに作成

<sup>7</sup> 地震調査研究推進本部（2013）：南海トラフの地震活動の長期評価（第二版）

# 第1章 津波浸水想定

宮崎県における地震・津波の想定の見直しを含めた対策の総合的な推進は、今後、中・長期的な取り組みとなりますが、まずは、住民の生命を守る観点から、早期に津波避難対策を進めていくことが必要です。

このため、地震動及び物的・人的・経済等の被害の想定に先行して、平成25年2月の宮崎県防災会議地震専門部会（以下「地震専門部会」という。）<sup>8</sup>で、最大クラスの津波（L2津波）による「津波浸水想定」について、専門的な意見を伺い、公表しました。今回の被害想定に用いる津波高等については、平成25年2月に公表されたものになりますが、串間市における浸水想定においては、平成25年当時に航空レーザー測量による地形データ（LPデータ）が未整備なエリアがあったため、その後整備されたデータを取得して、津波浸水想定を更新しました。

また、この作業は、「津波防災地域づくりに関する法律（平成23年法律第123号）」、国土交通省から出された「津波防災地域づくりの推進に関する基本的な指針」や「津波浸水想定の設定の手引き」<sup>9</sup>に沿って行いました。

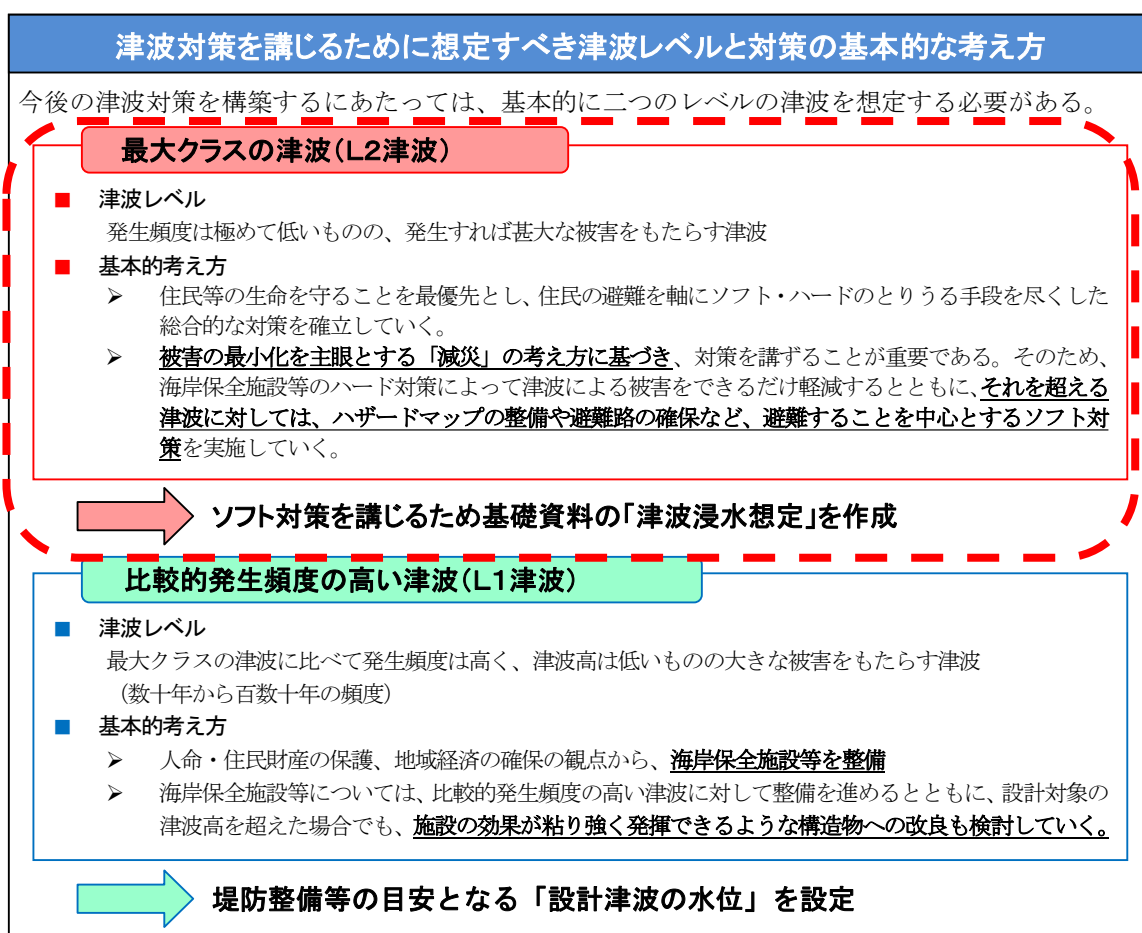


図 1.1 津波対策を講じるために想定すべき津波レベルと対策の基本的な考え方

<sup>8</sup> 平成23年度及び平成24年度宮崎県防災会議地震専門部会専門委員については、P.31に記載

<sup>9</sup> 国土交通省水管理・国土保全局海岸室、国土交通省国土技術政策総合研究所河川研究部海岸研究室（2012）：「津波浸水想定の設定の手引き Ver.2.00」

### 《津波浸水想定にあたって》

宮崎県沿岸に最大クラスの津波をもたらすと想定される津波断層モデルとして、内閣府「南海トラフ巨大地震モデル検討会」公表(2012.8)の11ケースのうち、宮崎県沿岸に大きな影響を及ぼすケース④、⑪を選定しました。

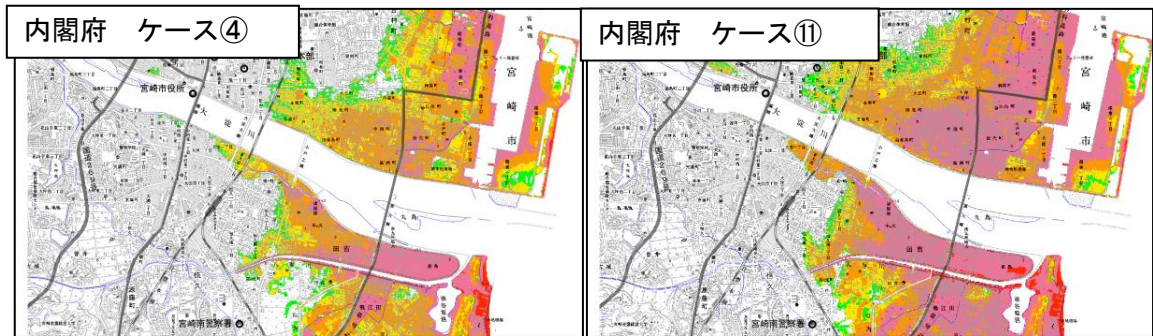
また、日向灘を中心に発生した断層破壊が周辺の領域に影響して広がる、宮崎県独自の断層モデルを想定しました。

以上の計3つのモデルによる津波の想定結果を重ね合わせて、最大クラスの津波を想定しました。

		南海トラフの巨大地震（考える最大クラス）		
対象津波		「南海トラフの巨大地震モデル検討会」 公表（H24.8.29）による想定地震津波 (ケース④) (ケース⑪)		「宮崎県独自モデル」 による想定地震津波
マグニチュード		Mw = 9.1		Mw = 9.1
使用モデル		南海トラフの巨大地震モデル検討会（第二次報告） モデル (以下、内閣府モデル)		宮崎県独自モデル
概要	説明	内閣府が東北地方太平洋沖地震を教訓とし、あらゆる可能性を考慮した最大クラスの巨大な地震・津波として想定。		東北地方太平洋沖地震において、複数の震源域が連動して大規模地震となった現象を踏まえて、防災上の観点から、日向灘で発生する地震による断層破壊が、周辺の一定の領域（セグメント）まで広がった場合の巨大な地震・津波として想定。
	震源域			
	地盤の鉛直方向変動量分			

図 1.2 選定した最大クラスの津波





3つのケースを  
重ね合わせ

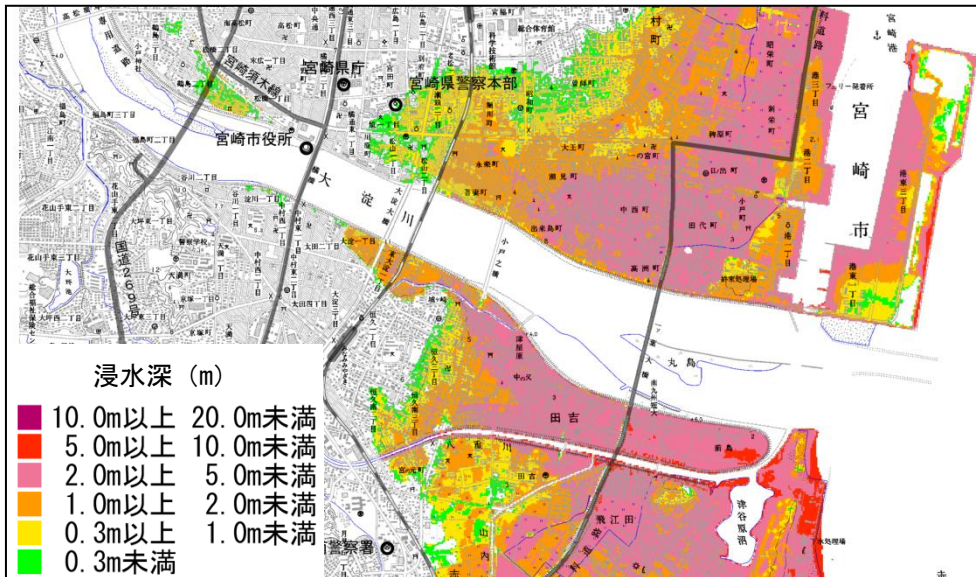


図 1.3 津波浸水想定

表 1.1 各市町の津波高

市町名	津波高の最大値 (m)		津波高の平均値 (m)	
	内閣府 (H24. 8)	宮崎県 (H25. 2)	内閣府 (H24. 8)	宮崎県 (H25. 2)
延岡市	1 4	1 4	1 1	1 1
門川町	1 2	1 2	9	9
日向市	1 5	1 5	1 0	1 0
都農町	1 5	1 5	1 2	1 2
川南町	1 3	1 3	1 1	1 1
高鍋町	1 1	1 1	1 0	1 0
新富町	1 0	1 0	9	9
宮崎市	1 6	1 6	9	9
日南市	1 4	1 4	7	9
串間市	1 7	1 7	7	9
県最大値	1 7	1 7	1 2	1 2

※津波高は、津波水位に地殻変動量を考慮し、メートル以下第2位を四捨五入し第1位を切り上げた数値を表示。

※最大値は市町毎に最も高い値を表示。

※平均値は市町毎に平均を表示。

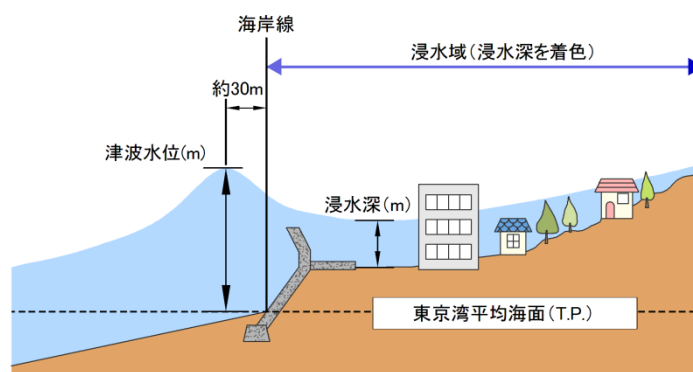


表 1.2 各市町の浸水面積

市町名	浸水面積 (h a)	
	内閣府 (H24.8)	宮崎県 (R02.3)
延岡市	2,920	3,140
門川町	710	690
日向市	2,140	2,130
都農町	350	350
川南町	230	230
高鍋町	600	670
新富町	570	610
宮崎市	3,710	4,010
日南市	840	1,340
串間市	440	1,170
<b>県合計値</b>	<b>12,390</b>	<b>14,360</b>

※浸水面積は、河川等部分を除いた陸域部の浸水深1cm以上の浸水面積。四捨五入の関係で合計の面積は合わない。

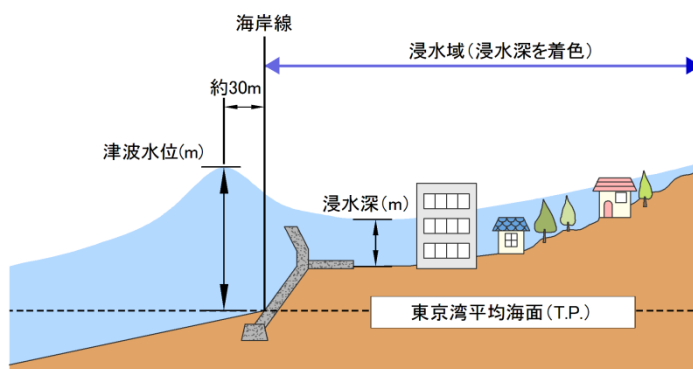
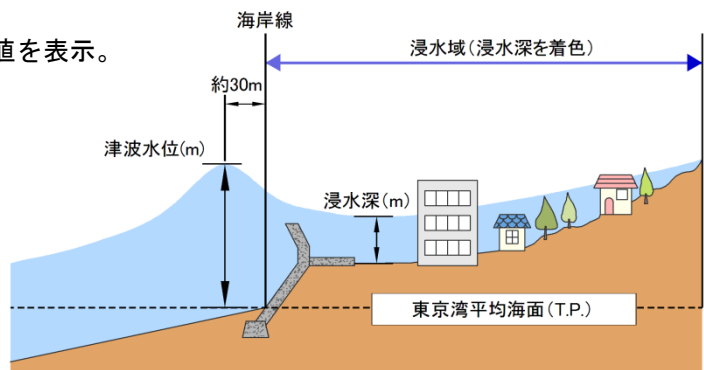


表 1.3 各市町の津波到達時間

市町名	津波到達時間の最短値（分）	
	内閣府 (H24.8)	宮崎県 (H25.2)
延岡市	18	17
門川町	18	16
日向市	18	17
都農町	21	20
川南町	20	20
高鍋町	20	20
新富町	21	21
宮崎市	18	18
日南市	16	14
串間市	18	15
<b>県最短値</b>	<b>16</b>	<b>14</b>

※津波到達時間は、海岸線から沖合約30m地点において、地震発生直後から水位の変化+1mになるまでの時間を表示。

※津波到達時間の最短値は市町毎に最も早い値を表示。



## 第2章 地震動想定

最大クラスの地震による地震動想定（震度分布等）について、平成25年9月の地震専門部会で、専門的な意見を伺い、公表しました。今回の被害想定に用いる地震動想定（震度分布等）については、平成25年10月に公表されたものになります。

### 《地震動想定にあたって》

宮崎県内に最大クラスの揺れをもたらすと想定される強震断層モデルとして、内閣府「南海トラフの巨大地震モデル検討会」公表(2012.8)の4ケースのうち、宮崎県に大きな影響を及ぼす「陸側ケース」を選定しました。

また、日向灘を中心に発生した断層破壊が周辺の領域に影響して広がる、宮崎県独自の断層モデルとして、県南部沖に強震動生成域（SMGA\*）を新たに配置したモデルを想定しました。

以上の計2つのモデルによる地震動の想定結果を重ね合わせて、最大クラスの地震動を想定しました。

表 2.1 内閣府と宮崎県との比較

		内閣府(2012)	宮崎県(2013)
予測手法		統計的グリーン関数法 +震度増幅	統計的グリーン関数法 +震度増幅
震源特性		SMGA*を基本、東側、西側、陸側に設置した4ケース(M9.0)	内閣府(2012)の陸側ケース(M9.0) (以下、内閣府モデル) 宮崎県独自に設定したケース(M8.9) (以下、宮崎県独自モデル)
サイト特性	深い地盤構造 (予測単位)	全国1次モデル <sup>10</sup> (約5km毎)	宮崎県モデル** (約1km毎)
	浅い地盤構造 (予測単位)	中央防災会議(2003)を更新 (約250m毎)	J-SHIS <sup>11</sup> モデルを元に再設定 (約50m毎)

※強震動生成域：強い地震波を発生させる場所

※※全国1次モデルを微動アレイ観測等により更新

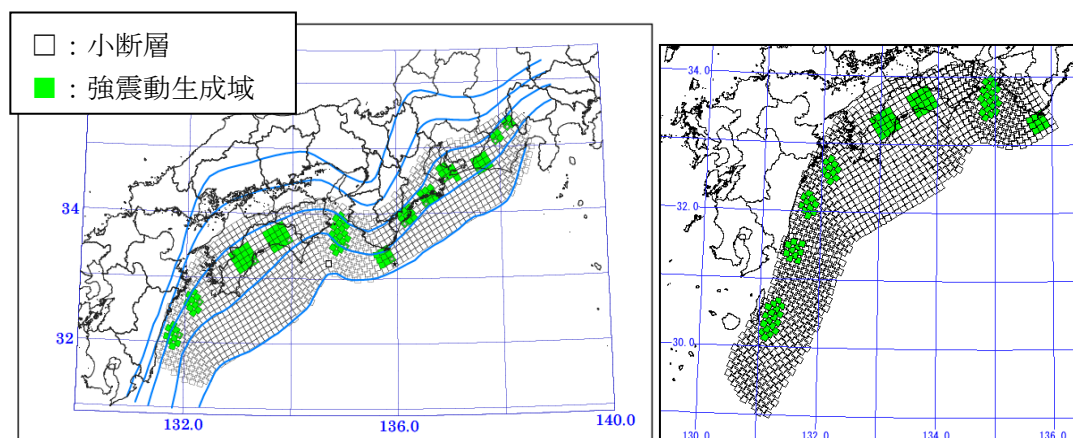
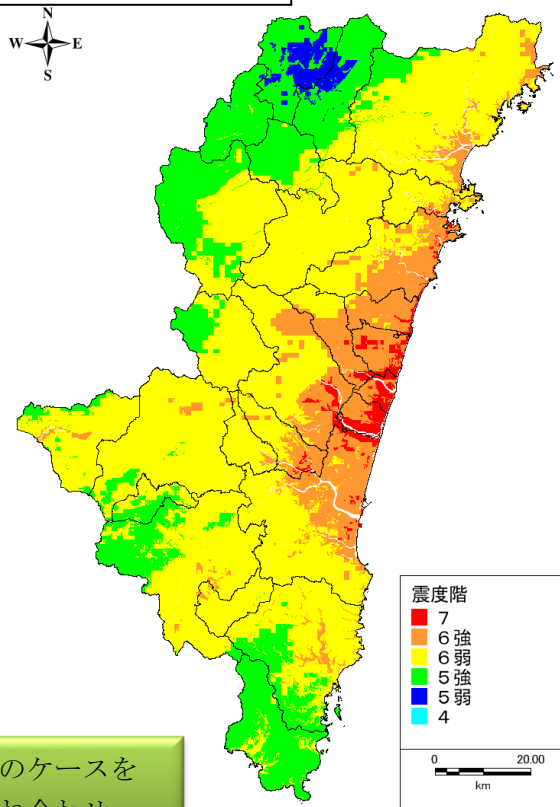


図 2.1 強震断層モデル（左）内閣府モデル（M9.0）、（右）宮崎県独自モデル（M8.9）

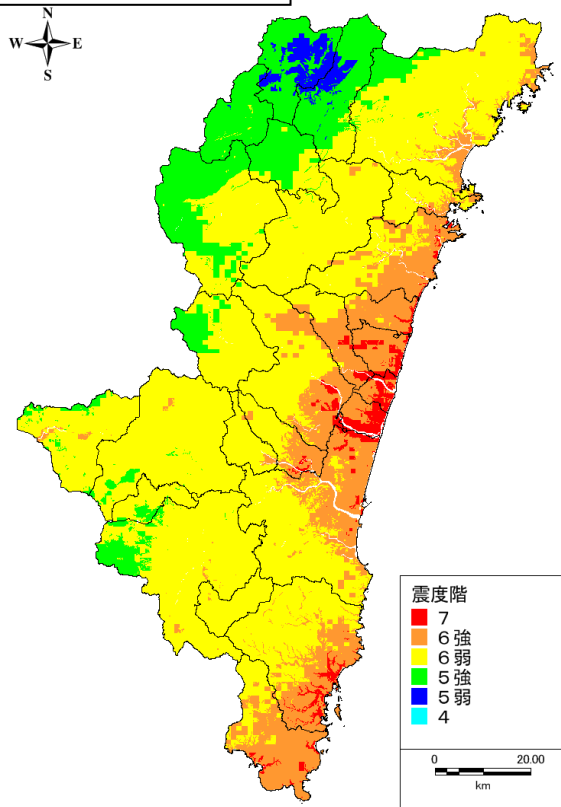
<sup>10</sup> 地震調査研究推進本部（2011）：全国1次地下構造モデル（暫定版）

<sup>11</sup> J-SHIS：地震ハザードステーション、<http://www.j-shis.bosai.go.jp/shm>

内閣府 陸側ケース



宮崎県 独自ケース



2つのケースを  
重ね合わせ

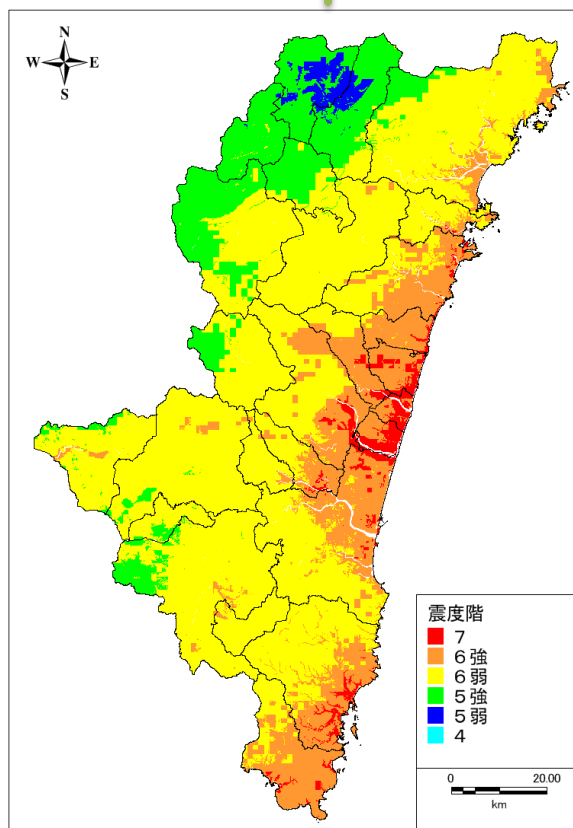


図 2.2 地震動想定（震度分布）

表 2.2 市町村別最大震度一覧

(参 考)

市町村名	内閣府 陸側ケース	宮崎県 独自ケース	宮崎県 (H25.9) 最大値	内閣府 (H24.8) 最大値
宮崎市	7	7	7	7
都城市	6強	6強	6強	6弱
延岡市	7	7	7	6強
日南市	6強	7	7	6強
小林市	6強	6強	6強	6強
日向市	7	7	7	7
串間市	6弱	7	7	6強
西都市	7	7	7	7
えびの市	6強	6強	6強	6強
三股町	6強	6強	6強	6弱
高原町	6弱	6弱	6弱	6弱
国富町	7	7	7	6強
綾町	6強	6強	6強	6弱
高鍋町	7	7	7	7
新富町	7	7	7	7
西米良村	6強	6弱	6強	6弱
木城町	7	7	7	7
川南町	7	7	7	7
都農町	7	7	7	7
門川町	7	7	7	6強
諸塚村	6弱	6弱	6弱	6弱
椎葉村	6弱	6弱	6弱	6弱
美郷町	6強	6強	6強	6弱
高千穂町	6弱	5強	6弱	6弱
日之影町	6弱	6弱	6弱	6弱
五ヶ瀬町	6弱	6弱	6弱	6弱

○最大震度別市町村数

震度7が想定される地域  
(6市7町)

宮崎市、延岡市、日南市、日向市、串間市、西都市、  
国富町、高鍋町、新富町、木城町、川南町、都農町、門川町

震度6強が想定される地域  
(3市3町1村)

都城市、小林市、えびの市、三股町、綾町、美郷町、西米良村

震度6弱が想定される地域  
(4町2村)

高原町、高千穂町、日之影町、五ヶ瀬町、諸塚村、椎葉村

# 第3章 被害想定

## 1 想定にあたって

### (1) 基本的な考え方

今回の被害想定は、宮崎県調査(2013.10)と同様に、内閣府が発表した「南海トラフ巨大地震の被害想定」(2012.8)(2013.3)における考え方及び算定手法を踏襲し、基礎データとなる各種資料(固定資産、インフラ等)については、県内の詳細なデータを収集・整理し反映させることで、より精緻に県内市町村単位での推計を行いました。

宮崎県調査(2013.10)と内閣府(2012.8)(2013.3)における被害想定算定の主な違いは以下のとおりです。

- 被害想定各数値を市町村単位で算定。
- 想定に用いる地震動及び津波モデルに、宮崎県独自に設定したモデルを追加。
- 市町村から固定資産データを収集・整理して、構造・年代区分を正確に反映。
- 市町村の最新の津波避難ビルデータなどを反映。
- 資産等の被害の算定に宮崎県における単価を採用。

なお、今回の想定では、上記のほか、平成30年度実施の県民意識調査による津波避難意識を反映しました。

### (2) 被害想定的前提とする外力(地震動・津波)について

県内に影響の大きい2つのケースについて、以下のとおり想定しました。

#### 【想定ケース①】

内閣府(2012)が設定した強震断層モデル(陸側ケース)、及び津波断層モデル(ケース⑩)を用いて、本県独自に再解析した地震動及び津波浸水の想定結果に基づくケース。

#### 【想定ケース②】

県独自に設定した強震断層モデル及び津波断層モデルによる地震動及び津波浸水の想定結果に基づくケース。

#### ◆被害想定的前提とする外力の整理

内閣府 (2012.8) (2013.3)	・ 強震断層モデル: 4 ケース (基本、東側、西側、陸側) ・ 津波断層モデル: 11 ケース (①~⑪)
内、直接被害の対象にしたモデルは、	強震断層モデル: 2 ケース (基本、陸側) 津波断層モデル: 4 ケース (①, ③, ④, ⑤)
経済被害の対象にしたモデルは、	強震断層モデル: 2 ケース (基本、陸側) 津波断層モデル: 1 ケース (①)
宮崎県 (2013.10)	・ 強震断層モデル: 2 ケース (陸側、宮崎県独自) ・ 津波断層モデル: 3 ケース (④、⑪、宮崎県独自)
内、直接被害の対象にしたモデルは、	強震断層モデル: 2 ケース (陸側、宮崎県独自) 津波断層モデル: 2 ケース (⑪、宮崎県独自)
経済被害の対象にしたモデルは、	強震断層モデル: 2 ケース (陸側、宮崎県独自) 津波断層モデル: 2 ケース (⑪、宮崎県独自)



### (3) 被害想定シーンと条件

- ・シーン（季節・時刻）については、特徴的な3種類を設定（内閣府同様）。
- ・風速については、比較的強い風速毎秒8mを設定（内閣府同様）。
- ・津波避難ビルをはじめとする津波避難場所については、現在（2019.12時点）市町村で指定されているものを設定。
- ・津波に対する避難意識については、平成30年度に実施された県民意識調査による津波避難意識を設定。

シーン設定	想定される被害の特徴
①冬・深夜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くが自宅で就寝中に被災するため、家屋倒壊による死者が発生する危険性が高く、また津波からの避難が遅れることにもなる。</li> <li>・オフィスや繁華街の滞留者や、鉄道・道路利用者が少ない。</li> <li>*屋内滞留人口は、深夜～早朝の時間帯でほぼ一定。</li> </ul>
②夏・昼12時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オフィス、繁華街等に多数の滞留者が集中しており、自宅外で被災するケースが多い。</li> <li>・木造建物内滞留人口は、1日の中で少ない時間帯であり、老朽木造住宅の倒壊による死者数はシーン①と比較して少ない。</li> <li>*木造建物内滞留人口は、昼10時～15時でほぼ一定。</li> <li>*海水浴客をはじめとする観光客が多く沿岸部等にいる。</li> </ul>
③冬・夕18時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住宅、飲食店などで火気使用が最も多い時間帯で、出火件数が最も多くなる。</li> <li>・オフィスや繁華街周辺のほか、ターミナル駅にも滞留者が多数存在する。</li> <li>・鉄道、道路もほぼ帰宅ラッシュ時に近い状況でもあり、交通被害による人的被害や交通機能障害による影響が大きい。</li> </ul>

（出典）南海トラフ巨大地震対策ワーキンググループ：南海トラフ巨大地震の被害想定について（第一次報告）（2012.8）

### (4) 県民意識調査による津波避難意識について

平成30年度に、県内沿岸10市町の津波浸水想定区域内及び区域近隣に居住する県民を対象に、津波避難等に関する県民意識調査<sup>12</sup>を実施しました。アンケートの結果、「就寝中の大地震に避難をするか」という問いに対して、48.7%が「避難する」、19.7%が「避難しない」と回答しました。また、「避難する」と回答した方を対象とし、早期避難と考えられる「揺れが収まったらすぐ」、「津波注意報がでたら」、「津波警報がでたら」、「大津波警報がでたら」と回答した方は77.9%となっています。

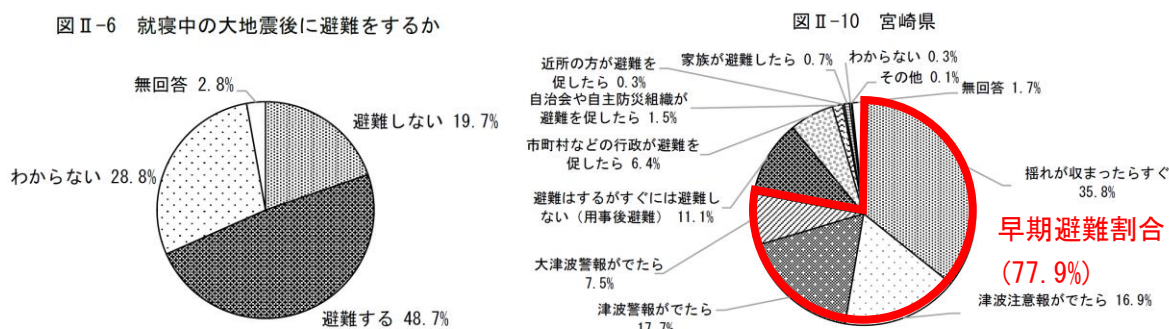


図3-1 県民意識調査によるアンケート結果（宮崎県(2018)より抜粋、加筆）

<sup>12</sup> 宮崎県(2018)：平成30年度津波避難等に関する県民意識調査結果報告書(対象者:対象自治体に居住する満18歳以上の県民6,761人、有効回収数:2,569票(有効回収率38.0%))

今回の想定においては、このアンケート結果を用いて「わからない」「無回答」を除いたデータにより、「避難する」71.2%、「避難しない」28.8%とし、早期避難割合77.9%を用いて、津波による人的被害算定時の早期避難者比率を設定<sup>13</sup>しました。

調査	避難行動別の比率		
	避難する		切迫避難 あるいは 避難しない
	すぐに避難する (直接避難)	避難するがすぐに 避難しない(用事後 避難)	
内閣府調査(2012. 8)	20.0%	50.0%	30.0%
宮崎県調査(2013. 10)	20.0%	50.0%	30.0%
内閣府調査(2019. 6)	28.4%	60.2%	11.4%
宮崎県調査(2020. 3)	55.5%	15.7%	28.8%

## 2 被害想定の特徴

宮崎県調査(2013. 10)では、「想定ケース①」と「想定ケース②」の地震・津波は、いずれも最大クラスの規模であったため、大きな被害が想定されていましたが、これまでの取り組み(耐震改修の促進、津波避難施設の整備や指定、県民の津波避難意識の把握など)により、被害は前回と比べて減少しています。

この2ケースの特徴は以下のとおりです。

「想定ケース①」:

「想定ケース②」に比べて津波浸水域が広く、津波に起因する項目で被害の想定が大きくなる傾向にあります。

「想定ケース②」:

「想定ケース①」に比べて強い揺れの範囲が広く、地震に起因する項目で被害の想定が大きくなる傾向にあります。

### <内閣府(2019. 6)発表との比較>

想定ケース①は、内閣府より想定する地震や津波が大きいです。上述の通り、これまでの取り組みにより、内閣府の想定に比べ全般的に被害が小さくなる傾向にあります。

想定ケース②は、内閣府の断層モデルと異なることから、比較は行っていません。

<sup>13</sup> 「直接避難」(55.5%) = 「避難する」(71.2%) × 「早期避難割合」(77.9%)

### 3 各種被害の想定

#### (1) 建物被害

市町村から提供を受けた固定資産データ等から建物の構造・年代・分布を把握し、過去の地震災害から設定された建物被害率と地震・津波の大きさ等との関係から、各種建物被害を想定しました。

#### <今回の想定にあたって>

平成 25 年度と平成 30 年度に実施された住宅・土地統計調査を用いて推計した住宅の耐震化率は、平成 25 年度と比べておよそ 4%向上<sup>14</sup>しています。また、宮崎県調査(2013. 10)で被害想定に使用した固定資産データと平成 25 年度及び平成 30 年度の固定資産税概要調査を用いた推計により、県内の建物棟数は約 5,000 棟減少しています。

これらを反映したうえで、宮崎県調査(2013. 10)で用いた各種統計データ(急傾斜地崩壊危険箇所整備率(28.4%→30.2%)、消防力(消火可能件数)等)を更新して、各種建物被害を想定しました。

#### <今回の想定結果>

建物被害は、5 つの要因別(液状化による被害、揺れによる被害、急傾斜地崩壊による被害、津波による被害、火災による被害)に想定しますが、複数の要因で重複して被害を起こす可能性があります(例えば、揺れによって全壊した後に津波で流出するなど)。本想定では、前回の想定を踏襲し、被害要因の重複を避けるために、以下の①から⑤の順番で被害の要因を割り当てています。その結果、5 つの要因別の被害量は以下の通りです。

- ①**液状化** : 建築年次が更新されたことで、被害量が減少しています。
- ②**揺れ** : 建物建て替えや耐震改修により耐震化が進んだことにより、被害量が減少しています。
- ③**急傾斜地** : 急傾斜崩壊危険箇所地整備率が向上したことで、急傾斜崩壊箇所は減少していますが、液状化及び揺れによる建物被害が減少した結果、急傾斜地崩壊による被害が増加しています。
- ④**津波** : 液状化及び揺れによる建物被害が減少した結果、津波による被害が増加しています。
- ⑤**地震火災** : 消防力は向上していますので、出火件数が減少した結果、被害は減少しています。

それぞれの要因による建物被害数を集計した結果、宮崎県調査(2013. 10)に比べて、最大の建物全壊・焼失棟数は想定ケース①では、約 8.9 万棟から約 8.0 万棟に、想定ケース②では、約 8.8 万棟から約 7.8 万棟に減少しています。今回の想定結果は、建物の減少数以上に被害が減少しており、建物の建替えなどによる建築年次の更新に加えて、これまでの耐震改修促進計画などの取り組みが成果として表れているものと考えます。

一方で、液状化及び揺れによる被害を免れた結果として、急傾斜地崩壊や津波による被害が増加していますので、別途対策が必要となります。

<sup>14</sup> 宮崎県建築物耐震改修促進計画(2017)では、平成 25 年住宅・土地統計調査により平成 25 年 10 月における住宅の耐震化率を 75.9%としています。今回、平成 30 年住宅・土地統計調査を用いて、同様の手法で住宅の耐震化率を推計しました。

表 3.1-1 想定ケース①による建物被害結果

季節・時間	全壊・焼失	半壊	対象数
冬深夜	約 7.8 万棟	約 11.3 万棟	約 49.2 万棟
夏 12 時	約 7.9 万棟		
冬 18 時	約 8.0 万棟		

※建物全壊焼失率=全壊・焼失棟数/建物数=8.0/49.2=0.1626 16.3%

表 3.1-2 想定ケース②による建物被害結果

季節・時間	全壊・焼失	半壊	対象数
冬深夜	約 7.6 万棟	約 11.8 万棟	約 49.2 万棟
夏 12 時	約 7.6 万棟		
冬 18 時	約 7.8 万棟		

※建物全壊焼失率=全壊・焼失棟数/建物数=7.8/49.2=0.1585 15.9%

(参 考) 表 3.1-3 内閣府(2019.6)発表

季節・時間	全壊・焼失	半壊	対象数
冬深夜	約 6.4 万棟	未公表	未公表
夏 12 時	約 6.5 万棟		
冬 18 時	約 7.5 万棟		

<内閣府(2019.6)発表との比較>

宮崎県調査(2013.10)における想定結果と同様に、想定ケースは、地震と津波による影響が大きいことから、内閣府に比べ、被害が大きくなっています。建築年次の更新や耐震化率の向上により、同じように被害数は減少しています。

## (2) 人的被害

国勢調査などから時間帯ごとの人口分布を把握し、過去の地震災害から設定された人的被害率と建物被害数等との関係から、時間帯別の人的被害を想定しました。

人的被害の算定では、津波による被害が大きくなることから、津波の影響を大きく受ける想定ケース①の方が、被害が大きくなっています。

### <今回の想定にあたって>

平成 27 年度に実施された国勢調査のデータを用いて、人口データを更新しました。人口は宮崎県調査(2013. 10) (平成 22 年度国勢調査) の約 114 万人から約 110 万人に減少しています。また、高齢化率は 25. 8%から 29. 5%となり、高齢化が進んでいます。

これらの人口データに併せて、宮崎県調査(2013. 10)でも用いた各種データを更新しました。なかでも、津波による人的被害の算定時には、2019 年 12 月時点の沿岸 10 市町の最新の津波避難タワーなどの津波避難施設の整備や津波避難ビルの指定箇所と平成 30 年度県民意識調査による津波避難意識を反映しています。避難施設等の箇所数/収容人数は宮崎県調査(2013. 10)の 743 箇所/約 27 万人から 1, 297 箇所/約 177 万人に増加しています。津波避難意識については、P. 13~14 に示した通りです。また、ブロック塀等の転倒による死傷者数については、宮崎県調査(2013. 10)に用いた手法から、地域特性を考慮して、大分県(2008)<sup>15</sup>で用いられた木造棟数とブロック塀数の関係式及び倒壊対象となる塀の割合を用いて算定しました。

### <今回の想定結果>

人的被害は、建物倒壊、急傾斜地崩壊、津波、火災、ブロック塀他による各被害を想定します。それぞれの被害については、以下の通りです。

- ①**建物倒壊** : 建物倒壊数の減少に伴い、人的被害も減少しています。
- ②**急傾斜地崩壊** : 変化はありません。
- ③**津波** : 津波避難施設等による効果は大きく<sup>16</sup>、加えて県民の津波避難意識は前回の想定で用いた避難行動比率よりも高いことから、被害は大きく減少しています<sup>17</sup>。
- ④**火災** : 消防力の向上による火災の出火件数が減少に伴い、人的被害も減少しています。
- ⑤**ブロック塀他** : 地域特性を考慮した想定手法へ変更したことにより、ブロック塀数及び倒壊数が宮崎県(2013. 10)のおよそ 4 倍に増加し、被害者数も増加しています。

それぞれの要因の人的被害数を集計した結果、宮崎県(2013. 10)に比べて、最大の死者数は想定ケース①では、約 3. 5 万人から約 1. 5 万人に、想定ケース②では、約 2. 8 万人から 1. 4 万人に減少しています。

今回の想定結果では、建物倒壊の減少により建物倒壊による死傷者数は減少し、さらに平成 30 年度に実施された県民意識調査による津波避難意識の把握と沿岸 10 市町の最新の津波避難タワーなどの津波避難施設の整備や津波避難ビルの指定による効果により、津波による被害者数が減少しています。これらの取り組みにより、被害は減少しています。

<sup>15</sup> 大分県(2008) : 大分県地震被害想定調査

<sup>16</sup> 津波避難施設等のデータのみ更新して算定した場合、宮崎県調査(2013. 10)と比べて約 1. 1 万人死者数が減少しています (P. 124 上表⇒下表)

<sup>17</sup> 平成 30 年度県民意識調査により避難意識比率を把握した結果、約 8 千人減少しています (P. 124⇒P. 125)

表 3.2-1 想定ケース①による人的被害結果

季節・時間	死者	負傷者	対象数
冬深夜	約 1.5 万人	約 1.8 万人	約 110 万人
夏 12 時	約 1.0 万人	約 1.5 万人	
冬 18 時	約 1.0 万人	約 1.6 万人	

※人的被害率=死者数/人口=1.5/110=0.0136 1.4%

表 3.2-2 想定ケース②による人的被害結果

季節・時間	死者	負傷者	対象数
冬深夜	約 1.4 万人	約 2.0 万人	約 110 万人
夏 12 時	約 1.0 万人	約 1.6 万人	
冬 18 時	約 1.0 万人	約 1.7 万人	

※人的被害率=死者数/人口=1.4/110=0.0127 1.3%

(参 考) 表 3.2-3 内閣府(2019.6)発表

季節・時間	死者	負傷者	対象数
冬深夜	約 2.3 万人	約 1.9 万人	未公表
夏 12 時	約 1.2 万人	約 1.8 万人	
冬 18 時	約 1.3 万人	約 1.5 万人	

<内閣府(2019.6)発表との比較>

内閣府の想定と比べて、被害は小さくなっています。津波による被害にかかわる避難行動別の比率は、内閣府の想定の方がより被害軽減効果が高い<sup>18</sup>と考えられますが、最新の津波避難施設等のデータを反映した結果として、内閣府の想定よりも被害が小さくなったものと考えられます。

<sup>18</sup> P.14に示した通り、内閣府調査(2019.6)では、「切迫避難あるいは避難しない」比率が11.4%と低い値となっており、多くの被災者が避難行動をとることから、被害がより軽減されます。

### (3) ライフライン被害

各種団体が発行している統計資料や事業者から直接提供を受けた資料より、ライフライン敷設状況などの現況を把握し、過去の地震災害から設定されたライフライン被害と揺れ・津波の大きさ等との関係から、被害を想定しました。さらに、過去の事例より復旧状況を適用することで、地震発生後の時間推移ごとの被害の復旧状況を想定しました。

#### <今回の想定にあたって>

- ①**上水道**：水道普及率による給水人口と水道事業における耐震化の状況(耐震管適合率(平成25年度27.1%→平成29年度32.8%)<sup>19)</sup>を反映しました。
- ②**下水道**：汚水処理人口普及状況(平成25年度末81.6%→平成30年度末85.9%)<sup>20)</sup>を用いて、最新の処理人口を反映しました。
- ③**電力**：用途別電灯電力需要実績<sup>21)</sup>から最新の電灯需要軒数を反映しました。また、電柱本数を電力会社配電設備資料から算定しました。
- ④**通信**：情報通信白書<sup>22)</sup>より固定電話の加入契約者数の推移を用いて、固定電話及びIP電話加入数を算定しました。
- ⑤**都市ガス**：都市ガス需要家数<sup>23)</sup>を用いて、最新の需要家数を反映しました。

これらの宮崎県調査(2013.10)で用いた各種統計データを更新して、ライフライン被害を想定しました。

#### <今回の想定結果>

- ①**上水道**：水道施設の耐震化と給水人口の減少により、宮崎県調査(2013.10)に比べて断水人口は減少しています。
- ②**下水道**：下水道の普及により汚水処理人口が増加したため、宮崎県調査(2013.10)に比べ支障人口が大きくなっています。
- ③**電力**：建物被害の減少により電線被害、電柱被害は減少し、停電軒数は減少しますが、電灯需要軒数の増加に伴い、宮崎県調査(2013.10)に比べ停電軒数が大きくなっています。
- ④**通信**：建物被害の減少により電線被害、電柱被害は減少し、不通回線率は減少します。さらに固定電話回線数の減少により、宮崎県調査(2013.10)に比べ不通回線数が減少しています。
- ⑤**都市ガス**：供給戸数は減少していますが、建物倒壊の減少により被害を受けない需要戸数が増加したため、被害(影響)数が大きくなっています。

<sup>19)</sup> 厚生労働省(2014,2019)：水道事業における耐震化の状況(平成25年度,平成29年度)

<sup>20)</sup> 農林水産省・国土交通省(2014,2019)：汚水処理人口普及状況(平成25年度,平成30年度)

<sup>21)</sup> 資源エネルギー庁(2019)：電力調査統計

<sup>22)</sup> 総務省(2019)：情報通信白書

<sup>23)</sup> 宮崎県(2019)：第135回(平成30年度)宮崎県統計年鑑

表 3.3-1 想定ケース①によるライフライン被害結果

項目	直後	1週間後	1ヶ月後	対象数
① 上水道(断水人口)	約 103 万人	約 68 万人	約 24 万人	約 107 万人
② 下水道(支障人口)	約 67 万人	約 35 万人	約 32 万人	約 71 万人
③ 電力(停電件数)	約 58 万軒	約 5.9 万軒		約 64 万軒
④ 通信(固定電話不通回線数)	約 31 万回線	約 4.7 万回線	約 2.3 万回線	約 34 万回線
⑤ 都市ガス(供給停止戸数)	約 3.4 万戸	約 2.2 万戸	—	約 8.1 万戸

注) — : わずか

表 3.3-2 想定ケース②によるライフライン被害結果

項目	直後	1週間後	1ヶ月後	対象数
① 上水道(断水人口)	約 103 万人	約 69 万人	約 23 万人	約 107 万人
② 下水道(支障人口)	約 67 万人	約 25 万人	約 21 万人	約 71 万人
③ 電力(停電件数)	約 59 万軒	約 4.7 万軒		約 64 万軒
④ 通信(固定電話不通回線数)	約 31 万回線	約 3.8 万回線	約 1.8 万回線	約 34 万回線
⑤ 都市ガス(供給停止戸数)	約 3.9 万戸	約 2.6 万戸	—	約 8.1 万戸

注) — : わずか

(参 考) 表 3.3-3 内閣府(2019.6)発表

項目	直後	1週間後	1ヶ月後	対象数
① 上水道(断水人口)	約 97 万人	約 67 万人	約 19 万人	約 100 万人
② 下水道(支障人口)	約 64 万人	約 43 万人	約 6.4 万人	約 65 万人
③ 電力(停電件数)	約 62 万軒	約 3.7 万軒		約 70 万軒
④ 通信(固定電話不通回線数)	約 15 万回線	約 1.6 万回線	約 1.2 万回線	約 18 万回線
⑤ 都市ガス(供給停止戸数)	約 4.2 万戸	約 3.1 万戸	—	未公表

注) — : わずか

<内閣府(2019.6)発表との比較>

- ①上水道：地震と津波の違いより、内閣府に比べ被害が大きくなっています。
- ②下水道：内閣府と比べて復旧状況が異なるのは、処理場の復旧が長期化する（1ヶ月超）という考え（国土交通省）を反映したためです。
- ③電力：内閣府と比べて1週間後の被害に違いが生じているのは、強い揺れにより復旧が遅くなる箇所が多くなっていることによるものと推定されます。
- ④通信：内閣府と比べて被害が大きいの、IP電話加入数も含むためです。
- ⑤都市ガス：内閣府では供給戸数が未公表であるため、比較は行わないことにします。



#### (4) 交通施設被害

財) 日本デジタル道路地図協会 DRM (Digital Road Map) データや庁内関係機関より直接提供を受けた資料より、交通施設の現況を把握し、過去の地震災害から設定された交通施設被害と地震・津波の大きさ等との関係から、各項目の被害を想定しました。

##### <今回の想定にあたって>

- ①道路施設：2019年9月時点の全国デジタル道路地図データベース DRM を用いました。
- ②鉄道施設：2018年12月時点のデータを用いました。
- ③港湾施設：2019年12月時点のデータを用いました。
- ④漁港施設：2019年12月時点のデータを用いました。

##### <今回の想定結果>

- ①道路施設：道路延長が増加に伴い、被害数も宮崎県調査(2013.10)と比べて増加しています。想定ケース①、②では、被害の内訳において、地震と津波による影響の違いからそれぞれの被害は異なりますが (P56, 57 参照)、全体の被害想定では大きな違いはありません。
- ②鉄道施設：鉄道延長に変化はありませんので、被害数は宮崎県調査(2013.10)と変わりません。想定ケース①、②では、県南部への強い揺れの影響により、想定ケース②の被害が大きくなっています。
- ③港湾施設： } 対象施設数の増加に伴い、被害数も宮崎県調査(2013.10)と比べて増加し
- ④漁港施設： } ています。想定ケース①、②では、県南部への強い揺れの影響により、想定ケース②の被害が大きくなっています。

表 3.4-1 想定ケース①による交通施設被害結果

項目		被害	対象数
① 道路施設		約 1,500 箇所	約 15,000km
② 鉄道施設		約 660 箇所	約 320km
③ 港湾施設	岸壁	約 33 箇所	62 箇所
	その他係留施設	約 110 箇所	226 箇所
④ 漁港施設	岸壁	約 38 箇所	71 箇所
	その他係留施設	約 107 箇所	214 箇所

表 3.4-2 想定ケース②による交通施設被害結果

項目		被害	対象数
① 道路施設		約 1,500 箇所	約 15,000km
② 鉄道施設		約 720 箇所	約 320km
③ 港湾施設	岸壁	約 44 箇所	62 箇所
	その他係留施設	約 173 箇所	226 箇所
④ 漁港施設	岸壁	約 53 箇所	71 箇所
	その他係留施設	約 164 箇所	214 箇所

(参 考) 表 3.4-3 内閣府(2019.6)発表

項目		被害	対象数
① 道路施設		約 1,900 箇所	未公表
② 鉄道施設		約 640 箇所	未公表
③ 港湾施設	岸壁	約 50 箇所	103 箇所
	その他係留施設	約 50 箇所	114 箇所
④ 漁港施設	岸壁		
	その他係留施設		

<内閣府(2019.6)発表との比較>

- ①道路施設： } 内閣府(2019.6)発表の対象数が未公表のため、比較は行わないこととします。
- ②鉄道施設： }
- ③港湾施設： 内閣府(2019.6)発表の対象数が想定ケースのデータと大きく違うため、比較は行わないこととします。なお、対象数が異なるのは、施設の定義が違うことによるものです。
- ④漁港施設： <内閣府(2019.6)発表では想定なし>比較は行わないこととします。

## (5) その他の被害

(1)建物被害や(3)上水道被害の復旧状況に、過去の地震災害から設定された一定の率を掛け合わせることで、発生する避難者や災害廃棄物量を想定しました。孤立集落については、想定した地震や津波浸水と重ね合わせることで、可能性のある集落数を抽出しました。

### <今回の想定にあたって>

- ①**避難者**：今回更新した各建物被害量と断水率を用いて避難者数を求めました。
- ②**避難所の要配慮者**：①の避難所における避難者数と別途各種統計資料等からまとめた要配慮者数から避難所における要配慮者数を求めました。
- ③**災害廃棄物等**：内閣府(2019.6)では想定手法が「災害廃棄物対策指針(技術資料)」(環境省(2014))における災害廃棄物量の推計の考え方に準拠したものになりました。この新たな手法では、これまで阪神・淡路大震災をもとにした発生原単位(全壊：105トン/棟)から東日本大震災における被害を基とした発生原単位(全壊：117トン/棟)に変更になっています。今回の想定では、同手法を用いて被害量を算定しました。
- ④**孤立集落**：「中山間地等の集落散在地域における孤立集落発生の可能性に関する状況フォローアップ調査(第2回)(平成26年10月公表)」(内閣府)において、孤立可能性があるとされた集落を被害想定の対象としました。

これらの宮崎県(2013.10)で用いた各種データを更新して、その他の被害を想定しました。

### <今回の想定結果>

- ①**避難者**：死者数の減少に伴い、避難者数は増加しますが、人口の減少と建物被害数の減少により、避難者数は減少しています。
- ②**避難所の要配慮者**：対象数は増加していますが、避難者数と同様の理由で、避難所における要配慮者も減少しています。
- ③**災害廃棄物等**：想定手法が東日本大震災をもとにした発生原単位を用いるものに変更になり、津波被害による災害廃棄物の性状(土砂の混入・付着)を反映したものになった結果、災害廃棄物量は増加しています。一方で、津波堆積物量は、宮崎県調査(2013.10)における津波堆積高を2.5cm～4cmと設定した手法から宮城県及び岩手県2件の数値を用いて算出した発生原単位を用いることになった結果、減少しています。災害廃棄物と津波堆積物の合計量は前回と同程度の値となっています。
- ④**孤立集落**：宮崎県調査(2013.10)と比較して大きな違いはありませんが、孤立可能性があるとされた集落の分布の変化に伴い、箇所数も変化しています。

表 3.5-1 想定ケース①によるその他の被害結果

項目	1日後	1週間後	1ヵ月後	対象数
①避難者	約 31 万人	約 37 万人	約 36 万人	約 110 万人
②避難所の要配慮者	約 4.3 万人	約 5.2 万人	約 2.4 万人	約 28 万人
項目	災害廃棄物	津波堆積物	合計	
③災害廃棄物等	約 1200 万トン	約 330 万トン	約 1,500 万トン	
項目	可能性のある集落	対象数		
④孤立集落	71 箇所	577 箇所		

表 3.5-2 想定ケース②によるその他の被害結果

項目	1日後	1週間後	1ヵ月後	対象数
①避難者	約 30 万人	約 37 万人	約 36 万人	約 110 万人
②避難所の要配慮者	約 4.3 万人	約 5.1 万人	約 2.4 万人	約 28 万人
項目	災害廃棄物	津波堆積物	合計	
③災害廃棄物等	約 1100 万トン	約 360 万トン	約 1,500 万トン	
項目	可能性のある集落	対象数		
④孤立集落	91 箇所	577 箇所		

(参 考) 表 3.5-3 内閣府(2019.6)発表

項目	1日後	1週間後	1ヵ月後	対象数
①避難者	約 31 万人	約 35 万人	約 34 万人	未公表
②避難所の要配慮者	未公表	未公表	未公表	未公表
項目	災害廃棄物	津波堆積物	合計	
③災害廃棄物等	約 1000 万トン	約 200 万トン	約 1,200 万トン	
項目	可能性のある集落	対象数		
④孤立集落	40 箇所	未公表		

<内閣府(2019.6)発表との比較>

- ①避難者：内閣府(2019.6)発表では対象数が未公表のため、比較は行わないことにします。
- ②避難所の要配慮者：<内閣府(2019.6)発表では想定なし>比較は行わないことにします。
- ③災害廃棄物等：建物被害や浸水域の違いにより、災害廃棄物及び津波堆積物の被害はそれぞれにおいて若干異なりますが、全体の被害量は大きな違いはありません。
- ④孤立集落：想定ケースは、揺れと津波による影響が大きいことから、内閣府に比べ、被害が大きくなっています。

## (6) 経済被害

(1)建物被害～(5)その他の被害で求めた各種被害に原単位(単価)を掛け合わせることで、資産等の被害額を想定しました。

(2)で求めた人的被害などから、労働力の減少分を加味して、生産・サービス低下による影響を想定しました。

道路交通センサス<sup>24</sup>より県内の交通量を把握し、(4)で求めた各種交通施設被害等より、交通寸断による物流への影響を想定しました。

### <今回の想定結果>

- ①**資産などの被害額**：建物被害数が減少しているため、宮崎県調査(2013.10)と比べて被害額が減少しています。
- ②**生産・サービス低下による影響**：人的被害数が減少しているため、宮崎県調査(2013.10)と比べて被害額が減少しています。
- ③**交通寸断による影響**：東九州自動車道日向 IC～都農 IC 区間の開通に伴い、被害が減少しています。

表 3.6-1 想定ケース①による経済被害結果

項目	被害
資産などの被害額	約 5.0 兆円
生産・サービス低下による影響	約 0.9 兆円
交通寸断による影響	約 0.9 兆円

表 3.6-2 想定ケース②による経済被害結果

項目	被害
資産などの被害額	約 4.9 兆円
生産・サービス低下による影響	約 0.8 兆円
交通寸断による影響	約 0.9 兆円

(参考 1) 平成28年 宮崎県 総生産 約36,840億円

(参考 2) 令和元年度 宮崎県 一般会計予算 約 5,955億円

### <内閣府(2019.6)発表との比較>

内閣府(2019.6)発表での、経済被害の想定は、東海地方で大きな被害が想定されるケースとなる「ケース①」のみを対象としているため、比較は行わないこととします。

<sup>24</sup> 国土交通省九州地方整備局：道路交通センサス自動車 OD 表、H27

## 第4章 減災効果

この章では、今後、各種地震・津波対策を進めることによって、どの程度被害が軽減できるかについて試算しました。

巨大地震への対応については、震度6弱から震度7の強い揺れが広範囲で発生すると想定しましたが、**これまで同様に**従来から進めてきた耐震対策をより一層着実に進めることが重要です。

一方、巨大津波への対応については、**宮崎県調査(2013.10)と比べて、津波避難ビルなどの避難施設が位置、収容人数ともに十分に確保できるようになり<sup>25</sup>、平成30年に実施された県民意識調査では、津波避難意識がこれまでの想定よりも高いことが確認できました。この避難意識により、津波の被害数は大きく変化します。住民一人ひとりが主体的かつ迅速に避難行動がとれるよう対策を講じていくことが必要です。**

特に避難訓練などのソフト対策は、継続的に実施すれば必ず効果を発揮するものであり、確実に積み重ねていくことが重要です。

### 1 建物被害の減災効果

県の建築物の耐震化率は、平成26年度末時点で77.0～99.8%<sup>26</sup>です。このうち、住宅の耐震化率<sup>27</sup>を90%にすることによって、揺れによる建物被害が大きく軽減され、「想定ケース①」では、約8.0万棟→約5.9万棟に、「想定ケース②」では、約7.8万棟→約5.2万棟に軽減することが見込めます。

このうち、揺れによる被害の減災効果は、「想定ケース①」では、約4.1万棟→約1.9万棟に、「想定ケース②」では、約4.8万棟→約2.2万棟に軽減することが見込めます。

今回の想定結果では、揺れによる被害を免れた建物が津波・火災による被害を受けることが示されました。さらなる被害の軽減には、耐震化率の向上に加えて、津波浸水リスクを考慮した土地利用や、感震ブレーカーの設置などによる出火防止なども重要です。

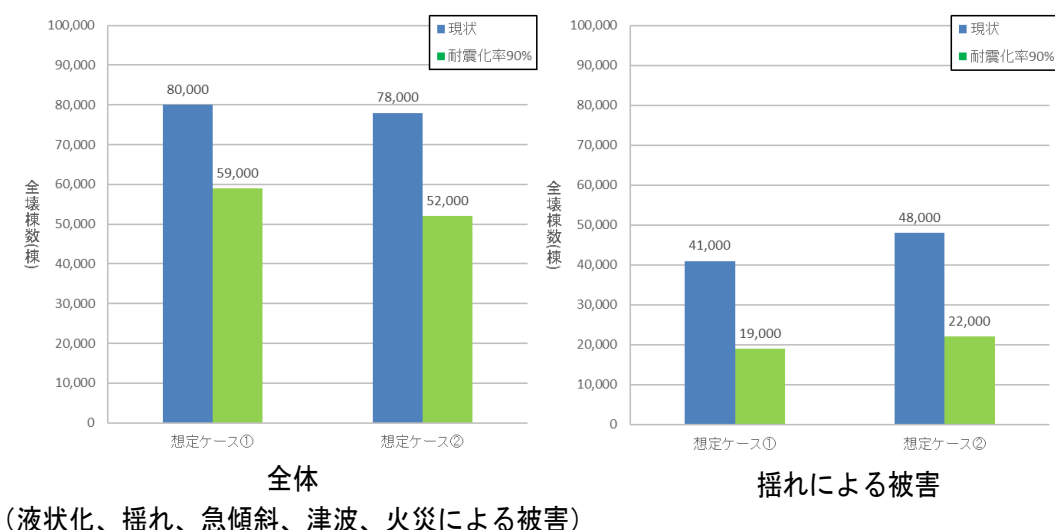


図 4.1 耐震化による建物被害の減災効果

<sup>25</sup> 今回、津波避難施設等による効果の少ない自治体は、宮崎県調査(2013.10)で既に整備済みであったといえます。

<sup>26</sup> 宮崎県(2017)：宮崎県耐震改修促進計画(2017)（平成26年度末の県の建築物の耐震化率：住宅77.0%、特定建築物93.5%、公共建築物96.8%（うち、県有施設99.8%）、民間建築物90.7%）

<sup>27</sup> 宮崎県耐震改修促進計画(2017)により、平成25年時点の住宅の耐震化率は、平成25年住宅・土地統計調査から75.9%となっています。平成30年住宅・土地統計調査を用いた推計では、平成30年の住宅の耐震化率は平成25年度から約4%向上しています。

## 2 人的被害の減災効果

平成 25 年実施の被害想定以降、宮崎県内においてさらに多くの津波避難施設などが指定され、また、県民の避難意識の把握により、最大の死者数が、「想定ケース①」では宮崎県調査(2013.10)の約 3.5 万人→約 1.5 万人に、「想定ケース②」では、約 2.8 万人→約 1.4 万人に減っており、一定の減災効果が示されています。

### (1) 建物の耐震化

宮崎県調査(2013.10)から耐震化率が向上したことで、建物の倒壊による死傷者は減少していますが、さらなる耐震化は、被害の軽減だけでなく、出火件数、自力脱出困難者の減少に伴う、延焼火災、津波浸水による被害も軽減することができます。さらに、これ以外にも、津波避難路となる道路の閉塞可能性の低減や円滑な避難にも効果があると考えられます。

### (2) 津波に対する早期避難の実施

津波避難意識の把握の結果、前回想定時の避難意識の割合(ア)よりも意識率は高くなっていますが、所期の目標である(ウ)には達しておりません。意識の低下は被害者数の増加につながることから、より一層のソフト対策が重要と考えられます。

以上の対策から「想定ケース①」では、死者が約 1.5 万人→約 0.3 万人に、「想定ケース②」では、約 1.4 万人→約 0.3 万人に軽減することが見込めます。

表 4.1 人的被害の減災効果

		避難行動別の比率		
		避難する		切迫避難あるいは避難しない
		すぐに避難する (直接避難)	避難するがすぐには避難しない (用事後避難)	
(ア)	前回想定時の避難意識の割合	20%	50%	30%
(イ)	県民意識調査による避難意識を反映した場合	55.5%	15.7%	28.8%
(ウ)	早期避難者比率が高い場合(避難呼びかけ)	70%	30%	0%

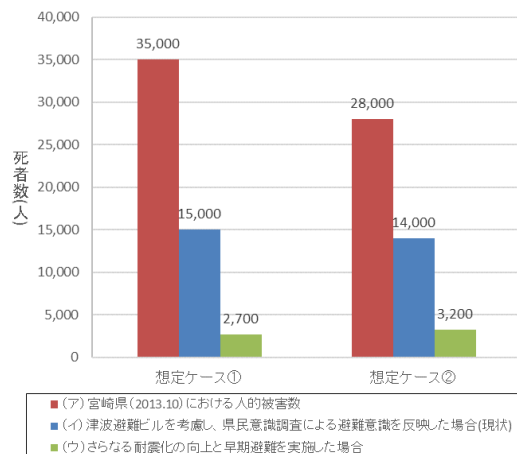


図 4.2 人的被害の減災効果

### (3) その他

耐震化や早期避難を高めること以外にも、これまで実施してきた「ハード対策」や「家具等の転倒防止対策」、「消防力強化」や内閣府(2019.6)で示された「地震ブレーカー設置による出火防止」などの対策を併せて進めることによって、更なる被害軽減を見込めます。

### 3 経済被害の減災効果

これまでの建物被害や人的被害の減災に向けた取り組みにより、資産等の被害額は宮崎県調査(2013.10)に比べて減少しています。

耐震化や早期避難を実現させることによって、物的・人的被害を軽減することが、さらなる経済的な被害の減少にもつながります。

経済被害については、「想定ケース①」では、資産等の被害額が約 5.0 兆円→約 4.3 兆円、生産・サービス低下の被害額が約 0.9 兆円→約 0.8 兆円、交通寸断による物流停滞等による被害額が約 0.9 兆円→約 0.8 兆円と見込めます。

また、「想定ケース②」では、資産等の被害額が約 4.9 兆円→約 4.2 兆円、生産・サービス低下の被害額が約 0.8 兆円→約 0.7 兆円、交通寸断による物流停滞等による被害額が約 0.9 兆円→約 0.8 兆円と見込めます。

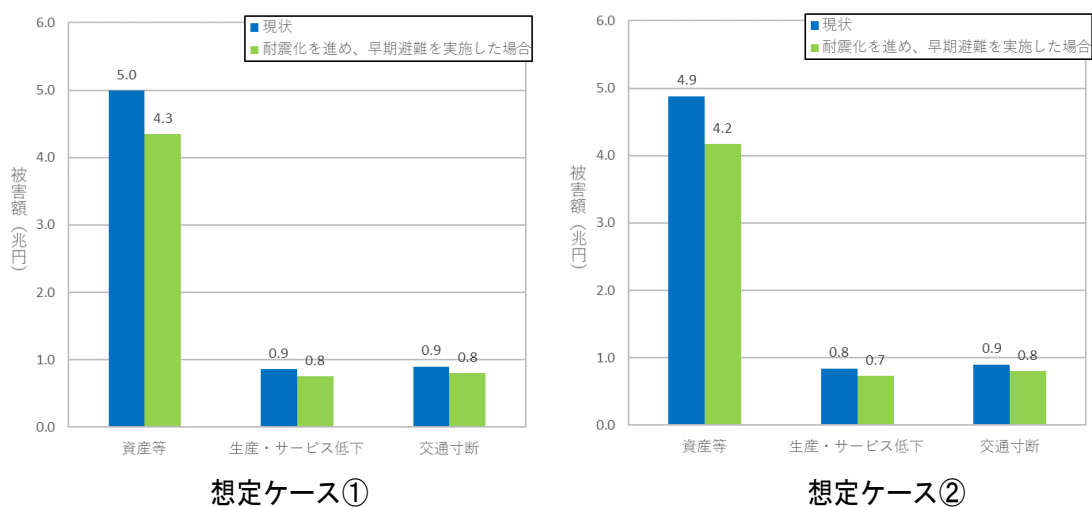


図 4.3 経済被害減災効果



#### 4 これまでの取り組みと今後の課題

本県では、平成 25 年に被害想定を公表して以降、「新・宮崎県地震減災計画」に基づき庁内関係各課はもとより、各自治体と連携しながら津波避難タワーなどの津波避難施設の整備やライフライン・インフラ整備などのハード対策のほか、津波避難ビル等の指定や避難訓練の実施、さらには防災出前講座や耐震化を促進するための啓発活動などのソフト対策に取り組んできているところです。

今回、これらの取り組みにより、建物被害、人的被害、経済被害などに一定の効果があつた一方で、様々な課題も明らかになりました。

主な課題としては、県全体の人口減少が進む中、津波浸水域内に新たなコミュニティが形成され地域によっては人口が増えているところもありました。また、高齢化の進行や地域の繋がりが希薄化するとともに、多様な国籍の住民や観光客も増加傾向にあります。

さらには、前回調査から人的被害は減少した一方で震災関連死の増加が懸念されるところです。

このことから、「自助」・「公助」の力の向上に加え、地域の特性に応じた「共助」による防災活動の取り組みが必要であると考えます。

また、これまでの被災自治体へのアンケート調査などによると、災害に対する意識は時間の経過とともに風化していくと言われていています。今回の調査において、仮に指定された場所などへ住民が全く避難しない場合は、約 12 万人の犠牲者が発生することが確認されました。

これからも、啓発活動は継続して取り組んでいくことが重要であると考えます。

加えて、インフラ整備等については、県民の早期避難、救助活動等の災害応急対策、復旧・復興対策において極めて重要であることから、引き続き強力で推進していく必要があります。

以上のような課題や今回の調査結果を踏まえ、県では「新・宮崎県地震減災計画」を見直すとともに、この計画に基づき、引き続き「建物の耐震化率 90%」および「住民の早期避難率 70%」の達成に向けて防災・減災に取り組み、「誰一人取り残さない」「逃げ遅れゼロ」の実現を目指してまいります。

令和元年度宮崎県防災会議地震専門部会 専門委員

	職 名 〔専門分野〕	氏 名
専 門 委 員	香川大学 特任教授 学長特別補佐 四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構副機構長、 地域強靱化研究センター長 〔減災科学・海底地震学〕	金田 義行
	宮崎大学 工学部 名誉教授 〔地震工学・地震防災工学〕	原田 隆典
	宮崎大学 教育学部 家政教育 特別教授 〔住生活学・家政学（住環境）〕	米村 敦子
	宮崎大学 工学部 国際教育センター 教授 〔水工土木学・海岸工学〕	村上 啓介
	千葉大学 大学院 工学研究院 融合理工学府 地球環境科学専攻都市環境システムコース 教授 〔都市防災・地震工学〕	丸山 喜久
	宮崎大学 工学部 社会環境システム工学科 准教授 〔地盤工学〕	福林 良典
	京都大学 防災研究所附属地震予知研究センター 助教 海溝型地震領域 〔観測地震学・海底地震学〕	山下 裕亮
	宮崎県県土整備部長	瀬戸長 秀美
委 員	宮崎地方気象台長	吉松 和義
	宮崎県総務部危機管理統括監	藪田 亨

平成 23 年度及び平成 24 年度宮崎県防災会議地震専門部会 専門委員

(左：平成23年度、右：平成24年度)

(50音順)

	職名 (専門分野)	氏名		職名 (専門分野)	氏名
専 門 委 員	宮崎大学工学部 土木環境工学科 教授 〔地盤工学・防災工学〕	亀井 健史	専 門 委 員	宮崎大学工学部 土木環境工学科 教授 〔地盤工学・防災工学〕	亀井 健史
	大分大学工学部 福祉環境工学科建築コース 教授 〔建築構造設計〕	菊池 健児		大分大学工学部 福祉環境工学科建築コース 教授 〔建築構造設計〕	菊池 健児
	九州大学大学院 理学研究院附属・地震火山観測 研究センター長 〔火山物理学・地震学〕	清水 洋		九州大学大学院 理学研究院附属・地震火山観測 研究センター長 〔火山物理学・地震学〕	清水 洋
	長崎大学大学院 工学研究科 名誉教授 〔防災工学、構造振動学〕	高橋 和雄		長崎大学大学院 工学研究科 名誉教授 〔防災工学、構造振動学〕	高橋 和雄
	東京大学地震研究所 教授 (東京大学地震研究所附属火山噴 火予知研究推進センター長) 〔自然地震学〕	武尾 実		東京大学地震研究所 教授 (東京大学地震研究所附属火山噴 火予知研究推進センター長) 〔自然地震学〕	武尾 実
	宮崎大学工学部 土木環境工学科 教授 〔地震工学・地震防災工学〕	原田 隆典		宮崎大学工学部 土木環境工学科 教授 〔地震工学・地震防災工学〕	原田 隆典
	宮崎大学工学部 土木環境工学科 准教授 〔水工水文学・海岸工学〕	村上 啓介		宮崎大学工学部 土木環境工学科 准教授 〔水工水文学・海岸工学〕	村上 啓介
	千葉大学大学院 工学研究科 都市環境システム学科 教授 〔都市防災・地震工学〕	山崎 文雄		千葉大学大学院 工学研究科 都市環境システム学科 教授 〔都市防災・地震工学〕	山崎 文雄
宮崎県県土整備部長	児玉 宏紀	宮崎県県土整備部長	濱田 良和		
委 員	宮崎地方気象台長	田代 憲一	委 員	宮崎地方気象台長	辻村 豊
	宮崎県総務部長	稲用 博美		宮崎県危機管理統括監	橋本 憲次郎

※所属は、平成 23 年度及び平成 24 年度当時のもの

## ※被害想定の内訳

各種項目について、市町村毎に定量的な想定を行いました。但し、定量的な想定が困難な項目については、被害の様相として示しています。

① 建物被害	33	道路閉塞	87
全半壊棟数	33	道路上の自動車への落石・崩土	88
② 人的被害	37	交通人的被害（道路）	89
死傷者数	37	交通人的被害（鉄道）	90
要救助者	44	要配慮者	91
③ ライフライン被害	46	震災関連死	95
上水道	46	宅地造成地	96
下水道	48	危険物施設	97
電力	50	大規模集客施設等	98
電力（ブラックアウトの発生）	52	宮崎駅等	100
通信（固定電話・携帯電話）	53	文化財	101
ガス（都市ガス）	57	孤立集落	103
④ 交通施設被害	59	災害応急対策等	105
道路	59	堰堤、ため池等の決壊	106
鉄道	61	地盤沈下による長期湛水	107
港湾	63	複合災害	108
漁港	67	時間差での地震の発生	110
空港	71	漁船・船舶、水産関連施設	112
⑤ 生活への影響	72	治安	114
避難者	72	⑧ 経済被害	115
帰宅困難者	74	資産等の被害	115
物資	76	生産・サービス低下による影響	116
医療機能	78	交通寸断による影響	117
保健衛生、防疫、遺体処理等	80	⑨ 減災効果	118
⑥ 災害廃棄物等	81	全半壊棟数	118
災害廃棄物等	81	死傷者数	120
⑦ その他の被害	83	仮に全く避難しない場合の死傷者数	128
エレベータ内閉じ込め	83	資産額等の被害	130
長周期地震動	85	生産・サービス低下による影響	131
		交通寸断による影響	132
		串間市の浸水想定更新の効果	133

灰色：定量的な想定を実施した項目

①建物被害

全半壊棟数（総括表）

シナリオ	季節・時間	液状化		揺れ		急傾斜地崩壊		津波		火災	合計	
		全壊 (棟)	半壊 (棟)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	焼失 (棟)	全壊・ 焼失 (棟)	半壊 (棟)
想定 ケース①	冬深夜									約1,000	約78,000	
	夏12時	約5,600	約28,000	約41,000	約65,000	約400	約900	約30,000	約20,000	約1,200	約79,000	約113,000
	冬18時									約3,000	約80,000	
想定 ケース②	冬深夜									約1,200	約76,000	
	夏12時	約5,600	約28,000	約48,000	約69,000	約400	約900	約21,000	約20,000	約1,400	約76,000	約118,000
	冬18時									約3,400	約78,000	

①建物被害

全半壊棟数（想定ケース① 冬 18 時）

市町村	液状化		揺れ		急傾斜地崩壊		津波		火災	合計	
	全壊 (棟)	半壊 (棟)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	焼失 (棟)	全壊・ 焼失 (棟)	半壊 (棟)
宮崎市	約1,800	約9,900	約15,000	約23,000	約70	約140	約5,200	約6,000	約2,100	約24,000	約39,000
都城市	約260	約1,400	約770	約6,200	約30	約60	-	-	約30	約1,100	約7,600
延岡市	約1,400	約5,600	約5,600	約9,300	約130	約240	約9,300	約6,000	約420	約17,000	約21,000
日南市	約660	約2,700	約770	約3,100	約60	約110	約2,700	約1,700	約20	約4,200	約7,600
小林市	約100	約600	約100	約1,200	約10	約10	-	-	-	約210	約1,800
日向市	約430	約2,500	約4,200	約5,000	約30	約60	約9,000	約3,500	約90	約14,000	約11,000
串間市	約50	約190	約40	約530	約10	約30	約80	約320	-	約180	約1,100
西都市	約190	約960	約2,800	約2,800	約10	約20	-	-	約50	約3,000	約3,800
えびの市	約130	約850	約280	約1,500	-	-	-	-	約10	約420	約2,300
三股町	約30	約260	約150	約980	約10	約10	-	-	約10	約190	約1,300
高原町	約10	約50	約10	約180	-	約10	-	-	-	約20	約240
国富町	約10	約50	約970	約1,800	約10	約20	-	-	約20	約1,000	約1,800
綾町	-	約30	約250	約600	-	約10	-	-	約10	約260	約640
高鍋町	約100	約530	約2,800	約2,000	-	約10	約450	約1,200	約90	約3,400	約3,800
新富町	約20	約150	約1,900	約1,500	約10	約20	約70	約290	約20	約2,000	約1,900
西米良村	-	-	-	約50	-	約10	-	-	-	約10	約60
木城町	約20	約110	約820	約600	-	約10	-	-	約10	約860	約720
川南町	-	約20	約2,700	約2,200	-	約10	約170	約70	約20	約2,900	約2,300
都農町	約10	約40	約1,000	約1,100	-	約10	約120	約60	約20	約1,200	約1,200
門川町	約350	約1,600	約960	約1,400	約20	約30	約3,400	約630	約20	約4,700	約3,600
諸塚村	-	-	-	約60	-	約10	-	-	-	約10	約70
椎葉村	-	-	約10	約100	-	約10	-	-	-	約10	約110
美郷町	-	約10	約70	約530	約20	約30	-	-	-	約90	約560
高千穂町	-	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	約10
日之影町	-	-	-	約30	-	-	-	-	-	-	約30
五ヶ瀬町	-	-	-	約20	-	-	-	-	-	-	約20
合計	約5,600	約28,000	約41,000	約65,000	約430	約860	約30,000	約20,000	約3,000	約80,000	約113,000

－：わずか

（注1）今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

①建物被害

全半壊棟数（想定ケース② 冬 18 時）

市町村	液状化		揺れ		急傾斜地崩壊		津波		火災	合計	
	全壊 (棟)	半壊 (棟)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	焼失 (棟)	全壊・ 焼失 (棟)	半壊 (棟)
宮崎市	約1,800	約9,900	約14,000	約22,000	約70	約150	約3,700	約6,100	約2,300	約22,000	約38,000
都城市	約260	約1,400	約810	約6,600	約30	約60	-	-	約40	約1,100	約8,100
延岡市	約1,400	約5,600	約5,200	約9,300	約130	約240	約5,700	約5,200	約500	約13,000	約20,000
日南市	約660	約2,700	約6,700	約5,200	約60	約140	約2,300	約1,500	約110	約9,800	約9,500
小林市	約100	約600	約90	約1,200	約10	約10	-	-	-	約200	約1,800
日向市	約420	約2,500	約4,200	約5,000	約30	約60	約6,300	約4,300	約120	約11,000	約12,000
串間市	約50	約190	約2,100	約2,700	約20	約50	約250	約630	約50	約2,500	約3,600
西都市	約190	約960	約2,700	約2,800	約10	約20	-	-	約40	約2,900	約3,800
えびの市	約130	約850	約250	約1,400	-	-	-	-	約10	約390	約2,200
三股町	約30	約260	約120	約910	約10	約10	-	-	約10	約170	約1,200
高原町	約10	約50	約10	約250	-	約10	-	-	-	約30	約300
国富町	約10	約50	約940	約1,800	約10	約20	-	-	約30	約990	約1,800
綾町	-	約30	約240	約600	-	約10	-	-	約10	約260	約630
高鍋町	約100	約530	約2,800	約2,000	-	約10	約180	約740	約80	約3,100	約3,300
新富町	約20	約150	約2,000	約1,500	約10	約20	約30	約160	約20	約2,000	約1,800
西米良村	-	-	-	約50	-	約10	-	-	-	約10	約50
木城町	約20	約110	約860	約590	-	約10	-	-	約10	約890	約710
川南町	-	約20	約2,600	約2,200	-	約10	約150	約60	約20	約2,800	約2,300
都農町	約10	約40	約1,000	約1,100	-	約10	約120	約40	約30	約1,200	約1,100
門川町	約350	約1,600	約1,000	約1,400	約20	約30	約2,100	約1,100	約30	約3,500	約4,100
諸塚村	-	-	-	約60	-	約10	-	-	-	約10	約70
椎葉村	-	-	-	約100	-	約10	-	-	-	約10	約110
美郷町	-	約10	約70	約520	約10	約30	-	-	-	約80	約550
高千穂町	-	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	約10
日之影町	-	-	-	約30	-	-	-	-	-	-	約30
五ヶ瀬町	-	-	-	約20	-	-	-	-	-	-	約20
合計	約5,600	約28,000	約48,000	約69,000	約450	約920	約21,000	約20,000	約3,400	約78,000	約118,000

— : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

区分	項目
①建物被害	津波火災

### ■被害様相

地震発生直後	
津波火災による被害	<ul style="list-style-type: none"> <li>・津波により漂流するガスボンベ等からの出火、浸水による車両等からの出火によって火災が発生する。</li> <li>・港湾・漁港で停泊している船舶が押し流され津波により火災が発生する。</li> <li>・津波により堆積した車の電気系統やガスボンベなどから発火して炎上する。</li> <li>・流出した屋外タンクからのオイル、ガスボンベやがれきなどの可燃物が燃えたまま津波に乗って漂流し、延焼が拡大する。これらの集積の密度によっては海上油面火災が形成され、燃えた船舶が延焼拡大をさらに助長する。</li> <li>・津波によって打ち寄せられた家屋などがれきが高台に堆積し、火のついたがれきから周辺のがれきへ燃え広がる。</li> <li>・山際の避難場所まで延焼するものや山林火災に発展するものもあり、一部の避難場所では再避難が必要となる。</li> <li>・がれきなどが障害となって消火できず、延焼が拡大する。</li> <li>・宮崎県においては、LP ガスが需要家の多くを占める。LP ガスについては震災後の復旧は比較的早いという実績はあるが、逆に沿岸部においては、津波によりガスボンベが流出し、津波火災につながりリスクが拡大する。</li> <li>・北部のリアス式の海岸地域などでは、限られた平地に多くの津波がれきが押し寄せるため、一面に延焼が拡大する恐れがある。</li> <li>・津波によってポンプ車や消防施設が被害を受け、消防活動のために出動ができない。</li> <li>・出動しても道路の寸断で到達できる可能性は低く、また仮に到達したとしても津波火災に関しては、なすすべがなく自然鎮火を待つことになる。</li> </ul>



②人的被害

死傷者数（総括表）

シナリオ	季節・時間	建物倒壊				急傾斜地崩壊		津波		火災		ブロック塀他		合計	
		死者 (人)	(家具) 負傷者 (人)	死者 (人)	(家具) 負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)
想定 ケース①	冬深夜	約3,000	約160	約17,000	約2,200	約50	約60	約12,000	約1,300	約50	約80	約0	約0	約15,000	約18,000
	夏12時	約1,800	約70	約13,000	約1,400	約20	約20	約7,800	約1,000	約30	約100	約10	約360	約9,700	約15,000
	冬18時	約2,500	約100	約13,000	約1,500	約30	約40	約6,900	約990	約110	約250	約30	約880	約9,500	約16,000
想定 ケース②	冬深夜	約3,500	約180	約18,000	約2,500	約50	約60	約10,000	約1,500	約70	約110	約0	約0	約14,000	約20,000
	夏12時	約2,000	約80	約14,000	約1,500	約20	約20	約7,600	約1,100	約40	約120	約10	約360	約9,700	約16,000
	冬18時	約2,800	約110	約15,000	約1,700	約30	約40	約6,900	約1,100	約140	約290	約30	約900	約9,900	約17,000

②人的被害

死傷者数（想定ケース① 冬深夜 現状の津波避難ビル有）

市町村	建物倒壊				急傾斜地崩壊		津波		火災		ブロック塀他		合計	
	死者 (人)	(家具) (人)	負傷者 (人)	(家具) (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)
宮崎市	約1,200	約70	約6,200	約960	約10	約10	約920	約130	約30	約60	-	-	約2,100	約6,400
都城市	約50	-	約960	約70	-	-	/	/	-	-	-	-	約60	約960
延岡市	約410	約20	約2,500	約300	約10	約20	約2,900	約290	約10	約10	-	-	約3,300	約2,800
日南市	約50	-	約590	約40	約10	約10	約960	約150	-	-	-	-	約1,000	約750
小林市	約10	-	約180	約20	-	-	/	/	-	-	-	-	約10	約180
日向市	約310	約10	約1,500	約190	-	-	約5,600	約540	-	-	-	-	約5,900	約2,000
串間市	-	-	約80	-	-	-	約70	約50	-	-	-	-	約70	約130
西都市	約200	約10	約810	約140	-	-	/	/	-	-	-	-	約200	約810
えびの市	約20	-	約310	約10	-	-	/	/	-	-	-	-	約20	約310
三股町	約10	-	約150	約10	-	-	/	/	-	-	-	-	約10	約150
高原町	-	-	約30	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	約30
国富町	約70	-	約360	約40	-	-	/	/	-	-	-	-	約70	約360
綾町	約20	-	約120	約10	-	-	/	/	-	-	-	-	約20	約120
高鍋町	約190	約10	約760	約130	-	-	約200	約20	-	-	-	-	約400	約780
新富町	約140	約10	約500	約110	-	-	約110	約30	-	-	-	-	約250	約530
西米良村	-	-	約10	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	約10
木城町	約60	-	約200	約40	-	-	/	/	-	-	-	-	約60	約200
川南町	約180	約10	約760	約90	-	-	約340	約10	-	-	-	-	約520	約770
都農町	約70	-	約300	約40	-	-	約180	約20	-	-	-	-	約250	約320
門川町	約70	-	約380	約50	-	-	約940	約70	-	-	-	-	約1,000	約450
諸塚村	-	-	約10	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	約10
椎葉村	-	-	約10	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	約10
美郷町	-	-	約70	-	-	-	/	/	-	-	-	-	約10	約70
高千穂町	-	-	-	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	-
日之影町	-	-	-	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	-
五ヶ瀬町	-	-	-	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	-
合計	約3,000	約160	約17,000	約2,200	約50	約60	約12,000	約1,300	約50	約80	-	-	約15,000	約18,000

— : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

②人的被害

死傷者数（想定ケース① 夏 12 時 現状の津波避難ビル有）

市町村	建物倒壊				急傾斜地崩壊		津波		火災		ブロック塀他		合計	
	死者 (人)	(家具) (人)	負傷者 (人)	(家具) (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)
宮崎市	約850	約40	約5,900	約660	-	-	約1,400	約210	約20	約70	約10	約250	約2,200	約6,400
都城市	約30	-	約540	約50	-	-	-	-	-	-	-	約30	約30	約580
延岡市	約230	約10	約1,600	約180	約10	約10	約1,700	約250	-	約10	-	約30	約1,900	約1,900
日南市	約30	-	約310	約20	-	-	約760	約150	-	-	-	約10	約780	約470
小林市	-	-	約120	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約130
日向市	約190	約10	約1,200	約110	-	-	約2,700	約220	-	-	-	約20	約2,900	約1,400
串間市	-	-	約30	-	-	-	約60	約50	-	-	-	-	約60	約90
西都市	約100	-	約590	約70	-	-	-	-	-	-	-	約10	約100	約590
えびの市	約10	-	約190	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約190
三股町	約10	-	約100	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約110
高原町	-	-	約20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約20
国富町	約30	-	約230	約20	-	-	-	-	-	-	-	-	約30	約230
綾町	約10	-	約80	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約80
高鍋町	約100	-	約670	約80	-	-	約290	約40	-	-	-	-	約400	約720
新富町	約80	-	約430	約50	-	-	約50	約20	-	-	-	-	約120	約450
西米良村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
木城町	約30	-	約170	約20	-	-	-	-	-	-	-	-	約30	約170
川南町	約80	-	約610	約40	-	-	約200	約10	-	-	-	-	約280	約620
都農町	約30	-	約220	約20	-	-	約90	約10	-	-	-	-	約120	約240
門川町	約30	-	約270	約20	-	-	約590	約60	-	-	-	-	約630	約340
諸塚村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
椎葉村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
美郷町	-	-	約30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約30
高千穂町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日之影町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
五ヶ瀬町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	約1,800	約70	約13,000	約1,400	約20	約20	約7,800	約1,000	約30	約100	約10	約360	約9,700	約15,000

— : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

②人的被害

死傷者数（想定ケース① 冬 18 時 現状の津波避難ビル有）

市町村	建物倒壊				急傾斜地崩壊		津波		火災		ブロック塀他		合計	
	死者 (人)	(家具) (人)	負傷者 (人)	(家具) (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)
宮崎市	約1,000	約40	約5,400	約680	約10	約10	約730	約170	約60	約170	約20	約590	約1,800	約6,300
都城市	約40	-	約670	約50	-	-	/	/	-	-	-	約70	約40	約750
延岡市	約330	約10	約1,800	約200	約10	約10	約1,800	約260	約20	約40	-	約70	約2,200	約2,200
日南市	約40	-	約400	約30	-	-	約770	約150	-	-	-	約20	約820	約570
小林市	約10	-	約140	約10	-	-	/	/	-	-	-	約10	約10	約150
日向市	約250	約10	約1,200	約130	-	-	約2,200	約240	約10	約10	-	約50	約2,500	約1,500
串間市	-	-	約50	-	-	-	約60	約50	-	-	-	-	約60	約100
西都市	約150	約10	約620	約80	-	-	/	/	-	約10	-	約20	約150	約640
えびの市	約10	-	約220	約10	-	-	/	/	-	-	-	-	約10	約220
三股町	約10	-	約110	約10	-	-	/	/	-	-	-	約10	約10	約120
高原町	-	-	約20	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	約20
国富町	約50	-	約270	約30	-	-	/	/	-	-	-	-	約50	約270
綾町	約10	-	約90	約10	-	-	/	/	-	-	-	-	約10	約90
高鍋町	約150	約10	約640	約90	-	-	約220	約30	約10	約10	-	約10	約370	約690
新富町	約110	-	約410	約60	-	-	約60	約20	-	-	-	約10	約170	約440
西米良村	-	-	-	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	-
木城町	約40	-	約170	約20	-	-	/	/	-	-	-	-	約40	約170
川南町	約130	-	約610	約50	-	-	約250	約10	-	-	-	-	約380	約620
都農町	約50	-	約230	約20	-	-	約120	約10	-	-	-	-	約180	約250
門川町	約50	-	約290	約30	-	-	約650	約60	-	-	-	約10	約710	約360
諸塚村	-	-	-	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	-
椎葉村	-	-	約10	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	約10
美郷町	-	-	約40	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	約50
高千穂町	-	-	-	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	-
日之影町	-	-	-	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	-
五ヶ瀬町	-	-	-	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	-
合計	約2,500	約100	約13,000	約1,500	約30	約40	約6,900	約990	約110	約250	約30	約880	約9,500	約16,000

— : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

②人的被害

死傷者数（想定ケース② 冬深夜 現状の津波避難ビル有）

市町村	建物倒壊				急傾斜地崩壊		津波		火災		ブロック塀他		合計	
	死者 (人)	(家具) 負傷者 (人)	負傷者 (人)	(家具) 負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)
宮崎市	約1,100	約70	約6,100	約920	約10	約10	約860	約110	約30	約70	-	-	約2,000	約6,300
都城市	約60	-	約1,000	約70	-	-	/	/	-	-	-	-	約60	約1,000
延岡市	約390	約20	約2,400	約280	約10	約20	約2,000	約280	約10	約10	-	-	約2,400	約2,700
日南市	約470	約20	約1,800	約280	約10	約10	約2,100	約310	約20	約10	-	-	約2,600	約2,100
小林市	約10	-	約180	約20	-	-	/	/	-	-	-	-	約10	約180
日向市	約310	約10	約1,500	約200	-	-	約3,500	約370	-	-	-	-	約3,800	約1,900
串間市	約140	-	約650	約50	-	-	約360	約250	-	-	-	-	約510	約910
西都市	約190	約10	約790	約130	-	-	/	/	-	-	-	-	約190	約790
えびの市	約20	-	約280	約10	-	-	/	/	-	-	-	-	約20	約290
三股町	約10	-	約140	約10	-	-	/	/	-	-	-	-	約10	約140
高原町	-	-	約40	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	約40
国富町	約60	-	約350	約40	-	-	/	/	-	-	-	-	約70	約360
綾町	約20	-	約120	約10	-	-	/	/	-	-	-	-	約20	約120
高鍋町	約190	約10	約750	約130	-	-	約110	約30	-	-	-	-	約310	約790
新富町	約140	約10	約500	約110	-	-	約50	約20	-	-	-	-	約200	約530
西米良村	-	-	約10	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	約10
木城町	約60	-	約210	約40	-	-	/	/	-	-	-	-	約60	約210
川南町	約170	約10	約750	約80	-	-	約350	約10	-	-	-	-	約520	約760
都農町	約70	-	約300	約40	-	-	約180	約10	-	-	-	-	約250	約310
門川町	約70	-	約400	約50	-	-	約910	約80	-	-	-	-	約990	約480
諸塚村	-	-	約10	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	約10
椎葉村	-	-	約10	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	約10
美郷町	-	-	約60	-	-	-	/	/	-	-	-	-	約10	約70
高千穂町	-	-	-	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	-
日之影町	-	-	-	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	-
五ヶ瀬町	-	-	-	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	-
合計	約3,500	約180	約18,000	約2,500	約50	約60	約10,000	約1,500	約70	約110	-	-	約14,000	約20,000

— : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

②人的被害

死傷者数（想定ケース② 夏 12 時 現状の津波避難ビル有）

市町村	建物倒壊				急傾斜地崩壊		津波		火災		ブロック塀他		合計	
	死者 (人)	(家具) (人)	負傷者 (人)	(家具) (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)
宮崎市	約810	約30	約5,700	約640	-	-	約1,100	約150	約20	約80	約10	約240	約2,000	約6,100
都城市	約30	-	約570	約50	-	-	-	-	-	-	-	約30	約30	約600
延岡市	約220	約10	約1,500	約160	約10	約10	約1,500	約230	-	約10	-	約30	約1,800	約1,800
日南市	約230	約10	約1,400	約150	-	-	約1,200	約210	約10	約10	-	約10	約1,500	約1,600
小林市	-	-	約120	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約130
日向市	約190	約10	約1,200	約120	-	-	約2,500	約100	-	約10	-	約20	約2,700	約1,300
串間市	約70	-	約370	約30	-	-	約240	約230	-	-	-	-	約310	約610
西都市	約90	-	約570	約70	-	-	-	-	-	-	-	約10	約100	約580
えびの市	約10	-	約180	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約180
三股町	-	-	約90	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約100
高原町	-	-	約20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約20
国富町	約30	-	約220	約20	-	-	-	-	-	-	-	-	約30	約220
綾町	約10	-	約80	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約80
高鍋町	約100	-	約670	約80	-	-	約160	約40	-	-	-	-	約260	約710
新富町	約80	-	約440	約50	-	-	約30	約10	-	-	-	-	約110	約460
西米良村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
木城町	約30	-	約180	約20	-	-	-	-	-	-	-	-	約30	約180
川南町	約80	-	約600	約40	-	-	約210	約10	-	-	-	-	約290	約600
都農町	約30	-	約220	約20	-	-	約90	約10	-	-	-	-	約130	約230
門川町	約40	-	約290	約20	-	-	約500	約80	-	-	-	-	約530	約370
諸塚村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
椎葉村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
美郷町	-	-	約30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約30
高千穂町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日之影町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
五ヶ瀬町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	約2,000	約80	約14,000	約1,500	約20	約20	約7,600	約1,100	約40	約120	約10	約360	約9,700	約16,000

— : わずか

(注 1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

②人的被害

死傷者数（想定ケース② 冬 18時 現状の津波避難ビル有）

市町村	建物倒壊				急傾斜地崩壊		津波		火災		ブロック塀他		合計	
	死者 (人)	(家具) 負傷者 (人)	負傷者 (人)	(家具) 負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)
宮崎市	約970	約40	約5,200	約660	約10	約10	約720	約130	約60	約180	約20	約570	約1,800	約6,100
都城市	約40	-	約710	約50	-	-	-	-	-	-	-	約80	約50	約790
延岡市	約310	約10	約1,700	約190	約10	約10	約1,600	約250	約20	約40	-	約70	約1,900	約2,100
日南市	約350	約10	約1,400	約180	約10	約10	約1,200	約200	約30	約30	-	約40	約1,600	約1,700
小林市	-	-	約130	約10	-	-	-	-	-	-	-	約10	約10	約150
日向市	約250	約10	約1,200	約130	-	-	約2,000	約110	約10	約10	-	約50	約2,200	約1,400
串間市	約110	-	約460	約30	-	-	約260	約240	-	-	-	約10	約370	約700
西都市	約140	約10	約600	約80	-	-	-	-	-	約10	-	約20	約150	約630
えびの市	約10	-	約210	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約210
三股町	約10	-	約100	約10	-	-	-	-	-	-	-	約10	約10	約110
高原町	-	-	約30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約30
国富町	約50	-	約260	約30	-	-	-	-	-	-	-	-	約50	約270
綾町	約10	-	約90	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約90
高鍋町	約150	約10	約640	約80	-	-	約110	約30	約10	約10	-	約10	約270	約690
新富町	約110	-	約420	約70	-	-	約40	約20	-	-	-	約10	約150	約450
西米良村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
木城町	約50	-	約180	約20	-	-	-	-	-	-	-	-	約50	約180
川南町	約130	-	約600	約50	-	-	約260	約10	-	-	-	-	約390	約610
都農町	約50	-	約230	約20	-	-	約130	約10	-	-	-	-	約180	約250
門川町	約60	-	約300	約30	-	-	約590	約80	-	-	-	約10	約650	約390
諸塚村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
椎葉村	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
美郷町	-	-	約40	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約40
高千穂町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日之影町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
五ヶ瀬町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	約2,800	約110	約15,000	約1,700	約30	約40	約6,900	約1,100	約140	約290	約30	約900	約9,900	約17,000

— : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

②人的被害

要救助者数（自力脱出困難者数）（想定ケース①）

市町村	揺れによる建物倒壊に伴う要救助者数(人)			津波による要救助者数(人)			合計(人)		
	冬深夜	夏12時	冬18時	冬深夜	夏12時	冬18時	冬深夜	夏12時	冬18時
宮崎市	約4,400	約3,000	約3,500	約7,100	約5,400	約5,700	約11,000	約8,400	約9,200
都城市	約150	約90	約120				約150	約90	約120
延岡市	約1,400	約830	約1,100	約3,700	約3,000	約3,100	約5,100	約3,800	約4,200
日南市	約150	約80	約110	約420	約330	約350	約570	約410	約460
小林市	約20	約10	約10				約20	約10	約10
日向市	約930	約540	約710	約2,200	約2,000	約2,000	約3,200	約2,600	約2,700
串間市	約10	-	-	-	-	-	約10	-	-
西都市	約640	約300	約440				約640	約300	約440
えびの市	約40	約20	約30				約40	約20	約30
三股町	約30	約20	約20				約30	約20	約20
高原町	-	-	-				-	-	-
国富町	約190	約100	約140				約190	約100	約140
綾町	約50	約20	約30				約50	約20	約30
高鍋町	約580	約370	約450	約460	約430	約420	約1,000	約800	約870
新富町	約490	約220	約320	-	-	-	約490	約220	約320
西米良村	-	-	-				-	-	-
木城町	約160	約90	約120				約160	約90	約120
川南町	約420	約230	約310	-	-	-	約420	約230	約310
都農町	約190	約70	約120	-	-	-	約190	約70	約120
門川町	約220	約100	約150	約320	約230	約260	約540	約340	約410
諸塚村	-	-	-				-	-	-
椎葉村	-	-	-				-	-	-
美郷町	約10	-	約10				約10	-	約10
高千穂町	-	-	-				-	-	-
日之影町	-	-	-				-	-	-
五ヶ瀬町	-	-	-				-	-	-
合計	約10,000	約6,100	約7,700	約14,000	約11,000	約12,000	約24,000	約18,000	約20,000

- : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。



②人的被害

要救助者数（自力脱出困難者数）（想定ケース②）

市町村	揺れによる建物倒壊に伴う要救助者数(人)			津波による要救助者数(人)			合計(人)		
	冬深夜	夏12時	冬18時	冬深夜	夏12時	冬18時	冬深夜	夏12時	冬18時
宮崎市	約4,100	約2,900	約3,300	約6,200	約4,600	約5,000	約10,000	約7,500	約8,300
都城市	約150	約100	約120				約150	約100	約120
延岡市	約1,300	約730	約1,000	約2,500	約1,900	約2,000	約3,800	約2,600	約3,000
日南市	約1,300	約730	約990	約520	約540	約510	約1,900	約1,300	約1,500
小林市	約20	約10	約10				約20	約10	約10
日向市	約940	約540	約710	約1,500	約1,400	約1,400	約2,500	約1,900	約2,100
串間市	約280	約130	約190	-	-	-	約280	約130	約190
西都市	約620	約300	約430				約620	約300	約430
えびの市	約30	約20	約30				約30	約20	約30
三股町	約20	約10	約20				約20	約10	約20
高原町	-	-	-				-	-	-
国富町	約180	約100	約140				約180	約100	約140
綾町	約60	約20	約30				約60	約20	約30
高鍋町	約580	約360	約450	約230	約210	約210	約820	約570	約660
新富町	約510	約230	約330	-	-	-	約510	約230	約330
西米良村	-	-	-				-	-	-
木城町	約170	約100	約130				約170	約100	約130
川南町	約410	約220	約290	-	-	-	約410	約220	約290
都農町	約190	約70	約120	-	-	-	約190	約70	約120
門川町	約240	約110	約160	約230	約180	約190	約470	約290	約350
諸塚村	-	-	-				-	-	-
椎葉村	-	-	-				-	-	-
美郷町	約10	-	約10				約10	-	約10
高千穂町	-	-	-				-	-	-
日之影町	-	-	-				-	-	-
五ヶ瀬町	-	-	-				-	-	-
合計	約11,000	約6,600	約8,500	約11,000	約8,800	約9,200	約22,000	約15,000	約18,000

－：わずか

（注1）今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

③ライフライン被害

上水道（想定ケース①）

市町村	給水人口 (人)	被災直後		被災1日後		被災1週間後		被災1ヶ月後	
		断水人口 (人)	断水率 (%)	断水人口 (人)	断水率 (%)	断水人口 (人)	断水率 (%)	断水人口 (人)	断水率 (%)
宮崎市	約397,000	約395,000	100%	約380,000	96%	約296,000	75%	約97,000	24%
都城市	約160,000	約148,000	93%	約107,000	67%	約57,000	35%	約8,200	5%
延岡市	約121,000	約120,000	99%	約115,000	95%	約95,000	78%	約43,000	36%
日南市	約53,000	約50,000	95%	約40,000	76%	約27,000	51%	約8,500	16%
小林市	約44,000	約38,000	87%	約23,000	52%	約11,000	24%	約1,300	3%
日向市	約60,000	約60,000	100%	約59,000	99%	約55,000	92%	約33,000	55%
串間市	約18,000	約14,000	80%	約7,200	40%	約3,000	17%	約390	2%
西都市	約27,000	約26,000	100%	約26,000	98%	約21,000	80%	約7,200	27%
えびの市	約19,000	約18,000	93%	約13,000	69%	約7,200	38%	約1,100	6%
三股町	約25,000	約24,000	96%	約19,000	77%	約11,000	44%	約1,700	7%
高原町	約8,900	約7,000	78%	約3,100	35%	約1,200	14%	約100	1%
国富町	約19,000	約19,000	99%	約18,000	94%	約13,000	67%	約3,400	17%
綾町	約7,000	約6,900	99%	約6,300	89%	約4,300	61%	約1,100	15%
高鍋町	約20,000	約20,000	100%	約20,000	100%	約19,000	91%	約8,400	42%
新富町	約18,000	約18,000	100%	約18,000	100%	約16,000	90%	約7,400	42%
西米良村	約710	約600	85%	約340	47%	約150	22%	約20	2%
木城町	約4,900	約4,900	100%	約4,900	99%	約4,400	91%	約2,200	46%
川南町	約15,000	約15,000	100%	約15,000	99%	約13,000	87%	約5,500	36%
都農町	約10,000	約10,000	100%	約9,800	98%	約7,900	79%	約2,800	28%
門川町	約18,000	約18,000	100%	約17,000	98%	約16,000	92%	約11,000	62%
諸塚村	約710	約590	84%	約350	50%	約170	24%	約20	3%
椎葉村	約740	約620	84%	約370	50%	約180	25%	約20	3%
美郷町	約5,000	約4,700	95%	約3,600	72%	約2,000	40%	約300	6%
高千穂町	約11,000	約4,100	36%	約830	7%	約250	2%	-	0%
日之影町	約2,700	約1,300	49%	約370	14%	約120	4%	-	0%
五ヶ瀬町	約2,800	約1,700	61%	約560	20%	約190	7%	-	0%
合計	約1,068,000	約1,027,000	96%	約909,000	85%	約680,000	64%	約244,000	23%

－：わずか

（注1）断水率は各市町村の給水人口に占める断水人口の割合としました。

（注2）今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

③ライフライン被害

上水道（想定ケース②）

市町村	給水人口 (人)	被災直後		被災1日後		被災1週間後		被災1ヶ月後	
		断水人口 (人)	断水率 (%)	断水人口 (人)	断水率 (%)	断水人口 (人)	断水率 (%)	断水人口 (人)	断水率 (%)
宮崎市	約397,000	約395,000	99%	約378,000	95%	約289,000	73%	約90,000	23%
都城市	約160,000	約149,000	93%	約109,000	68%	約58,000	36%	約8,400	5%
延岡市	約121,000	約120,000	99%	約113,000	94%	約88,000	73%	約33,000	28%
日南市	約53,000	約52,000	100%	約52,000	98%	約45,000	86%	約21,000	40%
小林市	約44,000	約38,000	88%	約23,000	53%	約11,000	25%	約1,300	3%
日向市	約60,000	約60,000	100%	約59,000	98%	約53,000	88%	約27,000	45%
串間市	約18,000	約18,000	100%	約17,000	95%	約13,000	70%	約3,800	21%
西都市	約27,000	約26,000	100%	約26,000	98%	約21,000	79%	約7,100	27%
えびの市	約19,000	約18,000	93%	約13,000	68%	約7,100	37%	約1,100	6%
三股町	約25,000	約24,000	95%	約19,000	73%	約10,000	40%	約1,500	6%
高原町	約8,900	約7,400	83%	約3,800	43%	約1,600	18%	約170	2%
国富町	約19,000	約19,000	99%	約18,000	93%	約13,000	66%	約3,300	17%
綾町	約7,000	約6,900	98%	約6,200	89%	約4,200	60%	約1,000	14%
高鍋町	約20,000	約20,000	100%	約20,000	100%	約18,000	91%	約8,100	40%
新富町	約18,000	約18,000	100%	約18,000	100%	約16,000	91%	約7,700	44%
西米良村	約710	約590	84%	約310	44%	約130	18%	約10	2%
木城町	約4,900	約4,900	100%	約4,900	99%	約4,500	91%	約2,300	47%
川南町	約15,000	約15,000	100%	約15,000	99%	約13,000	86%	約5,500	36%
都農町	約10,000	約10,000	100%	約9,800	97%	約7,900	78%	約2,700	27%
門川町	約18,000	約18,000	100%	約17,000	97%	約15,000	86%	約7,800	44%
諸塚村	約710	約590	83%	約330	47%	約160	23%	約20	3%
椎葉村	約740	約620	83%	約350	48%	約170	23%	約20	3%
美郷町	約5,000	約4,700	94%	約3,600	71%	約1,900	39%	約290	6%
高千穂町	約11,000	約4,400	38%	約970	9%	約300	3%	-	0%
日之影町	約2,700	約1,300	50%	約380	14%	約120	4%	-	0%
五ヶ瀬町	約2,800	約1,700	60%	約540	19%	約180	6%	-	0%
合計	約1,068,000	約1,034,000	97%	約927,000	87%	約691,000	65%	約234,000	22%

－：わずか

(注1) 断水率は各市町村の給水人口に占める断水人口の割合としました。

(注2) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

③ライフライン被害

下水道（想定ケース①）

市町村	処理人口 (人)	被災直後		被災1日後		被災1週間後		被災1ヶ月後	
		支障人口 (人)	機能支 障率 (%)	支障人口 (人)	機能支 障率 (%)	支障人口 (人)	機能支 障率 (%)	支障人口 (人)	機能支 障率 (%)
宮崎市	約375,000	約369,000	98%	約322,000	86%	約216,000	57%	約197,000	52%
都城市	約84,000	約71,000	84%	約27,000	32%	約510	1%	約40	0%
延岡市	約100,000	約99,000	99%	約94,000	94%	約86,000	86%	約81,000	81%
日南市	約22,000	約19,000	86%	約9,100	41%	約2,900	13%	約1,300	6%
小林市	約16,000	約12,000	78%	約3,500	22%	約60	0%	-	0%
日向市	約38,000	約38,000	100%	約37,000	97%	約35,000	92%	約32,000	86%
串間市	約4,800	約3,500	72%	約820	17%	約20	0%	約10	0%
西都市	約17,000	約17,000	98%	約13,000	79%	約2,100	12%	約230	1%
えびの市									
三股町	約12,000	約11,000	89%	約4,600	38%	約90	1%	約10	0%
高原町	約660	約470	70%	約90	13%	-	0%	-	0%
国富町	約8,000	約7,700	96%	約5,400	67%	約540	7%	約40	1%
綾町	約4,600	約4,300	94%	約2,500	56%	約220	5%	約20	0%
高鍋町	約7,200	約7,200	99%	約6,600	91%	約2,000	28%	約500	7%
新富町									
西米良村	約530	約400	76%	約100	19%	-	0%	-	0%
木城町	約3,700	約3,700	99%	約3,300	88%	約780	21%	約120	3%
川南町	約4,500	約4,400	99%	約3,900	87%	約1,300	29%	約760	17%
都農町									
門川町	約1,600	約1,600	99%	約1,500	95%	約1,400	88%	約1,200	76%
諸塚村	約230	約170	73%	約40	20%	-	0%	-	0%
椎葉村	約30	約20	73%	約10	18%	-	0%	-	0%
美郷町	約2,300	約2,000	87%	約800	35%	約20	1%	-	0%
高千穂町	約4,000	約1,300	32%	約110	3%	-	0%	-	0%
日之影町	約260	約110	44%	約10	5%	-	0%	-	0%
五ヶ瀬町									
合計	約706,000	約672,000	95%	約535,000	76%	約348,000	49%	約315,000	45%

— : わずか

(注1) 機能支障率は各市町村の処理人口に占める支障人口の割合としました。

(注2) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

③ライフライン被害

下水道（想定ケース②）

市町村	処理人口 (人)	被災直後		被災1日後		被災1週間後		被災1ヶ月後	
		支障人口 (人)	機能支 障率 (%)	支障人口 (人)	機能支 障率 (%)	支障人口 (人)	機能支 障率 (%)	支障人口 (人)	機能支 障率 (%)
宮崎市	約375,000	約365,000	97%	約287,000	76%	約119,000	32%	約94,000	25%
都城市	約84,000	約71,000	85%	約27,000	32%	約520	1%	約40	0%
延岡市	約100,000	約99,000	99%	約92,000	92%	約82,000	82%	約79,000	79%
日南市	約22,000	約22,000	98%	約18,000	81%	約6,300	29%	約2,400	11%
小林市	約16,000	約12,000	79%	約3,500	23%	約70	0%	約10	0%
日向市	約38,000	約37,000	100%	約36,000	96%	約33,000	87%	約31,000	82%
串間市	約4,800	約4,700	97%	約3,400	70%	約340	7%	約20	1%
西都市	約17,000	約17,000	98%	約13,000	79%	約2,100	13%	約240	1%
えびの市									
三股町	約12,000	約10,000	88%	約4,400	37%	約80	1%	約10	0%
高原町	約660	約500	75%	約120	17%	-	0%	-	0%
国富町	約8,000	約7,700	96%	約5,300	66%	約520	6%	約40	0%
綾町	約4,600	約4,300	93%	約2,500	55%	約210	5%	約20	0%
高鍋町	約7,200	約7,200	99%	約6,500	91%	約1,600	22%	約280	4%
新富町									
西米良村	約530	約400	75%	約100	19%	-	0%	-	0%
木城町	約3,700	約3,700	99%	約3,300	88%	約790	21%	約130	4%
川南町	約4,500	約4,400	99%	約3,900	87%	約1,300	29%	約740	17%
都農町									
門川町	約1,600	約1,600	99%	約1,400	88%	約1,100	68%	約810	51%
諸塚村	約230	約170	73%	約40	18%	-	0%	-	0%
椎葉村	約30	約20	72%	約10	17%	-	0%	-	0%
美郷町	約2,300	約2,000	86%	約790	35%	約20	1%	-	0%
高千穂町	約4,000	約1,300	34%	約120	3%	-	0%	-	0%
日之影町	約260	約110	44%	約10	5%	-	0%	-	0%
五ヶ瀬町									
合計	約706,000	約672,000	95%	約509,000	72%	約249,000	35%	約208,000	29%

－：わずか

（注1）機能支障率は各市町村の処理人口に占める支障人口の割合としました。

（注2）今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

### ③ライフライン被害

#### 電力（想定ケース①）

市町村	電灯軒数 (軒)	被災直後		被災1日後		被災4日後		被災1週間後	
		停電軒数 (軒)	停電率 (%)	停電軒数 (軒)	停電率 (%)	停電軒数 (軒)	停電率 (%)	停電軒数 (軒)	停電率 (%)
宮崎市	約228,000	約220,000	96%	約156,000	68%	約48,000	21%	約17,000	8%
都城市	約97,000	約82,000	84%	約30,000	31%	約3,300	3%	約260	0%
延岡市	約73,000	約69,000	95%	約48,000	65%	約22,000	30%	約15,000	21%
日南市	約33,000	約28,000	85%	約12,000	36%	約3,400	10%	約2,400	7%
小林市	約28,000	約22,000	78%	約6,200	22%	約540	2%	約60	0%
日向市	約35,000	約34,000	98%	約28,000	81%	約17,000	49%	約14,000	39%
串間市	約13,000	約9,300	71%	約2,100	17%	約160	1%	約30	0%
西都市	約18,000	約18,000	98%	約14,000	77%	約4,100	23%	約800	4%
えびの市	約14,000	約12,000	84%	約4,200	31%	約490	4%	約50	0%
三股町	約13,000	約11,000	89%	約4,800	38%	約560	4%	約40	0%
高原町	約5,900	約4,100	70%	約750	13%	約30	1%	約10	0%
国富町	約11,000	約11,000	96%	約7,100	65%	約1,800	16%	約320	3%
綾町	約4,300	約4,000	93%	約2,300	53%	約470	11%	約70	2%
高鍋町	約12,000	約12,000	99%	約11,000	89%	約4,600	37%	約1,700	13%
新富町	約8,700	約8,600	99%	約7,600	88%	約3,100	36%	約770	9%
西米良村	約1,100	約840	75%	約210	19%	約20	1%	-	0%
木城町	約2,700	約2,700	99%	約2,300	86%	約950	35%	約200	7%
川南町	約8,700	約8,600	98%	約7,200	83%	約2,500	29%	約670	8%
都農町	約5,800	約5,700	98%	約4,500	76%	約1,400	24%	約340	6%
門川町	約9,500	約9,200	98%	約7,500	79%	約5,100	54%	約4,500	47%
諸塚村	約1,600	約1,200	73%	約300	19%	約20	2%	-	0%
椎葉村	約2,400	約1,700	72%	約420	18%	約30	1%	-	0%
美郷町	約4,500	約3,900	86%	約1,500	34%	約170	4%	約10	0%
高千穂町	約7,700	約2,500	32%	約200	3%	-	0%	約10	0%
日之影町	約2,900	約1,300	44%	約160	5%	-	0%	-	0%
五ヶ瀬町	約2,500	約1,300	53%	約170	7%	-	0%	-	0%
合計	約644,000	約584,000	91%	約359,000	56%	約119,000	18%	約59,000	9%

－：わずか

(注1) 停電率は各市町村の電灯軒数に占める停電軒数の割合としました。

(注2) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

③ライフライン被害

電力（想定ケース②）

市町村	電灯軒数 (軒)	被災直後		被災1日後		被災4日後		被災1週間後	
		停電軒数 (軒)	停電率 (%)	停電軒数 (軒)	停電率 (%)	停電軒数 (軒)	停電率 (%)	停電軒数 (軒)	停電率 (%)
宮崎市	約228,000	約219,000	96%	約152,000	67%	約44,000	19%	約13,000	6%
都城市	約97,000	約82,000	85%	約31,000	32%	約3,400	3%	約260	0%
延岡市	約73,000	約69,000	95%	約45,000	62%	約17,000	23%	約10,000	14%
日南市	約33,000	約32,000	97%	約25,000	76%	約9,900	30%	約4,800	15%
小林市	約28,000	約22,000	79%	約6,300	22%	約550	2%	約60	0%
日向市	約35,000	約34,000	98%	約27,000	79%	約14,000	40%	約9,700	28%
串間市	約13,000	約13,000	96%	約8,900	68%	約2,500	19%	約610	5%
西都市	約18,000	約18,000	97%	約14,000	76%	約4,100	23%	約800	4%
えびの市	約14,000	約12,000	84%	約4,200	31%	約470	3%	約40	0%
三股町	約13,000	約11,000	88%	約4,600	36%	約530	4%	約40	0%
高原町	約5,900	約4,400	75%	約990	17%	約60	1%	約10	0%
国富町	約11,000	約11,000	96%	約7,100	64%	約1,800	16%	約310	3%
綾町	約4,300	約4,000	93%	約2,300	53%	約460	11%	約70	2%
高鍋町	約12,000	約12,000	99%	約11,000	89%	約4,200	34%	約1,100	9%
新富町	約8,700	約8,600	99%	約7,700	89%	約3,100	36%	約710	8%
西米良村	約1,100	約840	75%	約210	19%	約20	1%	-	0%
木城町	約2,700	約2,700	99%	約2,300	86%	約970	35%	約210	8%
川南町	約8,700	約8,600	98%	約7,300	83%	約2,500	29%	約670	8%
都農町	約5,800	約5,700	98%	約4,400	75%	約1,400	23%	約330	6%
門川町	約9,500	約9,200	97%	約7,000	74%	約4,000	43%	約3,300	35%
諸塚村	約1,600	約1,100	72%	約270	17%	約20	1%	-	0%
椎葉村	約2,400	約1,700	72%	約400	17%	約30	1%	-	0%
美郷町	約4,500	約3,900	86%	約1,500	34%	約170	4%	約10	0%
高千穂町	約7,700	約2,600	34%	約220	3%	-	0%	約10	0%
日之影町	約2,900	約1,300	44%	約150	5%	-	0%	-	0%
五ヶ瀬町	約2,500	約1,300	52%	約170	7%	-	0%	-	0%
合計	約644,000	約591,000	92%	約372,000	58%	約114,000	18%	約47,000	7%

－：わずか

(注1) 停電率は各市町村の電灯軒数に占める停電軒数の割合としました。

(注2) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

区分	項目
③ライフライン被害	電力（ブラックアウト（全系崩壊）の発生）

#### ■被害様相

地震発生直後	
揺れによる構造物の被害	<ul style="list-style-type: none"> <li>九州地域も大きな揺れに見舞われることで、原子力発電所の安全確認に時間を要したり、別府湾沿岸の火力発電所などが、揺れ・液状化・津波等により広範囲で同時に電力供給停止する。</li> <li>揺れにより複数の送電線が全て断絶する。</li> <li>複数の発電所が機能停止、電力ネットワークの障害により、ブラックアウトが発生する。</li> </ul>

ブラックアウトの影響	<ul style="list-style-type: none"> <li>水道施設の停電により、大規模な断水が始まる。</li> <li>各企業の工場が操業停止となる。</li> <li>工場以外の生産・サービス業が営業停止となる。</li> <li>宮崎空港では欠航便が発生する。</li> <li>信号停止により貨物輸送が停止、鉄道輸送、空輸等の中止により流通に大きな影響を生じる。</li> <li>医療機関が非常用電源のみで対応できなくなる。</li> <li>県全域の停電により、多くの市町村や避難所から物資の支援要請があり情報が錯綜する。</li> <li>災害対策本部に配置すべき職員が停電により参集できない。</li> </ul>
------------	---



### ③ライフライン被害

#### 通信 固定電話（想定ケース①）

市町村	回線数 (回線)	被災直後		被災1日後		被災1週間後		被災1ヶ月後	
		不通 回線数 (回線)	不通 回線率 (%)	不通 回線数 (回線)	不通 回線率 (%)	不通 回線数 (回線)	不通 回線率 (%)	不通 回線数 (回線)	不通 回線率 (%)
宮崎市	約115,000	約111,000	96%	約80,000	70%	約14,000	12%	約5,300	5%
都城市	約50,000	約42,000	84%	約15,000	31%	約130	0%	-	0%
延岡市	約35,000	約34,000	96%	約25,000	72%	約13,000	36%	約6,800	19%
日南市	約20,000	約17,000	86%	約8,300	41%	約2,800	14%	約1,400	7%
小林市	約18,000	約14,000	78%	約3,900	22%	約40	0%	-	0%
日向市	約18,000	約17,000	99%	約15,000	88%	約11,000	62%	約6,600	37%
串間市	約7,500	約5,400	71%	約1,200	17%	約20	0%	約10	0%
西都市	約10,000	約10,000	98%	約7,900	77%	約450	4%	-	0%
えびの市	約8,200	約6,900	84%	約2,500	31%	約30	0%	-	0%
三股町	約6,400	約5,700	89%	約2,400	38%	約20	0%	-	0%
高原町	約3,700	約2,600	70%	約470	13%	-	0%	-	0%
国富町	約6,400	約6,200	96%	約4,200	65%	約190	3%	-	0%
綾町	約2,300	約2,100	93%	約1,200	53%	約40	2%	-	0%
高鍋町	約6,700	約6,700	99%	約6,000	90%	約1,300	20%	約490	7%
新富町	約5,400	約5,400	99%	約4,800	89%	約560	10%	約90	2%
西米良村	約630	約480	75%	約120	19%	-	0%	-	0%
木城町	約1,600	約1,600	99%	約1,400	86%	約120	7%	-	0%
川南町	約5,300	約5,200	98%	約4,400	83%	約520	10%	約130	2%
都農町	約3,500	約3,500	98%	約2,700	77%	約260	7%	約50	2%
門川町	約4,600	約4,600	99%	約4,100	89%	約3,300	72%	約2,100	46%
諸塚村	約820	約600	73%	約150	19%	-	0%	-	0%
椎葉村	約1,200	約850	72%	約210	18%	-	0%	-	0%
美郷町	約2,200	約1,900	86%	約750	34%	約10	0%	-	0%
高千穂町	約2,500	約790	32%	約60	3%	-	0%	-	0%
日之影町	約1,200	約510	44%	約60	5%	-	0%	-	0%
五ヶ瀬町	約1,400	約720	53%	約90	7%	-	0%	-	0%
合計	約337,000	約307,000	91%	約193,000	57%	約47,000	14%	約23,000	7%

－：わずか

(注1) 不通回線率は各市町村の回線数に占める不通回線数の割合としました。

(注2) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

③ライフライン被害

通信 携帯電話（想定ケース①）

市町村	被災直後		被災1日後		被災4日後		被災1週間後	
	停波 基地局率 (%)	不通ラ ンク	停波 基地局率 (%)	不通ラ ンク	停波 基地局率 (%)	不通ラ ンク	停波 基地局率 (%)	不通ラ ンク
宮崎市	14%	A	82%	A	35%	-	22%	-
都城市	12%	A	43%	C	16%	-	13%	-
延岡市	14%	A	79%	A	44%	B	35%	C
日南市	13%	A	49%	B	23%	-	20%	-
小林市	11%	A	33%	-	13%	-	12%	-
日向市	14%	A	95%	A	63%	A	54%	A
串間市	10%	A	27%	-	12%	-	11%	-
西都市	14%	A	91%	A	37%	-	19%	-
えびの市	12%	A	43%	C	16%	-	13%	-
三股町	13%	A	51%	C	17%	-	13%	-
高原町	10%	A	23%	-	11%	-	10%	-
国富町	14%	A	79%	A	30%	-	17%	-
綾町	14%	A	67%	A	25%	-	15%	-
高鍋町	15%	A	100%	A	51%	B	28%	-
新富町	15%	A	100%	A	50%	C	23%	-
西米良村	11%	A	30%	-	12%	-	11%	-
木城町	14%	A	100%	A	49%	C	22%	-
川南町	14%	A	97%	A	43%	C	22%	-
都農町	14%	A	91%	A	38%	-	20%	-
門川町	14%	A	94%	A	68%	A	62%	A
諸塚村	11%	A	30%	-	12%	-	11%	-
椎葉村	11%	A	28%	-	12%	-	11%	-
美郷町	13%	A	47%	C	17%	-	13%	-
高千穂町	5%	C	7%	-	5%	-	5%	-
日之影町	6%	B	12%	-	7%	-	7%	-
五ヶ瀬町	8%	A	15%	-	8%	-	8%	-
合計	13%	A	69%	A	32%	-	22%	-

- : わずか

(注1) 停波基地局率は、基地局全体に占める停波した基地局の割合としました。

(注2) 携帯電話不通ランク A:非常につながりにくい、B:つながりにくい。C:ややつながりにくい

(注3) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

### ③ライフライン被害

#### 通信 固定電話（想定ケース②）

市町村	回線数 (回線)	被災直後		被災1日後		被災1週間後		被災1ヶ月後	
		不通 回線数 (回線)	不通 回線率 (%)	不通 回線数 (回線)	不通 回線率 (%)	不通 回線数 (回線)	不通 回線率 (%)	不通 回線数 (回線)	不通 回線率 (%)
宮崎市	約115,000	約110,000	96%	約78,000	68%	約10,000	9%	約3,500	3%
都城市	約50,000	約42,000	85%	約16,000	32%	約140	0%	-	0%
延岡市	約35,000	約33,000	95%	約23,000	67%	約8,700	25%	約4,400	12%
日南市	約20,000	約20,000	98%	約16,000	79%	約4,900	24%	約2,200	11%
小林市	約18,000	約14,000	79%	約4,000	22%	約40	0%	-	0%
日向市	約18,000	約17,000	98%	約15,000	84%	約8,100	46%	約4,400	25%
串間市	約7,500	約7,300	97%	約5,200	69%	約470	6%	約120	2%
西都市	約10,000	約10,000	97%	約7,800	76%	約450	4%	-	0%
えびの市	約8,200	約6,900	84%	約2,500	31%	約20	0%	-	0%
三股町	約6,400	約5,600	88%	約2,300	36%	約20	0%	-	0%
高原町	約3,700	約2,800	75%	約620	17%	約10	0%	-	0%
国富町	約6,400	約6,200	96%	約4,100	64%	約180	3%	-	0%
綾町	約2,300	約2,100	93%	約1,200	53%	約40	2%	-	0%
高鍋町	約6,700	約6,700	99%	約6,000	89%	約710	11%	約140	2%
新富町	約5,400	約5,400	99%	約4,800	89%	約470	9%	約30	0%
西米良村	約630	約480	75%	約120	19%	-	0%	-	0%
木城町	約1,600	約1,600	99%	約1,400	86%	約120	8%	-	0%
川南町	約5,300	約5,200	98%	約4,400	84%	約520	10%	約120	2%
都農町	約3,500	約3,400	98%	約2,700	76%	約240	7%	約50	1%
門川町	約4,600	約4,500	98%	約3,800	83%	約2,600	56%	約1,500	33%
諸塚村	約820	約590	72%	約140	17%	-	0%	-	0%
椎葉村	約1,200	約850	72%	約200	17%	-	0%	-	0%
美郷町	約2,200	約1,900	86%	約740	34%	約10	0%	-	0%
高千穂町	約2,500	約830	34%	約70	3%	-	0%	-	0%
日之影町	約1,200	約520	44%	約60	5%	-	0%	-	0%
五ヶ瀬町	約1,400	約710	52%	約90	7%	-	0%	-	0%
合計	約337,000	約311,000	92%	約200,000	59%	約38,000	11%	約18,000	5%

－：わずか

(注1) 不通回線率は各市町村の回線数に占める不通回線数の割合としました。

(注2) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

③ライフライン被害

通信 携帯電話（想定ケース②）

市町村	被災直後		被災1日後		被災4日後		被災1週間後	
	停波 基地局率 (%)	不通ラ ンク	停波 基地局率 (%)	不通ラ ンク	停波 基地局率 (%)	不通ラ ンク	停波 基地局率 (%)	不通ラ ンク
宮崎市	14%	A	81%	A	33%	-	20%	-
都城市	12%	A	44%	C	16%	-	13%	-
延岡市	14%	A	76%	A	37%	C	28%	-
日南市	14%	A	91%	A	44%	C	29%	-
小林市	12%	A	34%	-	13%	-	12%	-
日向市	14%	A	93%	A	54%	A	42%	B
串間市	14%	A	82%	A	33%	-	19%	-
西都市	14%	A	90%	A	37%	-	19%	-
えびの市	12%	A	43%	C	16%	-	13%	-
三股町	13%	A	49%	C	17%	-	13%	-
高原町	11%	A	28%	-	12%	-	11%	-
国富町	14%	A	78%	A	30%	-	17%	-
綾町	14%	A	66%	A	24%	-	15%	-
高鍋町	15%	A	100%	A	48%	C	23%	-
新富町	15%	A	100%	A	51%	C	23%	-
西米良村	11%	A	30%	-	12%	-	11%	-
木城町	14%	A	100%	A	50%	C	22%	-
川南町	14%	A	98%	A	43%	C	22%	-
都農町	14%	A	90%	A	38%	-	20%	-
門川町	14%	A	88%	A	57%	A	49%	A
諸塚村	11%	A	28%	-	12%	-	11%	-
椎葉村	11%	A	27%	-	12%	-	11%	-
美郷町	13%	A	47%	C	16%	-	13%	-
高千穂町	5%	C	8%	-	5%	-	5%	-
日之影町	6%	B	12%	-	7%	-	7%	-
五ヶ瀬町	8%	A	14%	-	8%	-	8%	-
合計	13%	A	71%	A	31%	-	21%	-

- : わずか

(注1) 停波基地局率は、基地局全体に占める停波した基地局の割合としました。

(注2) 携帯電話不通ランク A:非常につながりにくい、B:つながりにくい。C:ややつながりにくい

(注3) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

### ③ライフライン被害

#### ガス 都市ガス（想定ケース①）

供給 エリア	需要家数 (戸)	復旧対象 需要家数 (戸)	被災直後		被災1日後		被災1週間後		被災1ヶ月後	
			供給停止 戸数(戸)	供給停止 率(%)	供給停止 戸数(戸)	供給停止 率(%)	供給停止 戸数(戸)	供給停止 率(%)	供給停止 戸数(戸)	供給停止 率(%)
宮崎	約51,000	約24,000	約19,000	79%	約18,000	75%	約13,000	52%	-	0%
都城	約19,000	約17,000	約13,000	79%	約13,000	75%	約8,800	52%	-	0%
延岡	約11,000	約2,200	約1,700	79%	約1,600	75%	約1,100	52%	-	0%
合計	約81,000	約43,000	約34,000	79%	約32,000	75%	約22,000	52%	-	0%

－：わずか

(注1) 供給停止率は全半壊した需要家を除いた供給エリアの需要家数に占める供給停止戸数の割合としました。

(注2) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

### ③ライフライン被害

#### ガス 都市ガス（想定ケース②）

供給 エリア	需要家数 (戸)	復旧対象 需要家数 (戸)	被災直後		被災1日後		被災1週間後		被災1ヶ月後	
			供給停止 戸数(戸)	供給停止 率(%)	供給停止 戸数(戸)	供給停止 率(%)	供給停止 戸数(戸)	供給停止 率(%)	供給停止 戸数(戸)	供給停止 率(%)
宮崎	約51,000	約29,000	約23,000	79%	約22,000	75%	約15,000	52%	-	0%
都城	約19,000	約17,000	約13,000	79%	約13,000	75%	約8,900	52%	-	0%
延岡	約11,000	約3,800	約3,000	79%	約2,800	75%	約2,000	52%	-	0%
合計	約81,000	約50,000	約39,000	79%	約37,000	75%	約26,000	52%	-	0%

－：わずか

(注1) 供給停止率は全半壊した需要家を除いた供給エリアの需要家数に占める供給停止戸数の割合としました。

(注2) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

④交通施設被害

道路 (想定ケース①)

市町村	津波浸水域 被害(箇所)	津波浸 水域外	計 (箇所)
宮崎市	約70	約230	約300
都城市		約160	約160
延岡市	約90	約90	約180
日南市	約20	約50	約70
小林市		約70	約70
日向市	約80	約40	約120
串間市	約10	約20	約30
西都市		約60	約60
えびの市		約50	約50
三股町		約20	約20
高原町		約20	約20
国富町		約30	約30
綾町		約10	約10
高鍋町	-	約30	約40
新富町	-	約30	約40
西米良村		約20	約20
木城町		約20	約20
川南町	-	約40	約40
都農町	-	約20	約20
門川町	約40	約10	約50
諸塚村		約20	約20
椎葉村		約30	約30
美郷町		約40	約40
高千穂町		約10	約10
日之影町		約20	約20
五ヶ瀬町		約10	約10
合計	約320	約1,200	約1,500

— : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

④交通施設被害

道路（想定ケース②）

市町村	津波浸水域 被害(箇所)	津波浸 水域外	計 (箇所)
宮崎市	約60	約230	約290
都城市		約170	約170
延岡市	約60	約90	約160
日南市	約40	約70	約110
小林市		約70	約70
日向市	約50	約40	約100
串間市	約10	約30	約40
西都市		約60	約60
えびの市		約50	約50
三股町		約20	約20
高原町		約20	約20
国富町		約30	約30
綾町		約10	約10
高鍋町	-	約30	約40
新富町	-	約40	約40
西米良村		約20	約20
木城町		約20	約20
川南町	-	約30	約40
都農町	-	約20	約20
門川町	約20	約10	約30
諸塚村		約20	約20
椎葉村		約30	約30
美郷町		約40	約40
高千穂町		約10	約10
日之影町		約20	約20
五ヶ瀬町		約10	約10
合計	約260	約1,200	約1,500

－：わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。



④交通施設被害

鉄道（想定ケース①）

路線	津波浸水域 被害(箇所)	津波浸水域外 被害(箇所)	計 (箇所)
日豊本線	約100	約270	約370
日南線	約20	約140	約160
吉都線		約110	約110
肥薩線		約20	約20
宮崎空港線	-	-	-
合計	約120	約540	約660

－：わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、路線別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

④交通施設被害

鉄道（想定ケース②）

路線	津波浸水域 被害(箇所)	津波浸水域外 被害(箇所)	計 (箇所)
日豊本線	約90	約280	約370
日南線	約30	約180	約210
吉都線		約120	約120
肥薩線		約20	約20
宮崎空港線	-	-	-
合計	約110	約610	約720

－：わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、路線別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

④交通施設被害

港湾（想定ケース①）

区分	名称	岸壁		その他係留施設	
		岸壁数(箇所)	被害数(箇所)	施設数(箇所)	被害数(箇所)
重要	細島港	23	16	26	20
	宮崎港	12	7	21	16
	油津港	10	3	16	4
	小計	45	26	63	40
地方	古江港			32	20
	熊野江港			7	4
	延岡港	1	1	14	8
	延岡新港	7	4	2	1
	美々津港			15	14
	内海港	2	1	16	9
	外浦港	5	1	26	4
	福島港	2	-	35	4
	黒井港			2	-
	大島港			8	2
	大納港			2	-
	平岩港			4	4
	小計	17	7	163	70
合計		62	33	226	110

— : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、港湾別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

④交通施設被害

港湾（想定ケース②）

区分	名称	岸壁		その他係留施設	
		岸壁数(箇所)	被害数(箇所)	施設数(箇所)	被害数(箇所)
重要	細島港	23	16	26	20
	宮崎港	12	7	21	15
	油津港	10	9	16	14
	小計	45	32	63	49
地方	古江港			32	21
	熊野江港			7	5
	延岡港	1	1	14	8
	延岡新港	7	4	2	1
	美々津港			15	14
	内海港	2	1	16	10
	外浦港	5	4	26	22
	福島港	2	2	35	28
	黒井港			2	2
	大島港			8	7
	大納港			2	2
	平岩港			4	4
	小計	17	12	163	124
合計		62	44	226	173

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、港湾別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

④交通施設被害

港湾 防波堤（想定ケース①）

区分	名称	防波堤 延長(m)	被災防波堤 延長(m)
重要	細島港	約2,300	約600
	宮崎港	約4,100	約3,000
	油津港	約1,700	約50
	小計	約8,200	約3,700
地方	古江港	約2,300	約1,900
	熊野江港	約410	約410
	延岡港	約1,300	約1,200
	延岡新港	約1,700	約1,700
	美々津港	約1,400	約1,400
	内海港	約1,200	約1,100
	外浦港	約600	約240
	福島港	約2,200	-
	黒井港	約280	約250
	大島港	約540	約240
	大納港	約280	約280
	平岩港	約320	約300
	小計	約12,000	約8,900
	合計		約21,000

－：わずか

（注1）今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、港湾別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

④交通施設被害

港湾 防波堤（想定ケース②）

区分	名称	防波堤 延長(m)	被災防波堤 延長(m)
重要	細島港	約2,300	約600
	宮崎港	約4,100	約2,600
	油津港	約1,700	約870
	小計	約8,200	約4,000
地方	古江港	約2,300	約1,800
	熊野江港	約410	約410
	延岡港	約1,300	約1,000
	延岡新港	約1,700	約900
	美々津港	約1,400	約1,400
	内海港	約1,200	約1,200
	外浦港	約600	約460
	福島港	約2,200	約700
	黒井港	約280	約250
	大島港	約540	約540
	大納港	約280	約280
	平岩港	約320	約300
	小計	約12,000	約9,200
	合計		約21,000

（注1）今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、港湾別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

④交通施設被害

漁港（想定ケース①）

種別	名称	岸壁		その他係留施設	
		岸壁数(箇所)	被害数(箇所)	施設数(箇所)	被害数(箇所)
1	都農漁港	3	3	11	10
1	富田漁港	1	1	6	6
1	野島漁港	1	1	5	3
1	鶯巣漁港			3	1
1	富士漁港			5	3
1	宮浦漁港			4	2
1	鵜戸漁港			5	2
1	夫婦浦漁港	1	-	3	-
1	市木漁港	2	-	9	1
1	本城漁港			7	1
1	福島高松漁港			2	-
2	川南漁港	4	4	9	9
2	青島漁港	3	2	12	9
2	大堂津漁港	5	1	4	1
2	南浦漁港	1	1	13	8
2	都井漁港	2	-	11	1
3	島野浦漁港	12	7	12	8
3	土々呂漁港	3	2	22	14
3	門川漁港	8	6	15	10
3	油津漁港	1	-	15	4
3	目井津漁港	8	2	12	2
4	北浦漁港	13	8	20	12
4	宮之浦漁港	3	-	9	1
合計		71	38	214	107

－：わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、漁港別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

④交通施設被害

漁港（想定ケース②）

種別	名称	岸壁		その他係留施設	
		岸壁数(箇所)	被害数(箇所)	施設数(箇所)	被害数(箇所)
1	都農漁港	3	3	11	10
1	富田漁港	1	1	6	6
1	野島漁港	1	1	5	3
1	鶯巣漁港			3	2
1	富士漁港			5	3
1	宮浦漁港			4	3
1	鵜戸漁港			5	4
1	夫婦浦漁港	1	1	3	2
1	市木漁港	2	2	9	8
1	本城漁港			7	6
1	福島高松漁港			2	1
2	川南漁港	4	4	9	9
2	青島漁港	3	2	12	9
2	大堂津漁港	5	4	4	3
2	南浦漁港	1	-	13	8
2	都井漁港	2	2	11	10
3	島野浦漁港	12	7	12	8
3	土々呂漁港	3	2	22	14
3	門川漁港	8	5	15	10
3	油津漁港	1	1	15	13
3	目井津漁港	8	7	12	11
4	北浦漁港	13	8	20	13
4	宮之浦漁港	3	3	9	8
合計		71	53	214	164

－：わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、漁港別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。



④交通施設被害

漁港 防波堤（想定ケース①）

種別	名称	防波堤 延長(m)	被災防波堤 延長(m)
1	都農漁港	約1,100	約1,100
1	富田漁港	-	-
1	野島漁港	約550	約550
1	鶯巣漁港	約100	約100
1	富士漁港	約70	-
1	宮浦漁港	約340	約310
1	鵜戸漁港	約380	約380
1	夫婦浦漁港	約150	約90
1	市木漁港	約1,200	約400
1	本城漁港	約240	約110
1	福島高松漁港	約690	-
2	川南漁港	約1,600	約1,300
2	青島漁港	約1,200	約860
2	大堂津漁港	約700	-
2	南浦漁港	約3,900	約3,900
2	都井漁港	約970	約440
3	島野浦漁港	約1,200	約940
3	土々呂漁港	約410	約410
3	門川漁港	約3,200	約3,200
3	目井津漁港	約2,300	約790
4	北浦漁港	約1,700	約1,700
4	宮之浦漁港	約1,500	約1,300
合計		約23,000	約18,000

－ ：わずか

（注1）今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、漁港別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

④交通施設被害

漁港 防波堤（想定ケース②）

種別	名称	防波堤 延長(m)	被災防波堤 延長(m)
1	都農漁港	約1,100	約1,100
1	富田漁港	-	-
1	野島漁港	約550	約550
1	鶯巣漁港	約100	約100
1	富士漁港	約70	約70
1	宮浦漁港	約340	約310
1	鵜戸漁港	約380	約190
1	夫婦浦漁港	約150	約150
1	市木漁港	約1,200	約1,200
1	本城漁港	約240	約110
1	福島高松漁港	約690	-
2	川南漁港	約1,600	約1,300
2	青島漁港	約1,200	約540
2	大堂津漁港	約700	約700
2	南浦漁港	約3,900	約3,900
2	都井漁港	約970	約440
3	島野浦漁港	約1,200	約830
3	土々呂漁港	約410	約410
3	門川漁港	約3,200	約1,500
3	目井津漁港	約2,300	約2,300
4	北浦漁港	約1,700	約1,700
4	宮之浦漁港	約1,500	約1,500
合計		約23,000	約19,000

－ ：わずか

（注1）今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、漁港別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

区分	項目
④交通施設被害	空港（宮崎空港）

■被害様相

地震直後の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宮崎空港の大部分が浸水する。</li> <li>・ターミナルビル前面の浸水深は最大 1.0m 程度となる。</li> <li>・空港内の最大浸水深は東側先端部で発生するが、10m は超えていない。</li> <li>・ターミナルビルは、昭和 56 年に改正した建築基準法に適合しており倒壊等の恐れは少ないが、天井の化粧板が落下するなど、非構造部材の損傷がいたるところで発生する。</li> <li>・電気、水道等のライフラインが停止する。</li> <li>・管制塔は大地震後でも機能継続が可能。</li> <li>・液状化発生可能性が高いと予想される。(液状化対策状況について確認が必要)</li> <li>・震度 6 強以上の揺れにより、点検等のため閉鎖する。</li> <li>・津波により浸水し、漂流物や土砂の漂着、漂流物による施設の破損、場周柵の倒壊などの被害が発生する。</li> <li>・地盤沈下により、空港敷地が沈下した場合、津波による冠水が継続し、復旧が長期化する。</li> </ul>
1 日後の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・津波警報・注意報が解除されるまでの間、復旧作業や緊急輸送が滞る。</li> </ul>
3 日後の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自衛隊の救援機の離着陸に必要な滑走路の土砂・がれきの除去等が完了し、緊急物資・人員輸送のための暫定運用が開始される。</li> </ul>
1 か月後の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土砂やがれきの除去が完了し、民間機の暫定的な運用が再開される。</li> </ul>

⑤生活への影響

避難者（想定ケース①）

市町村	被災1日後			被災1週間後			被災1ヶ月後		
	避難者 (人)	避難所	避難所外	避難者 (人)	避難所	避難所外	避難者 (人)	避難所	避難所外
宮崎市	約122,000	約77,000	約46,000	約155,000	約90,000	約65,000	約157,000	約47,000	約110,000
都城市	約4,900	約3,000	約2,000	約19,000	約9,500	約9,500	約12,000	約3,700	約8,600
延岡市	約66,000	約43,000	約23,000	約61,000	約46,000	約15,000	約59,000	約18,000	約41,000
日南市	約16,000	約10,000	約5,400	約15,000	約11,000	約4,700	約13,000	約3,900	約9,200
小林市	約1,000	約620	約410	約3,800	約1,900	約1,900	約2,300	約680	約1,600
日向市	約37,000	約25,000	約13,000	約36,000	約29,000	約6,500	約36,000	約11,000	約25,000
串間市	約1,400	約890	約480	約1,300	約720	約550	約780	約230	約550
西都市	約9,200	約5,500	約3,700	約13,000	約6,700	約6,700	約14,000	約4,300	約10,000
えびの市	約1,100	約690	約460	約2,900	約1,400	約1,400	約2,100	約630	約1,500
三股町	約880	約530	約350	約3,600	約1,800	約1,800	約2,400	約710	約1,700
高原町	約100	約60	約40	約420	約210	約210	約190	約60	約130
国富町	約3,000	約1,800	約1,200	約5,700	約2,900	約2,900	約5,600	約1,700	約3,900
綾町	約750	約450	約300	約1,800	約880	約880	約1,600	約490	約1,100
高鍋町	約12,000	約7,700	約4,400	約12,000	約7,500	約4,200	約13,000	約3,900	約9,200
新富町	約7,300	約4,500	約2,800	約8,900	約4,800	約4,000	約10,000	約3,100	約7,300
西米良村	約20	約10	約10	約80	約40	約40	約50	約10	約30
木城町	約2,100	約1,300	約850	約2,800	約1,400	約1,400	約3,300	約1,000	約2,300
川南町	約5,900	約3,600	約2,300	約7,900	約4,300	約3,600	約8,700	約2,600	約6,100
都農町	約3,200	約2,000	約1,300	約4,500	約2,400	約2,000	約4,700	約1,400	約3,300
門川町	約13,000	約8,300	約4,200	約12,000	約10,000	約2,000	約12,000	約3,600	約8,500
諸塚村	約40	約20	約20	約140	約70	約70	約90	約30	約60
椎葉村	約50	約30	約20	約220	約110	約110	約120	約40	約90
美郷町	約270	約160	約110	約790	約390	約390	約550	約160	約380
高千穂町	-	-	-	約70	約40	約40	約10	-	-
日之影町	約10	約10	-	約50	約30	約30	約10	-	約10
五ヶ瀬町	約10	約10	-	約80	約40	約40	約20	約10	約10
合計	約307,000	約196,000	約112,000	約370,000	約234,000	約135,000	約361,000	約108,000	約253,000

－：わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

⑤生活への影響

避難者（想定ケース②）

市町村	被災1日後			被災1週間後			被災1ヶ月後		
	避難者 (人)	避難所	避難所外	避難者 (人)	避難所	避難所外	避難者 (人)	避難所	避難所外
宮崎市	約116,000	約72,000	約43,000	約149,000	約85,000	約64,000	約150,000	約45,000	約105,000
都城市	約5,200	約3,100	約2,100	約20,000	約9,800	約9,800	約13,000	約3,800	約8,900
延岡市	約56,000	約37,000	約20,000	約53,000	約38,000	約16,000	約51,000	約15,000	約36,000
日南市	約26,000	約16,000	約9,300	約30,000	約19,000	約10,000	約31,000	約9,400	約22,000
小林市	約1,000	約600	約400	約3,800	約1,900	約1,900	約2,300	約680	約1,600
日向市	約35,000	約23,000	約12,000	約32,000	約25,000	約6,600	約32,000	約9,700	約23,000
串間市	約6,800	約4,300	約2,500	約7,600	約4,500	約3,100	約7,600	約2,300	約5,300
西都市	約8,900	約5,400	約3,600	約13,000	約6,600	約6,600	約14,000	約4,200	約9,900
えびの市	約1,100	約640	約430	約2,800	約1,400	約1,400	約2,000	約610	約1,400
三股町	約790	約480	約320	約3,300	約1,700	約1,700	約2,200	約650	約1,500
高原町	約130	約80	約50	約550	約280	約280	約280	約80	約200
国富町	約2,900	約1,800	約1,200	約5,700	約2,800	約2,800	約5,500	約1,600	約3,800
綾町	約740	約440	約300	約1,700	約860	約860	約1,600	約470	約1,100
高鍋町	約11,000	約6,600	約4,000	約11,000	約6,500	約4,800	約13,000	約3,900	約9,000
新富町	約7,000	約4,200	約2,700	約8,900	約4,700	約4,200	約11,000	約3,200	約7,400
西米良村	約20	約10	約10	約70	約40	約40	約40	約10	約30
木城町	約2,200	約1,300	約870	約2,800	約1,400	約1,400	約3,400	約1,000	約2,400
川南町	約5,800	約3,600	約2,300	約7,800	約4,300	約3,500	約8,500	約2,600	約6,000
都農町	約3,200	約1,900	約1,200	約4,500	約2,400	約2,000	約4,700	約1,400	約3,300
門川町	約12,000	約7,700	約4,000	約10,000	約8,400	約2,000	約10,000	約3,000	約7,100
諸塚村	約40	約20	約20	約130	約70	約70	約80	約20	約60
椎葉村	約50	約30	約20	約200	約100	約100	約110	約30	約80
美郷町	約260	約150	約100	約760	約380	約380	約530	約160	約370
高千穂町	-	-	-	約90	約40	約40	約10	-	約10
日之影町	約10	約10	-	約50	約30	約30	約10	-	約10
五ヶ瀬町	約10	約10	-	約70	約40	約40	約20	-	約10
合計	約301,000	約190,000	約110,000	約368,000	約225,000	約143,000	約364,000	約109,000	約254,000

－：わずか

（注1）今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

⑤生活への影響

帰宅困難者（想定ケース①）

市町村	就業者・ 通学者数 (人)	帰宅困難 者(人)
宮崎市	約219,000	約14,000
都城市	約87,000	約9,500
延岡市	約65,000	約3,100
日南市	約26,000	約1,600
小林市	約22,000	約2,400
日向市	約33,000	約2,400
串間市	約7,100	約630
西都市	約13,000	約1,800
えびの市	約8,300	約1,600
三股町	約8,900	約940
高原町	約3,000	約380
国富町	約8,600	約1,400
綾町	約3,000	約460
高鍋町	約11,000	約1,500
新富町	約8,100	約1,100
西米良村	約540	約100
木城町	約2,600	約430
川南町	約7,500	約860
都農町	約3,900	約530
門川町	約7,700	約690
諸塚村	約850	約90
椎葉村	約1,200	約90
美郷町	約2,100	約420
高千穂町	約5,900	約460
日之影町	約1,600	約220
五ヶ瀬町	約1,400	約130
合計	約558,000	約46,000

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

⑤生活への影響

帰宅困難者（想定ケース②）

市町村	就業者・ 通学者数 (人)	帰宅困難 者(人)
宮崎市	約219,000	約14,000
都城市	約87,000	約9,500
延岡市	約65,000	約3,100
日南市	約26,000	約1,600
小林市	約22,000	約2,400
日向市	約33,000	約2,400
串間市	約7,100	約630
西都市	約13,000	約1,800
えびの市	約8,300	約1,600
三股町	約8,900	約940
高原町	約3,000	約380
国富町	約8,600	約1,400
綾町	約3,000	約460
高鍋町	約11,000	約1,500
新富町	約8,100	約1,100
西米良村	約540	約100
木城町	約2,600	約430
川南町	約7,500	約860
都農町	約3,900	約530
門川町	約7,700	約690
諸塚村	約850	約90
椎葉村	約1,200	約90
美郷町	約2,100	約420
高千穂町	約5,900	約460
日之影町	約1,600	約220
五ヶ瀬町	約1,400	約130
合計	約558,000	約46,000

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

⑤生活への影響

物資 需要量 (想定ケース①)

市町村	被災1日後			被災1週間後			被災1ヶ月後		
	食糧 (食)	飲料水 (ℓ)	毛布 (枚)	食糧 (食)	飲料水 (ℓ)	毛布 (枚)	食糧 (食)	飲料水 (ℓ)	毛布 (枚)
宮崎市	約276,000	約1,139,000	約125,000	約325,000	約887,000	約123,000	約170,000	約290,000	約61,000
都城市	約11,000	約321,000	約5,900	約34,000	約170,000	約4,900	約13,000	約25,000	約3,000
延岡市	約155,000	約344,000	約64,000	約167,000	約284,000	約79,000	約64,000	約130,000	約30,000
日南市	約36,000	約121,000	約14,000	約39,000	約80,000	約17,000	約14,000	約25,000	約6,500
小林市	約2,200	約69,000	約1,200	約6,900	約32,000	約1,000	約2,500	約4,000	約620
日向市	約89,000	約178,000	約44,000	約106,000	約166,000	約58,000	約39,000	約99,000	約20,000
串間市	約3,200	約21,000	約670	約2,600	約8,900	約690	約840	約1,200	約320
西都市	約20,000	約78,000	約11,000	約24,000	約64,000	約9,300	約16,000	約22,000	約5,600
えびの市	約2,500	約39,000	約1,400	約5,200	約22,000	約1,100	約2,300	約3,400	約690
三股町	約1,900	約58,000	約1,100	約6,500	約33,000	約880	約2,600	約5,100	約530
高原町	約210	約9,300	約120	約760	約3,700	約100	約200	約290	約60
国富町	約6,500	約55,000	約3,600	約10,000	約39,000	約3,000	約6,000	約10,000	約1,800
綾町	約1,600	約19,000	約900	約3,200	約13,000	約750	約1,800	約3,200	約450
高鍋町	約28,000	約61,000	約12,000	約27,000	約56,000	約12,000	約14,000	約25,000	約5,600
新富町	約16,000	約53,000	約8,000	約17,000	約48,000	約7,200	約11,000	約22,000	約3,900
西米良村	約50	約1,000	約30	約150	約460	約20	約50	約50	約10
木城町	約4,600	約15,000	約2,600	約5,000	約13,000	約2,100	約3,600	約6,700	約1,300
川南町	約13,000	約45,000	約7,400	約16,000	約40,000	約6,800	約9,300	約17,000	約3,600
都農町	約7,100	約29,000	約3,900	約8,800	約24,000	約3,600	約5,100	約8,400	約1,900
門川町	約30,000	約52,000	約16,000	約37,000	約49,000	約20,000	約13,000	約33,000	約7,100
諸塚村	約80	約1,000	約50	約250	約510	約40	約90	約60	約20
椎葉村	約100	約1,100	約50	約390	約550	約50	約130	約70	約30
美郷町	約580	約11,000	約320	約1,400	約5,900	約270	約590	約890	約160
高千穂町	約10	約2,500	-	約130	約750	-	約10	-	-
日之影町	約20	約1,100	約10	約90	約350	約10	約10	約10	約10
五ヶ瀬町	約30	約1,700	約10	約140	約560	約10	約20	約10	約10
合計	約705,000	約2,726,000	約323,000	約844,000	約2,039,000	約351,000	約390,000	約731,000	約154,000

— : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。



⑤生活への影響

物資 需要量 (想定ケース②)

市町村	被災1日後			被災1週間後			被災1ヶ月後		
	食糧 (食)	飲料水 (ℓ)	毛布 (枚)	食糧 (食)	飲料水 (ℓ)	毛布 (枚)	食糧 (食)	飲料水 (ℓ)	毛布 (枚)
宮崎市	約261,000	約1,133,000	約116,000	約306,000	約866,000	約112,000	約162,000	約270,000	約57,000
都城市	約11,000	約326,000	約6,200	約35,000	約173,000	約5,200	約14,000	約25,000	約3,100
延岡市	約132,000	約340,000	約51,000	約135,000	約265,000	約60,000	約55,000	約100,000	約24,000
日南市	約58,000	約155,000	約30,000	約70,000	約136,000	約33,000	約34,000	約63,000	約14,000
小林市	約2,200	約69,000	約1,200	約6,900	約32,000	約1,000	約2,400	約4,000	約600
日向市	約82,000	約178,000	約37,000	約90,000	約159,000	約47,000	約35,000	約82,000	約17,000
串間市	約15,000	約51,000	約6,600	約16,000	約38,000	約6,500	約8,200	約11,000	約3,200
西都市	約19,000	約78,000	約11,000	約24,000	約63,000	約9,000	約15,000	約21,000	約5,400
えびの市	約2,300	約39,000	約1,300	約5,000	約21,000	約1,100	約2,200	約3,300	約650
三股町	約1,700	約56,000	約950	約6,000	約31,000	約790	約2,300	約4,600	約480
高原町	約270	約11,000	約150	約990	約4,900	約130	約300	約500	約80
国富町	約6,300	約54,000	約3,500	約10,000	約38,000	約2,900	約5,900	約9,900	約1,800
綾町	約1,600	約19,000	約890	約3,100	約13,000	約740	約1,700	約3,000	約440
高鍋町	約24,000	約61,000	約11,000	約24,000	約55,000	約10,000	約14,000	約24,000	約5,300
新富町	約15,000	約53,000	約7,900	約17,000	約48,000	約6,900	約11,000	約23,000	約3,900
西米良村	約50	約940	約30	約130	約390	約20	約40	約40	約10
木城町	約4,700	約15,000	約2,700	約5,100	約13,000	約2,200	約3,700	約6,900	約1,300
川南町	約13,000	約45,000	約7,200	約15,000	約39,000	約6,600	約9,200	約16,000	約3,500
都農町	約6,900	約29,000	約3,900	約8,700	約24,000	約3,600	約5,000	約8,200	約1,900
門川町	約28,000	約51,000	約12,000	約30,000	約45,000	約15,000	約11,000	約24,000	約5,500
諸塚村	約80	約1,000	約50	約240	約480	約40	約90	約60	約20
椎葉村	約100	約1,100	約50	約370	約510	約50	約120	約60	約30
美郷町	約560	約11,000	約310	約1,400	約5,800	約260	約570	約870	約150
高千穂町	約10	約2,900	約10	約160	約910	-	約10	約10	-
日之影町	約20	約1,100	約10	約100	約350	約10	約10	約10	約10
五ヶ瀬町	約20	約1,600	約10	約130	約540	約10	約20	約10	約10
合計	約686,000	約2,782,000	約311,000	約810,000	約2,074,000	約325,000	約393,000	約702,000	約149,000

— : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

⑤生活への影響

医療機能（想定ケース①）

市町村	人的被害			要転院 患者数 (人)	医療需要	
	死者 (人)	負傷者 (人)	重傷者 (人)		要入院 (人)	要外来 (人)
宮崎市	約2,100	約6,400	約3,600	約1,700	約5,500	約2,800
都城市	約60	約960	約540	約400	約950	約420
延岡市	約3,300	約2,800	約1,500	約580	約2,400	約1,300
日南市	約1,000	約750	約390	約230	約720	約360
小林市	約10	約180	約100	約110	約210	約80
日向市	約5,900	約2,000	約1,000	約260	約1,900	約1,000
串間市	約70	約130	約60	約30	約100	約70
西都市	約200	約810	約460	約120	約600	約350
えびの市	約20	約310	約170	約40	約220	約130
三股町	約10	約150	約90	約10	約100	約70
高原町	-	約30	約20	約10	約20	約10
国富町	約70	約360	約200	約40	約250	約160
綾町	約20	約120	約70	-	約70	約50
高鍋町	約400	約780	約440	約90	約560	約350
新富町	約250	約530	約290	-	約320	約240
西米良村	-	約10	-	-	-	-
木城町	約60	約200	約120	約10	約130	約90
川南町	約520	約770	約430	約120	約600	約340
都農町	約250	約320	約180	約20	約230	約150
門川町	約1,000	約450	約240	約100	約450	約210
諸塚村	-	約10	-	-	約10	-
椎葉村	-	約10	約10	-	約10	約10
美郷町	約10	約70	約40	約10	約50	約30
高千穂町	-	-	-	約10	約10	-
日之影町	-	-	-	-	約10	-
五ヶ瀬町	-	-	-	約10	約10	-
合計	約15,000	約18,000	約10,000	約3,900	約15,000	約8,300

－：わずか

（注1）今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

⑤生活への影響

医療機能（想定ケース②）

市町村	人的被害			要転院 患者数 (人)	医療需要	
	死者 (人)	負傷者 (人)	重傷者 (人)		要入院 (人)	要外来 (人)
宮崎市	約2,000	約6,300	約3,500	約1,700	約5,400	約2,800
都城市	約60	約1,000	約570	約400	約980	約440
延岡市	約2,400	約2,700	約1,500	約550	約2,300	約1,300
日南市	約2,600	約2,100	約1,100	約370	約1,800	約1,000
小林市	約10	約180	約100	約110	約210	約80
日向市	約3,800	約1,900	約970	約250	約1,600	約900
串間市	約510	約910	約460	約60	約570	約460
西都市	約190	約790	約450	約120	約590	約350
えびの市	約20	約290	約160	約40	約210	約120
三股町	約10	約140	約80	約10	約90	約60
高原町	-	約40	約20	約10	約30	約20
国富町	約70	約360	約200	約40	約250	約150
綾町	約20	約120	約70	-	約70	約50
高鍋町	約310	約790	約440	約80	約550	約350
新富町	約200	約530	約290	-	約310	約230
西米良村	-	約10	-	-	-	-
木城町	約60	約210	約120	約10	約130	約90
川南町	約520	約760	約430	約120	約590	約330
都農町	約250	約310	約170	約20	約220	約140
門川町	約990	約480	約250	約100	約450	約230
諸塚村	-	約10	-	-	約10	-
椎葉村	-	約10	約10	-	約10	約10
美郷町	約10	約70	約40	約10	約50	約30
高千穂町	-	-	-	約10	約10	-
日之影町	-	-	-	-	約10	-
五ヶ瀬町	-	-	-	約10	約10	-
合計	約14,000	約20,000	約11,000	約4,000	約16,000	約9,100

－：わずか

（注1）今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

区分	項目
⑤生活への影響	保健衛生、防疫、遺体処理等

### ■被害様相

地震発生直後	
避難場所における衛生環境の悪化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・津波避難ビルなどに一時的に避難した住民が、繰り返し襲う津波に対して、避難所へ移動するタイミングを逸し、地震発生時間によっては、夜を明かすことになる。</li> <li>・津波による被害が甚大な、沿岸 10 市町を中心に、多数の避難者が避難所に避難し、避難所からあふれる事態が予想される。</li> <li>・一人当たりの居住スペースの減少、十分な数の毛布や非常食、<b>災害用</b>トイレ、暖房器具等の不足、健康管理のための医師・保健師等の不足、テントや車中泊による屋外生活者の発生など、保健衛生環境が悪化する。</li> </ul>
下水処理機能の支障	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内の広範囲にわたり下水処理機能に支障が生じるため、し尿などの処理が滞り、保健衛生環境が悪化する。</li> <li>・県内の多くの地域では浄化槽に頼っている。浄化槽は、比較的地震に強い施設・設備であるといわれているが、設置状況などによっては破損等の被害を受け、使用できない状況になることも十分に想定される。</li> </ul>

概ね 1 日後～数日後	
遺体捜索、処理等に係る人的・物的資源の不足	<ul style="list-style-type: none"> <li>・死者・行方不明者の捜索範囲が極めて広範囲となり、消防・警察・自衛隊の人的・物的資源の多くを投入するため、復旧活動に支障が生じる。</li> <li>・死者数が膨大であり、迅速な遺体処理が困難になる。</li> <li>・遺体の安置場所、棺、ドライアイスが不足し、夏季には遺体の腐乱等による衛生上の問題が発生する。</li> <li>・検死が可能な人員等が不足し、多数の遺体の身元確認が困難となる。</li> </ul>

概ね 1 週間後	
暑さ対策の必要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏季の避難場所、仮設住宅における暑さ対策が求められるが、対応すべき場所が膨大な数となり、人的・物的資源の両面から対応が遅れる。その結果、高齢者・乳幼児を中心に熱中症や脱水症状、食中毒が発生する。</li> </ul>
火葬場の不足、火葬の困難	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの火葬場が強い揺れに見舞われ被災する上に、燃料不足等により火葬が困難となる。</li> <li>・火葬が困難な場合、衛生上の問題から土葬や仮埋葬が行われる。</li> </ul>
畜舎などへの対策の必要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設備の被災、人、燃料、敷材などが不足し、畜舎などの衛生面が悪化し、家畜などへの衛生上の問題が発生する。</li> <li>・<b>家畜伝染病の発生が重なれば、その処置のための人員確保は難しい。</b></li> </ul>

概ね 1 年後	
行方不明者捜索の長期化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1 年を経過しても行方不明者の捜索が終わらず、消防・警察・自衛隊の人的・物的資源を引き続き投入することが必要となる。</li> </ul>

⑥災害廃棄物等

災害廃棄物等（想定ケース①）

市町村	災害廃棄物(万トン)		
	災害廃棄物	津波堆積物	計
宮崎市	約360	約100	約460
都城市	約30		
延岡市	約240	約80	約320
日南市	約60	約30	約90
小林市	約10		
日向市	約180	約50	約230
串間市	-	約20	約20
西都市	約40		
えびの市	約10		
三股町	約10		
高原町	-		
国富町	約20		
綾町	-		
高鍋町	約50	約20	約70
新富町	約30	約10	約40
西米良村	-		
木城町	約10		
川南町	約40	約10	約50
都農町	約20	約10	約30
門川町	約60	約20	約80
諸塚村	-		
椎葉村	-		
美郷町	-		
高千穂町	-		
日之影町	-		
五ヶ瀬町	-		
合計	約1,200	約330	約1,500

— : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

⑥災害廃棄物等

災害廃棄物等（想定ケース②）

市町村	災害廃棄物(万トン)		
	災害廃棄物	津波堆積物	計
宮崎市	約330	約100	約430
都城市	約30		
延岡市	約190	約70	約260
日南市	約130	約40	約170
小林市	約10		
日向市	約150	約50	約200
串間市	約40	約30	約70
西都市	約40		
えびの市	約10		
三股町	約10		
高原町	-		
国富町	約20		
綾町	-		
高鍋町	約40	約10	約60
新富町	約30	約10	約40
西米良村	-		
木城町	約10		
川南町	約40	約10	約40
都農町	約20	約10	約30
門川町	約50	約20	約70
諸塚村	-		
椎葉村	-		
美郷町	-		
高千穂町	-		
日之影町	-		
五ヶ瀬町	-		
合計	約1,100	約360	約1,500

－ ：わずか

（注1）今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

⑦その他の被害

エレベータ内閉じ込め（想定ケース①）

市町村	閉じ込めにつながり得るエレベータ停止建物棟数（棟）		閉じ込めにつながり得るエレベータ停止台数（台）		エレベータ閉じ込め者数（人）					
					冬深夜		夏12時		冬18時	
	事務所	住宅	事務所	住宅	事務所	住宅	事務所	住宅	事務所	住宅
宮崎市	約40	約90	約80	約190	-	-	約10	約10	約10	約10
都城市	約10	-	約10	約10	-	-	-	-	-	-
延岡市	約10	約110	約10	約230	-	-	-	-	-	-
日南市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
小林市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日向市	-	約50	約10	約90	-	-	-	-	-	-
串間市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
西都市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
えびの市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
三股町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高原町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
国富町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
綾町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高鍋町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
新富町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
西米良村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
木城町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
川南町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
都農町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
門川町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
諸塚村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
椎葉村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
美郷町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高千穂町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日之影町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
五ヶ瀬町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	約60	約260	約120	約520	-	-	約20	約10	約10	約20

－：わずか

（注1）今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

⑦その他の被害

エレベータ内閉じ込め（想定ケース②）

市町村	閉じ込めにつながり得るエレベータ停止建物棟数（棟）		閉じ込めにつながり得るエレベータ停止台数（台）		エレベータ閉じ込め者数（人）					
					冬深夜		夏12時		冬18時	
	事務所	住宅	事務所	住宅	事務所	住宅	事務所	住宅	事務所	住宅
宮崎市	約40	約90	約80	約190	-	-	約10	約10	約10	約10
都城市	約10	-	約10	約10	-	-	-	-	-	-
延岡市	約10	約110	約10	約220	-	-	-	-	-	-
日南市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
小林市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日向市	-	約50	約10	約90	-	-	-	-	-	-
串間市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
西都市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
えびの市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
三股町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高原町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
国富町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
綾町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高鍋町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
新富町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
西米良村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
木城町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
川南町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
都農町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
門川町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
諸塚村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
椎葉村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
美郷町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高千穂町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日之影町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
五ヶ瀬町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	約60	約260	約120	約520	-	-	約20	約10	約10	約20

－：わずか

（注1）今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。



区分	項目
⑦その他の被害	長周期地震動

### ■被害様相

地震発生直後	
上層階における揺れの増幅	<ul style="list-style-type: none"> <li>一部の高層ビルでは、揺れ始めに気付いた時点から、徐々に大きくゆっくりとした揺れになる。</li> <li>地表の揺れが小さい遠隔地においても、高層ビルの上層階では揺れが大きく増幅する。</li> <li>建物全体で見た場合、必ずしも最上階で揺れが最大となるとは限らず、高次モードの影響により、中間階においても局部的に応答が増幅する場合がある。</li> <li>上層階の多くの人々が、揺れによって動作上の支障があり、吐き気やめまいを感じる人も発生する。</li> </ul>
屋内収容物転倒・落下による人的被害の発生	<ul style="list-style-type: none"> <li>固定していない家具・什器の転倒、コピー機等のキャスター付什器の滑りによって、人的被害が発生する。</li> <li>家具・什器を固定していても、正しい方法により固定されていない場合、本来の固定効果が発揮されず、転倒や滑りによる人的被害が発生する場合がある。</li> </ul>
全館一斉避難の発生避難中の二次災害の発生	<ul style="list-style-type: none"> <li>揺れに対する不安から、地上へ避難しようとする人が多数発生する。</li> <li>建築物の防災設計は火災からの特定階避難を前提としているが、「全館一斉避難」が発生した場合、非常階段等に多数の在館者が殺到し、転倒等による二次災害が発生する。</li> </ul>
火災の発生	<ul style="list-style-type: none"> <li>火災が発生した場合、十分な消火活動ができず、中間階からの火災の場合は、地上あるいは特定階への避難もできない可能性もあり、とり残される。</li> </ul>
建物被害の発生	<ul style="list-style-type: none"> <li>地震動の卓越周期と建物の固有周期が一致した場合、揺れが大きく増幅する。</li> <li>病院などの中低層免震においても、免震層許容変位量を超える大変位やエキスパンションジョイント被害等が発生する場合がある。</li> </ul>
建物内被害状況確認における支障	<ul style="list-style-type: none"> <li>エレベータが停止しているため、階段での移動が必要となり、大規模な建物であるほど各フロアの被害確認に多くの時間・労力を要する。</li> <li>被災の影響により技術者の数が不足し、構造安全性の詳細確認までに1週間以上を要する。</li> </ul>

概ね1日後～数日後	
事業継続・生活機能継続への影響	<ul style="list-style-type: none"> <li>オフィスビルでは、非常用発電機の無給油連続運転時間は最長3日間程度であり、系統電力の供給停止が長期化した場合、事業継続が困難となる。</li> <li>エレベータが止まったマンションでは、停電・断水等によりいわゆる「高層難民」となる上層階居住者が多数発生する。特に階段の昇降に必要な体力が低下している高齢者等にとって、生活を継続することが困難となる場合がある。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・津波浸水により、地下室の電源施設が冠水した場合は、各種ライフラインが停止し、その復旧に時間を要することから、住民の生活に大きな支障が発生し、場合によっては避難所生活を強いることとなる。</li> </ul>
地域防災貢献への影響	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に行政と協定を締結していた高層ビルでも、安全確認に時間を要するなどの理由により、災害時の施設利用による地域貢献ができなくなる。</li> </ul>

区分	項目
⑦その他の被害	道路閉塞

■被害様相

地震発生直後	
沿道の建造物の倒壊、火災等による道路閉塞の発生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幅員の狭い道路を中心として、沿道の建物被害により道路が閉塞し、緊急通行車両等の通行が妨げられる。</li> <li>・閉塞の程度によっては、人の避難が妨げられる。</li> </ul>
消火活動への影響	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道路閉塞により、消防自動車が行き止まりになるなどにより延焼が拡大する。</li> </ul>
救命・救急活動の遅れ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・救急自動車の通行が困難となることなどにより、負傷者等の医療機関への搬送が遅れ、人的被害が拡大する。</li> </ul>

概ね1日後～数日後	
道路閉塞に伴う緊急車両の通行路の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道路啓開の実施により、徐々に緊急通行車両等の通行が可能となる。</li> </ul>

区分	項目
⑦その他の被害	道路上の自動車への落石・崩土

#### ■被害様相

地震発生直後	
道路上の自動車への落石・崩土による巻き込まれ	<ul style="list-style-type: none"> <li>走行中の自動車が、地震による落石や崩土に巻き込まれ、死傷者等が発生する。</li> </ul>
救命・救急、復旧作業のための人的・物的資源	<ul style="list-style-type: none"> <li>落石や崩土に巻き込まれた被災者を発見・救助するための赤外線探知機等の機材が必要となる。</li> <li>危険な場所での作業となるため、レスキュー部隊等の特殊な人的資源が必要となる。</li> <li>土砂の崩壊を避けるための適切な指示を行う専門家等の派遣が必要となる。</li> </ul>
二次災害の危険	<ul style="list-style-type: none"> <li>救出・救助作業中の余震等により、落石や崩土等が再度発生し、被災者や救助部隊等が二次被災する。</li> </ul>
深層崩壊の危険	<ul style="list-style-type: none"> <li>北部の耳川上流などでは、揺れによって深層崩壊が引き起こされ、自動車などが巻き込まれる可能性があるが、規模が大きいため、その実態の把握には時間を要することになる。</li> </ul>

概ね1日後～数日後	
孤立集落の発生	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活道路上に崩土が堆積した場合、その奥の住民が孤立する可能性があるが、実態把握に時間を要し、また道路啓開までの復旧作業人員の確保も必要となる。救援物資を人力またはヘリコプター等で投入する必要がある。</li> </ul>

区分	項目
⑦その他の被害	交通人的被害（道路）

■被害様相

地震発生直後	
ドライバーの運転ミスによる交通事故	・揺れに驚いたドライバーがハンドル操作を誤り、交通事故が発生する。
橋梁の落橋・倒壊に伴う事故	・揺れによって橋梁が落下または倒壊し、反応が遅れたドライバーが巻き込まれる。
道路への落石、斜面崩壊、道路の陥没等による交通事故	・揺れによって落石、斜面崩壊、道路の陥没等が発生し、反応が遅れたドライバーが道路上の障害物を避けきれず、交通事故が発生する。
運転中に津波に巻き込まれる	・道路上を走行中（または避難中）に津波に巻き込まれる。 ・渋滞によって車両の走行が困難な状況の中、車の中に取り残され、津波に巻き込まれる。
交通施設が機能停止することによる交通事故	・信号機や道路照明が停電等で機能停止し、ドライバーの混乱により交通事故が発生する。
道路渋滞による緊急搬送車両（医師や負傷者の搬送等）の遅れによる症状悪化	・倒壊した建物や落下物等による道路閉塞、交通事故の発生等により、緊急搬送車両（医師や負傷者の搬送等）の通行の支障となり、二次的な人的被害が発生する。
地下トンネルや地下駐車場の浸水による人的被害	・鉄道のアンダーパス、地下道や地下駐車場が津波浸水することにより人的被害が発生する。
自動車の落下事故等による道路周辺の住民の人的被害	・自動車の高架橋からの落下事故等が発生し、道路周辺の地域の住民に人的被害が発生する。

区分	項目
⑦その他の被害	交通人的被害（鉄道）

■被害様相

地震発生直後	
運行中の揺れによる脱線・衝突事故	・揺れによって脱線・衝突事故が発生し、人的被害が発生する。
運行中の列車が津波にのみ込まれる	・走行中の列車は大きな揺れや津波警報を受けて停止するが、乗客の避難が遅れて津波に巻き込まれる。
急停車等の措置に伴う人的被害	・揺れを感知して急停車することにより、乗客の中にけが人等が発生する。
列車からの避難中のけが	・乗客が列車から避難する際に軌道上等の避難ルートでけがをする。
車両の脱線・落下事故等による線路周辺の住民の人的被害	・列車の脱線や高架からの落下事故等が発生し、線路周辺の地域の住民に人的被害が発生する。

概ね1日後～数日後	
孤立車両の発生	・路線上前後が崩落・冠水等で人の通行も不能となり、外部から近づくことも困難な急峻地等に車両が立ち止まり、車両内避難者が発生。食料等も少なくなる中、救出がはかどらない可能性がある。

⑦その他の被害

要配慮者（想定ケース①）

市町村	被災1日後			被災1週間後			被災1ヶ月後		
	避難者 (人)	避難所	避難所外	避難者 (人)	避難所	避難所外	避難者 (人)	避難所	避難所外
宮崎市	約24,000	約15,000	約9,100	約31,000	約18,000	約13,000	約31,000	約9,400	約22,000
都城市	約1,100	約680	約450	約4,400	約2,200	約2,200	約2,800	約850	約2,000
延岡市	約15,000	約9,900	約5,200	約14,000	約11,000	約3,400	約14,000	約4,100	約9,500
日南市	約4,700	約3,000	約1,600	約4,600	約3,200	約1,400	約3,900	約1,200	約2,800
小林市	約290	約170	約120	約1,100	約540	約540	約640	約190	約450
日向市	約7,800	約5,200	約2,700	約7,600	約6,200	約1,400	約7,600	約2,300	約5,300
串間市	約400	約260	約140	約370	約210	約160	約230	約70	約160
西都市	約2,400	約1,400	約960	約3,500	約1,800	約1,800	約3,700	約1,100	約2,600
えびの市	約310	約190	約120	約780	約390	約390	約570	約170	約400
三股町	約210	約130	約80	約860	約430	約430	約570	約170	約400
高原町	約20	約10	約10	約110	約50	約50	約50	約10	約30
国富町	約720	約430	約290	約1,400	約690	約690	約1,300	約400	約940
綾町	約160	約100	約70	約390	約190	約190	約360	約110	約250
高鍋町	約2,800	約1,800	約1,000	約2,700	約1,700	約970	約3,000	約900	約2,100
新富町	約1,400	約860	約540	約1,700	約920	約770	約2,000	約590	約1,400
西米良村	約10	-	-	約30	約10	約10	約10	-	約10
木城町	約400	約240	約160	約530	約260	約260	約630	約190	約440
川南町	約1,700	約1,000	約650	約2,200	約1,200	約1,000	約2,400	約730	約1,700
都農町	約710	約440	約280	約990	約540	約450	約1,000	約310	約730
門川町	約2,800	約1,800	約930	約2,700	約2,300	約440	約2,700	約800	約1,900
諸塚村	約10	約10	-	約50	約20	約20	約30	約10	約20
椎葉村	約10	約10	約10	約60	約30	約30	約40	約10	約20
美郷町	約90	約50	約30	約250	約130	約130	約180	約50	約120
高千穂町	-	-	-	約10	-	-	-	-	-
日之影町	-	-	-	約20	約10	約10	-	-	-
五ヶ瀬町	-	-	-	約20	約10	約10	-	-	-
合計	約68,000	約43,000	約25,000	約81,000	約52,000	約30,000	約79,000	約24,000	約55,000

－：わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

(注2) 属性間での重複があります。

⑦その他の被害

要配慮者（想定ケース②）

市町村	被災1日後			被災1週間後			被災1ヶ月後		
	避難者 (人)	避難所	避難所外	避難者 (人)	避難所	避難所外	避難者 (人)	避難所	避難所外
宮崎市	約23,000	約14,000	約8,700	約30,000	約17,000	約13,000	約30,000	約9,000	約21,000
都城市	約1,200	約710	約480	約4,500	約2,300	約2,300	約2,900	約880	約2,100
延岡市	約13,000	約8,400	約4,600	約12,000	約8,600	約3,600	約12,000	約3,500	約8,200
日南市	約7,700	約4,900	約2,800	約8,900	約5,800	約3,100	約9,400	約2,800	約6,600
小林市	約280	約170	約110	約1,100	約540	約540	約630	約190	約440
日向市	約7,300	約4,800	約2,500	約6,700	約5,300	約1,400	約6,800	約2,000	約4,700
串間市	約2,000	約1,200	約730	約2,200	約1,300	約910	約2,200	約660	約1,500
西都市	約2,300	約1,400	約930	約3,400	約1,700	約1,700	約3,700	約1,100	約2,600
えびの市	約290	約170	約120	約750	約380	約380	約540	約160	約380
三股町	約190	約110	約80	約790	約400	約400	約520	約160	約360
高原町	約30	約20	約10	約140	約70	約70	約70	約20	約50
国富町	約700	約420	約280	約1,400	約680	約680	約1,300	約390	約920
綾町	約160	約100	約70	約380	約190	約190	約350	約100	約240
高鍋町	約2,400	約1,500	約910	約2,600	約1,500	約1,100	約3,000	約890	約2,100
新富町	約1,300	約810	約520	約1,700	約890	約800	約2,000	約610	約1,400
西米良村	約10	-	-	約20	約10	約10	約10	-	約10
木城町	約410	約250	約170	約540	約270	約270	約650	約190	約450
川南町	約1,600	約1,000	約630	約2,200	約1,200	約990	約2,400	約720	約1,700
都農町	約690	約420	約270	約980	約530	約450	約1,000	約310	約720
門川町	約2,600	約1,700	約880	約2,300	約1,800	約440	約2,200	約670	約1,600
諸塚村	約10	約10	-	約40	約20	約20	約30	約10	約20
椎葉村	約10	約10	約10	約60	約30	約30	約30	約10	約20
美郷町	約80	約50	約30	約240	約120	約120	約170	約50	約120
高千穂町	-	-	-	約10	約10	約10	-	-	-
日之影町	-	-	-	約20	約10	約10	-	-	-
五ヶ瀬町	-	-	-	約20	約10	約10	-	-	-
合計	約67,000	約43,000	約25,000	約83,000	約51,000	約32,000	約82,000	約24,000	約57,000

ー：わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

(注2) 属性間での重複があります。



⑦その他の被害

避難所の要配慮者（想定ケース①）

（ 1週間後の避難所避難者に占める ）

市町村	65歳以上の単身高齢者（人）	5歳未満の乳幼児（人）	身体障害者（人）	知的障害者（人）	精神障害者（人）	要介護認定者（要支援者を除く）（人）	難病患者（人）	妊産婦（人）	外国人（人）
宮崎市	約5,200	約4,100	約4,400	約730	約570	約3,100	約760	約840	約470
都城市	約640	約430	約580	約110	約40	約430	約90	約90	約60
延岡市	約4,200	約1,900	約2,700	約60	-	約2,300	約370	約380	約130
日南市	約1,500	約410	約760	約150	約60	約580	約90	約70	約80
小林市	約230	約80	約120	約20	約20	約100	約20	約20	約20
日向市	約1,600	約1,300	約1,700	約360	約220	約1,100	約260	約260	約140
串間市	約90	約30	約50	約10	-	約40	約10	約10	-
西都市	約680	約230	約420	約80	約30	約330	約60	約50	約20
えびの市	約150	約50	約110	約20	約10	約100	約10	約10	約20
三股町	約160	約100	約100	約10	約10	約60	約10	約20	-
高原町	約20	約10	約20	-	-	約10	-	-	-
国富町	約270	約90	約170	約30	約10	約130	約30	約20	約20
綾町	約30	約40	約50	約10	-	約40	約10	約10	-
高鍋町	約760	約330	約410	約70	約40	約250	約50	約70	約20
新富町	約260	約230	約250	約50	約30	約150	約40	約40	約30
西米良村	約10	-	-	-	-	-	-	-	-
木城町	約110	約80	約100	約10	約10	約70	-	約10	-
川南町	約500	約170	約280	約50	約20	約170	約20	約30	約40
都農町	約220	約100	約170	約20	約10	約110	約20	約20	約10
門川町	約570	約460	約630	約110	約90	約350	約90	約80	約30
諸塚村	約10	-	約10	-	-	-	-	-	-
椎葉村	約10	-	約10	-	-	約10	-	-	-
美郷町	約50	約10	約40	約10	-	約30	-	-	-
高千穂町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日之影町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
五ヶ瀬町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	約17,000	約10,000	約13,000	約1,900	約1,200	約9,400	約2,000	約2,000	約1,100

－：わずか

（注1）今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

（注2）属性間での重複があります。

⑦その他の被害

避難所の要配慮者（想定ケース②）

（ 1週間後の避難所避難者に占める人数 ）

市町村	65歳以上の単身高齢者（人）	5歳未満の乳幼児（人）	身体障害者（人）	知的障害者（人）	精神障害者（人）	要介護認定者（要支援者を除く）（人）	難病患者（人）	妊産婦（人）	外国人（人）
宮崎市	約4,900	約3,800	約4,100	約690	約540	約2,900	約710	約790	約440
都城市	約650	約440	約600	約110	約40	約440	約100	約90	約70
延岡市	約3,400	約1,500	約2,200	約50	-	約1,800	約300	約310	約100
日南市	約2,600	約730	約1,400	約280	約100	約1,100	約170	約130	約140
小林市	約230	約80	約120	約20	約20	約100	約20	約20	約20
日向市	約1,400	約1,100	約1,500	約310	約180	約910	約220	約220	約120
串間市	約560	約180	約340	約70	約20	約270	約40	約40	約20
西都市	約670	約230	約410	約80	約30	約320	約60	約50	約20
えびの市	約140	約50	約110	約10	約10	約90	約10	約10	約20
三股町	約150	約90	約90	約10	約10	約60	約10	約20	-
高原町	約20	約10	約30	-	-	約10	-	-	-
国富町	約260	約90	約170	約30	約10	約130	約30	約20	約20
綾町	約30	約40	約50	約10	-	約40	約10	約10	-
高鍋町	約660	約290	約360	約70	約30	約220	約50	約60	約20
新富町	約250	約220	約240	約50	約30	約150	約40	約40	約30
西米良村	-	-	-	-	-	-	-	-	-
木城町	約120	約80	約100	約10	約10	約70	-	約10	-
川南町	約490	約170	約280	約50	約20	約170	約20	約30	約40
都農町	約210	約100	約160	約20	約10	約110	約20	約20	約10
門川町	約460	約370	約510	約90	約70	約280	約70	約70	約30
諸塚村	約10	-	約10	-	-	-	-	-	-
椎葉村	約10	-	約10	-	-	約10	-	-	-
美郷町	約50	約10	約40	約10	-	約30	-	-	-
高千穂町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日之影町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
五ヶ瀬町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	約17,000	約9,600	約13,000	約2,000	約1,200	約9,200	約1,900	約1,900	約1,100

－：わずか

（注1）今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

（注2）属性間での重複があります。

区分	項目
⑦その他の被害	震災関連死

### ■被害様相

地震発生直後	
津波による低体温症	<ul style="list-style-type: none"> <li>津波に巻き込まれ、水に濡れた状態で低体温症となり死亡する。</li> </ul>
日常的な治療が困難となることによる死亡	<ul style="list-style-type: none"> <li>人工心臓や生命維持装置の電気を必要とする医療器具が、停電により停止し死亡する。</li> <li>人工呼吸器の酸素ボンベが備蓄されておらず、吸引患者が死亡する。</li> <li>地震発生直後の病院の被害、停電・断水等ライフライン被害が継続し、人工透析ができずに患者が死亡する。</li> </ul>

概ね1日後～数日後	
避難所等の劣悪な生活環境による心身の健康被害	<ul style="list-style-type: none"> <li>車中避難のように狭い場所で生活を続けた結果、静脈血栓塞栓症（エコノミークラス症候群）を発症し死亡する。</li> <li>高齢者等が、トイレに行く回数を減らすために水分を取らず、脱水症状等により死亡する。</li> <li>多数の避難者が共同生活を送る中で、インフルエンザが蔓延し、重症化して死亡する。</li> <li>避難所生活等の強いストレスから、慢性的な疾患の悪化等により死亡する。</li> <li>医薬品が不足し、常用薬を必要とする有病者の体調が悪化し死亡する。</li> <li>プライバシーが保てないことを嫌い自宅に戻り、避難所であれば受けられる支援が受けられず、また、体調の変化に気付かれずに、人知れず死亡する。</li> </ul>
遠距離の避難・移動中に死亡	<ul style="list-style-type: none"> <li>入院患者や、寝たきりの高齢者等が、津波の浸水地域や、ライフラインが途絶した地域から、バス等により長時間の避難をせざるを得なくなり、移動中に病状が悪化し死亡する。</li> </ul>
猛暑による熱中症	<ul style="list-style-type: none"> <li>夏季の避難所での生活や、炎天下での救助・救出、がれき撤去等の作業中に熱中症となり死亡する。</li> </ul>

概ね1か月後～ ※1年後以降も同様	
精神的ストレスに伴う疾患や自殺等	<ul style="list-style-type: none"> <li>家族や仕事を失う等の大きな精神的ストレスから、アルコール摂取量が増え健康を害する、悲観的になり自殺を図る等により死亡する。</li> </ul>
災害応急対策活動に伴う過労	<ul style="list-style-type: none"> <li>行政職員やボランティア、避難所運営にあたった住民等が、過酷な災害応急対策業務により過労死または精神的ストレスによる自殺等を図り、死亡する。</li> </ul>
生活環境の変化等に伴う死亡	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活不活発等により健康を害し、死亡する避難者や在宅者が発生する。</li> </ul>

区分	項目
⑦その他の被害	宅地造成地

### ■被害様相

地震発生直後	
建物被害	<ul style="list-style-type: none"> <li>宮崎市をはじめ、台地などを切ったり、盛ったりすることで造成された大規模宅地が多く存在する。地震時には切盛境界などで地盤変状が発生し、宅地造成地が崩壊することにより建物被害が発生する。</li> <li>全半壊に至らない建物についても、地盤変動に伴う地表面の傾斜の発生等により居住が困難となる。</li> </ul>
ライフライン途絶	<ul style="list-style-type: none"> <li>造成地の地下の上下水道管やガス管、地上の電柱・電線類は、切盛境界の変異などの被害により、全半壊を免れた住宅であっても、ライフラインが機能せず、避難を余儀なくされる。</li> </ul>

概ね1日後～数日後	
二次災害の不安	<ul style="list-style-type: none"> <li>崩壊した地盤が、降雨等によって再度崩れ、建物被害や人的被害が拡大する。</li> </ul>
交通困難	<ul style="list-style-type: none"> <li>宅地造成地が崩壊する地域では、道路が途絶・陥没し自宅外への移動が困難となるほか、近隣の避難所等への物資の輸送、また復旧のための車両等の移動が妨げられ、復旧が遅れる。</li> </ul>

概ね1か月後～ ※1年後以降も同様	
住民の生活不安	<ul style="list-style-type: none"> <li>建物の被害が比較的軽微であっても、地盤が崩壊しているために所有者が別の場所への建て替えを希望するが、復旧費用の十分な補助が得られず復旧が困難となる。</li> <li>建物の被害が軽微である場合でも、ライフラインや道路の途絶、また軽微な傾斜によって健康不安となる等、所有者にとっては大きな生活上の不便や不安が生じる。</li> <li>上記のように、自宅での生活が不便を強いられる一方で、再建方針が定まらず避難所等での生活が長期化する。</li> </ul>

区分	項目
⑦その他の被害	危険物施設

### ■被害様相

地震発生直後	
施設の被害	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宮崎県には法律で指定されているようなコンビナートはないが、北部地域には、わが国有数の化学メーカーがあり、原材料などの多くをタンクなどで保管している。地震や津波の影響が大きい場合には、タンクや配管等の火災、流出等の被害が発生する。</li> <li>・大規模なタンク等は、おおむね耐震対策等が完了しており、既知の地震動による流出の危険性は極めて低いと考えられる。</li> <li>・長周期地震動の影響が大きい場合には、タンク等が振動するスロッシングによる被害が発生する。</li> </ul>
周辺への影響	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タンクの火災は、当該タンクに限定される場合が多く、その場合には輻射熱の周辺への影響は小さい。</li> <li>・毒性ガスや可燃性ガスが大量に漏洩した場合には、区域を越えて周辺に影響が及ぶ。</li> </ul>

概ね1日後～数日後	
復旧	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タンク被害等に被害が限定される場合には、他のタンクを利用する等の代替措置により、早い段階から機能継続が図られる。</li> </ul>

概ね1か月後	
事業再開の困難	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地震被害の範囲が大きい場合には点検及び修復に相当の期間を要する。</li> <li>・浸水の影響が大きい場合には、浸水した機器の復旧等のために、事業再開に相当の期間を要する。</li> <li>・雇用の多くを県内数社の大手メーカーに依存しているため、事業再開の遅れは、県内経済に大きな打撃を与える。</li> </ul>

区分	項目
⑦その他の被害	大規模集客施設等

### ■被害様相

地震発生直後	
揺れによる構造物被害	<ul style="list-style-type: none"> <li>・強い揺れに伴い建物が全半壊する。</li> <li>・耐震性を有する建物でも傾斜等により中長期にわたって利用できなくなるものが発生する。</li> </ul>
揺れによる非構造部材の被害	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天井のパネル、壁面、ガラス、商品、棚、吊りモノ等の非構造部材等が落下する。</li> </ul>
構造物及び非構造部材の被害による人的被害	<ul style="list-style-type: none"> <li>・揺れによる非構造部材の被害により施設利用者が死傷する。</li> </ul>
津波による建物被害（浸水）、機能支障	<ul style="list-style-type: none"> <li>・低層階や地下階が津波によって浸水することにより、中長期の機能支障、営業停止となる。</li> <li>・非常用発電機や燃料タンク等が低層階や地下階に設置されている場合には、浸水によってそれらが使用できなくなるため、停電状況下では施設運営が困難となる。</li> </ul>
津波による人的被害	<ul style="list-style-type: none"> <li>・津波による浸水被害が発生する。施設管理者から利用者に向けての津波警報伝達や避難誘導が遅れれば、利用者が逃げ遅れることにより、多くの人的被害が発生する。</li> <li>・津波避難ビルに指定されている大規模集客施設でも、避難誘導等が円滑になされず、指定階以上の階数への避難が遅れれば、利用者あるいは周辺から避難してきた多くの人々が津波に巻き込まれる。</li> </ul>
エレベータ閉じ込め	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大規模集客施設はエレベータ等が多く設置されている場合が多く、また営業中であれば搭乗率も高いことから、地震の揺れによりエレベータの閉じ込め事案が多数発生する。</li> </ul>
エスカレーターにおける人的被害	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エスカレーター等が多く設置されている大規模集客施設で転倒事故等が発生する。</li> </ul>
停電、水漏れ、ガス漏洩、火災等の発生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設内において、停電、水漏れ、ガス漏洩、火災等が発生する。</li> <li>・火災によるスプリンクラー稼働により、店舗の商品等が被害を受ける。</li> </ul>
ガス爆発、火災による人的被害	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガス漏洩や火災が発生すれば、ガス爆発や大規模火災に拡大し、多くの人的被害が発生する。</li> <li>・施設管理者から利用者に対して適切な避難誘導がなされなければ、より被害が拡大する。</li> </ul>
利用者等の滞留	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周辺の被害状況、交通機関の被害状況によっては、多くの利用者が円滑に脱出・帰宅できない。</li> <li>・人口密集地に立地する施設、地域の拠点となる施設等については、地震や津波の発生により周辺の住民が避難してくる。</li> </ul>
利用者等の混乱、パニック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの利用者が滞留した状況下において、停電や火災の発生、情報提供の遅れなど複数の条件が重なることにより、利用者の中で混乱、パニックが発生する。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高層ビル等の場合は心理面でパニックが助長される。</li> <li>・混雑状況が激しい場合、集団転倒などにより人的被害が発生する。</li> </ul>
スポーツ団体のキャンプ時における混乱	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宮崎県は晴天率の高さや、温暖な気候のため、春と秋に多くのスポーツ団体がキャンプを行い、他県から多くの観光客が訪れ、地理に不慣れな人々が団体でいることにより、避難時に困難が生じる。</li> </ul>
外国人観光客・来場者の混乱	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語のわからない外国人観光客や外国人来場者への情報伝達が不十分のため、避難時に困難が生じる。</li> </ul>

区分	項目
⑦その他の被害	宮崎駅等

### ■被害様相

地震発生直後	
揺れによる構造物被害	<ul style="list-style-type: none"> <li>耐震性を有する建物も地盤変動に伴う地表面の傾斜の発生等により中長期にわたって利用できなくなると考えられる。</li> </ul>
揺れによる非構造部材の被害	<ul style="list-style-type: none"> <li>天井のパネル、壁面、ガラス、吊りモノ等が落下する。</li> </ul>
構造物及び非構造部材の被害による人的被害	<ul style="list-style-type: none"> <li>揺れによる非構造部材の被害により施設利用者が死傷する。</li> </ul>
津波による建物被害（浸水）、機能支障	<ul style="list-style-type: none"> <li>宮崎駅自体は浸水エリアの外と予測されているが、周辺の多くは水につかる。駅周辺のオープンスペースに、多くの避難者などが集まることが想定される。</li> <li>浸水エリア駅等においても、非常用発電機や燃料タンク等が低層階や地下階に設置されている場合には、浸水によってそれらが使用できなくなるため、停電状況下では施設運営が困難となる。</li> </ul>
停電、水漏れ、ガス漏洩、火災等の発生	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設内において、停電、水漏れ、ガス漏洩、火災等が発生する。</li> <li>火災によるスプリンクラー稼働により、店舗の商品等が被害を受ける。</li> </ul>
ガス爆発、火災による人的被害	<ul style="list-style-type: none"> <li>ガス漏洩や火災が発生すれば、ガス爆発や大規模火災に拡大し、多くの人的被害が発生する。</li> <li>施設管理者から利用者に対して適切な避難誘導がなされなければ、被害が一層拡大する。</li> <li>地震による停電状況下において、放送設備等が使えない状況も想定される。</li> </ul>
利用者等の滞留	<ul style="list-style-type: none"> <li>宮崎県内の鉄道利用者は一日平均 2.3 万人（平成 22 年度）、そのうち日豊本線が 1.9 万人とほぼ大半を占め、最大の宮崎駅で 0.4 万人、次いで南宮崎駅で 0.2 万人である。駅には周辺地区から鉄道利用者等が押し寄せる。</li> <li>周辺の被害状況、交通機関の被害状況によっては、多くの利用者が円滑に脱出・帰宅できない状況が発生する。</li> <li>宮崎駅などは高架化されているために、津波の発生により周辺の住民が避難してくる。</li> </ul>
利用者等の混乱、パニック	<ul style="list-style-type: none"> <li>多くの利用者が滞留した状況下において、停電や火災の発生、情報提供の遅れなど複数の条件が重なることにより、利用者の中で混乱、パニックが発生する。</li> </ul>



⑦その他の被害

文化財（想定ケース①）  
（被災可能性のある重要文化財）

市町村	総数 (施設)	要因別内訳(施設)		
		揺れ	火災	津波浸水
宮崎市	8	8	0	0
都城市	3	0	0	0
延岡市	0	0	0	0
日南市	0	0	0	0
小林市	0	0	0	0
日向市	0	0	0	0
串間市	1	0	0	0
西都市	1	1	0	0
えびの市	1	0	0	0
三股町	0	0	0	0
高原町	0	0	0	0
国富町	1	1	0	0
綾町	0	0	0	0
高鍋町	0	0	0	0
新富町	0	0	0	0
西米良村	0	0	0	0
木城町	0	0	0	0
川南町	0	0	0	0
都農町	1	1	0	0
門川町	0	0	0	0
諸塚村	0	0	0	0
椎葉村	1	0	0	0
美郷町	1	0	0	0
高千穂町	2	0	0	0
日之影町	0	0	0	0
五ヶ瀬町	0	0	0	0
合計	20	11	0	0

(注1) 重要文化財の件数は、宮崎県教育委員会文化財課「みやざき文化財情報」に掲載されている、国指定重要文化財 20 件（美術工芸品 11 件、建造物 9 件）（平成 30 年 10 月 31 日指定分まで）を対象としています。

⑦その他の被害

文化財（想定ケース②）  
（被災可能性のある重要文化財）

市町村	総数 (施設)	要因別内訳(施設)		
		揺れ	火災	津波浸水
宮崎市	8	8	0	0
都城市	3	0	0	0
延岡市	0	0	0	0
日南市	0	0	0	0
小林市	0	0	0	0
日向市	0	0	0	0
串間市	1	1	0	0
西都市	1	1	0	0
えびの市	1	0	0	0
三股町	0	0	0	0
高原町	0	0	0	0
国富町	1	1	0	0
綾町	0	0	0	0
高鍋町	0	0	0	0
新富町	0	0	0	0
西米良村	0	0	0	0
木城町	0	0	0	0
川南町	0	0	0	0
都農町	1	1	0	0
門川町	0	0	0	0
諸塚村	0	0	0	0
椎葉村	1	0	0	0
美郷町	1	0	0	0
高千穂町	2	0	0	0
日之影町	0	0	0	0
五ヶ瀬町	0	0	0	0
合計	20	12	0	0

(注1) 重要文化財の件数は、宮崎県教育委員会文化財課「みやざき文化財情報」に掲載されている、国指定重要文化財 20 件（美術工芸品 11 件、建造物 9 件）（平成 30 年 10 月 31 日指定分まで）を対象としています。

⑦その他の被害

孤立集落（想定ケース①）  
（ 孤立可能性のある集落数 ）

市町村	総数 （箇所）	農業集落 （箇所）	漁業集落 （箇所）	計 （箇所）
宮崎市	19	3	2	5
都城市	19	0	0	0
延岡市	49	5	15	20
日南市	21	2	3	5
小林市	4	0	0	0
日向市	17	6	8	14
串間市	17	1	2	3
西都市	16	8	0	8
えびの市	5	0	0	0
三股町	6	0	0	0
高原町	0	0	0	0
国富町	0	0	0	0
綾町	6	0	0	0
高鍋町	0	0	0	0
新富町	0	0	0	0
西米良村	15	0	0	0
木城町	9	4	0	4
川南町	1	1	0	1
都農町	5	4	0	4
門川町	2	1	0	1
諸塚村	31	0	0	0
椎葉村	62	1	0	1
美郷町	51	3	0	3
高千穂町	94	0	0	0
日之影町	70	2	0	2
五ヶ瀬町	58	0	0	0
合計	577	41	30	71

（注1）孤立集落の箇所数は、「中山間地等の集落散在地域における孤立集落発生の可能性に関する状況フォローアップ調査 内閣府平成26年」において、孤立可能性があるとされた集落を対象としています。

⑦その他の被害

孤立集落（想定ケース②）  
（ 孤立可能性のある集落数 ）

市町村	総数 （箇所）	農業集落 （箇所）	漁業集落 （箇所）	計 （箇所）
宮崎市	19	3	2	5
都城市	19	0	0	0
延岡市	49	2	15	17
日南市	21	9	5	14
小林市	4	0	0	0
日向市	17	6	8	14
串間市	17	4	10	14
西都市	16	8	0	8
えびの市	5	0	0	0
三股町	6	0	0	0
高原町	0	0	0	0
国富町	0	0	0	0
綾町	6	0	0	0
高鍋町	0	0	0	0
新富町	0	0	0	0
西米良村	15	0	0	0
木城町	9	6	0	6
川南町	1	1	0	1
都農町	5	5	0	5
門川町	2	1	0	1
諸塚村	31	1	0	1
椎葉村	62	1	0	1
美郷町	51	2	0	2
高千穂町	94	1	0	1
日之影町	70	3	0	3
五ヶ瀬町	58	0	0	0
合計	577	53	40	93

（注1）孤立集落の箇所数は、「中山間地等の集落散在地域における孤立集落発生の可能性に関する状況フォローアップ調査 内閣府平成26年」において、孤立可能性があるとされた集落を対象としています。

区分	項目
⑦その他の被害	災害応急対策等

### ■被害様相

地震発生直後	
庁舎の被害発生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地震の揺れや津波浸水により庁舎が被災する。</li> <li>・代替施設への移転作業により、作業量が増加する。</li> </ul>
電源の喪失による業務の混乱	<ul style="list-style-type: none"> <li>・非常用電源が確保できないことにより、電話等による通信ができなくなるほか、庁舎内ネットワークがダウンし、各種証明書の発行や情報発信ができなくなるなど、業務が大混乱する。</li> </ul>
通信途絶による災害応急対策の遅れ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被害情報収集、情報伝達、他市町村との情報交換ができなくなる。</li> <li>・連絡系統の不具合により住民等への適切な情報伝達等の初動対応が困難となる。</li> <li>・災害情報の収集・整理がままならず、適切な対応ができない。</li> <li>・発災直後から各機関・マスコミのヘリコプターなどが活用されるが、被害の全体像の把握に時間を要するなど、効率的な情報共有ができない。</li> </ul>
職員の被災	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初動期に情報収集を行うべき自治体職員の多くが被災し、正確な情報を早期に収集することができない。</li> <li>・知事、幹部職員等の被災による指揮命令権者の不在により、災害対応や平常時業務が混乱する。</li> <li>・日中に地震が発生した場合、職員の家族の安否確認にも支障が生じ、不安を抱えたままの業務遂行で、著しく効率が低下することが考えられる。</li> </ul>
人的・物的資源の不足	<ul style="list-style-type: none"> <li>・膨大な量の災害応急対策業務に対して国・自治体の職員や資機材の絶対数が不足する。</li> </ul>
避難所設置の困難	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の被災や道路の途絶、避難所自体の被災により避難所の設置・運営ができなくなる。</li> </ul>
指定避難所外での避難	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指定避難所以外の所に自主的に避難する住民もいるが、その状況把握ができない。</li> </ul>

概ね数日後	
庁舎の被害による業務への支障	<ul style="list-style-type: none"> <li>・庁舎の倒壊のおそれがある場合、災害対策本部を別途設置する必要がある。</li> <li>・従前と執務環境が異なることにより、業務効率が低下する。</li> </ul>
人的・物的資源の不足	<ul style="list-style-type: none"> <li>・膨大な量の災害応急対策業務に対して国・自治体の職員や資機材の絶対数の不足が継続する。</li> <li>・インフラやライフラインの応急復旧が進まず、被災者支援が十分になされない。</li> </ul>

概ね1年後～	
庁舎の被害による業務への支障	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通常業務及び復旧・復興業務で庁内の作業量が増大する一方で、庁舎の再建が進まず、執務環境が整わないために業務の遅延、職員の疲労につながる。</li> </ul>

区分	項目
⑦その他の被害	堰堤、ため池等の決壊

#### ■被害様相

地震発生直後	
古い堰堤、ため池等の決壊	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もともと風水害に弱い火山灰特殊土壌に覆われるなど災害が発生しやすい条件であり、老朽化したため池を筆頭に、地震時決壊する可能性が高い。</li> <li>・破堤に伴いため池の下流側の集落へ氾濫水が流下し、集落の一部が浸水する。</li> <li>・ため池の下流側の水田や畑地などが浸水し、農作物が浸水によって流出する。</li> <li>・多量の氾濫水とともに周辺の樹木や土砂など流下し、それらに巻き込まれて死傷者が発生する。</li> </ul>
概ね1日後～数日後	
浸水による被害	<ul style="list-style-type: none"> <li>・浸水した集落では、家屋の一部が損傷するなど地震による被害に加えて浸水による被害についても対応する必要がある。</li> </ul>
災害廃棄物の発生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・氾濫水が床上まで浸水した家屋では、家具等が使用できなくなる。また、床下浸水があった家屋でも土砂が多量に堆積することから、それらの処理が必要となる。</li> </ul>
二次災害の不安	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地震後の降雨で、さらに浸水や土砂が下流に流下し、被害が拡大する。</li> </ul>

区分	項目
⑦その他の被害	地盤沈下による長期湛水

### ■被害様相

概ね数日後～	
避難所の不足	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難者が増加する一方で、利用可能な避難所数が減少し、避難スペースの不足や被災地外への広域避難を余儀なくされる。</li> <li>・津波避難ビルや高層マンションで自宅に留まる等して一時的に避難したが、長期湛水のため孤立化し、被災地外への広域避難を余儀なくされる。</li> </ul>
被災地内の移動困難に伴う災害応急対策及び日常生活の困難	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宮崎県沿岸で0.2～0.9mの地殻変動による地盤沈下が生じており、多くの地域が満潮時には海水面以下になる恐れがある。</li> <li>・湛水エリアが通行できないことによる避難所等への物資配送が困難となる。</li> <li>・自宅等で生活可能な人々が、湛水エリアを通行できないことにより日常生活上で様々な不便が発生する。</li> </ul>
災害応急対策の活動拠点の不足	<ul style="list-style-type: none"> <li>・応援部隊、ライフライン・インフラ等の復旧部隊の駐留場所や資材置き場、がれき仮置き場等のオープンスペースが不足する。</li> <li>・代替え地の確保（事前に候補地を決めておく）が必要となる。</li> </ul>

概ね1か月後～ ※1年後以降も同様	
復旧作業の困難	<ul style="list-style-type: none"> <li>・埋設管、電柱等の復旧ができず仮復旧が遅れる。</li> <li>・湛水エリアにおける排水・土地の嵩上げ・防潮堤の新設等、インフラや建物建設を開始する前の基盤整備が必要となり、復旧作業の長期化、作業人員の不足、膨大なコスト等の問題が発生する。</li> <li>・居住不可能となった湛水エリアの居住者が移転可能な場所の確保が困難となる。</li> <li>・宮崎市南部の沿岸地域は、1662年外所地震によって水面下に沈んだ集落があったところであり、再び沈下すると南北の交通路が使えなくなり、復旧に支障をきたす恐れがある。</li> </ul>

区分	項目
⑦その他の被害	複合災害

### ■被害様相

地震発生直後	
複数の自然災害の同時発生による被害の拡大	<ul style="list-style-type: none"> <li>・風水害等による避難中に地震が発生した場合、避難所の倒壊や屋内落下物等により人的被害が拡大する。</li> <li>・堤防や護岸、砂防ダム等が揺れ・液状化・津波により機能低下し、台風や集中豪雨による洪水や高潮等を防ぎきれず、建物被害や死傷者が増加する。</li> <li>・地震発生時に悪天候であった場合、自宅外への避難行動が遅れ、津波による死傷者が増加する。</li> <li>・地震により弱体化していた建物が暴風により全壊するなど、大きな被害が発生する。</li> <li>・激しい揺れにより崩壊、または緩んでいた斜面や宅地造成地が、大雨により崩壊する。</li> <li>・地震と風水害が重なると、深層崩壊など、斜面や地盤の崩壊が起こりやすくなり、孤立する集落が多く発生する。</li> <li>・山間部では、深層崩壊の危険性が高い地域があり、河道閉塞が発生し、上流からの水がせき止められ、せき止め湖（天然ダム）が発生し、崩壊により下流域へ水が一気に押し寄せるリスクが高まる。</li> <li>・地震により火山噴火が誘発された場合、火山周辺で避難指示区域が設定され、避難者数が更に増加する。</li> </ul>
対応の混乱	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人的・物的資源や活動場所の確保等において、災害対策本部等の対応体制（地震対応か台風対応か）が混乱する。</li> <li>・災害応急対策の活動拠点や避難所等が地震による揺れや津波などで被災しなかった場合でも、風水害や火山災害等が重なれば拠点確保が困難となる。</li> <li>・悪天候により、地震・津波の死者・行方不明者の捜索が困難となる。</li> <li>・波浪・高潮・暴風・冠水等により、道路交通や空港・港湾等の利用が制限され、被災地内での人員・車両・重機等の移動、また被災地外からの応援が困難となり救急・救助活動が遅れる。</li> <li>・地震発生後に火山が噴火すると、降灰により、道路の移動困難や救助・救急、地震で発生したがれき撤去作業が困難となる。</li> <li>・悪天候や降灰により、地震で発生した膨大な数の負傷者等の車両による搬送の遅れ、ヘリコプターによる移動・搬送が困難となる。</li> </ul>
概ね数日後～	
繰り返し避難することによる心身の疲労・ストレス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先に発生した災害で避難した避難所の避難者や、その後に入居した仮設住宅等にいる被災者が、別の災害によって再度別の場所に避難することになると、被災者の心身の疲労・ストレスの増大、健康被害の発生につながる。</li> </ul>
長期避難指示による生活再建の遅れ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・火山噴火にともなう避難指示が出された場合、終息あるいは静穏化による指示解除まで住民が戻れない等、生活再建の困難度が相乗的に増加する。</li> </ul>



概ね1か月後～	※1年後以降も同様
広域・長期間に及ぶ電力供給不足による災害応急対策、復旧活動の困難	<ul style="list-style-type: none"> <li>・九州地域も大きな揺れに見舞われることで、原子力発電所の安全確認に時間を要したり、別府湾沿岸の火力発電所などが、揺れ・液状化・津波等により広範囲で同時に電力供給停止する。さらに、濁水が重なることで水力発電による電力供給量が減少し、内陸部及び被災地外からの電力の融通ができず停電が長期化する。</li> </ul>

区分	項目
⑦その他の被害	時間差での地震の発生

### ■被害様相

最初の地震発生直後に次ぎの地震発生	
強震動が時間遅れで発生することによる建物被害・人的被害の拡大	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最初の地震により脆弱化した建物が、後発の地震により倒壊する。</li> <li>・建物等の下敷きとなった要救助者が後発の地震による建物等の倒壊で圧死する。</li> <li>・新たな倒壊家屋からの出火により延焼範囲が拡大する。</li> <li>・急傾斜地、宅地造成地などで、先の地震により地盤が緩み、後発の地震により崩壊する。</li> </ul>
津波の重なりによる津波高の増幅効果	・最初の地震に伴う津波が継続しているときに後発地震が発生した場合には、津波が重なり合うことで津波の高さが増幅する。
防災施設の脆弱化に伴う被害拡大	・最初の地震・津波により海岸・河川堤防が破損した地域では、後発の地震に伴う津波の被害が大きくなる。

最初の地震発生後概ね数日後以降に次ぎの地震発生	
災害応急対策時の二次災害等、活動支障の発生	・救助・捜索等の活動中に、建物の倒壊、津波、急傾斜地の崩壊によって二次災害が発生する。
他地域へ応援活動時の被災（災害応急対策の体制が手薄）	・二度目の地震で大きな被害が出た地域において、最初に発生した地震対応の応援活動が行われていたために、救助・救急活動や消火活動等に必要の人員・資機材等の資源が十分に確保できない。
被害の広域化、被災地外への影響の波及	・最初に発生した地震対応のために、全国的に物資等が調達・消費されており、救命・救急に必要な医薬品、避難生活等に必要の水・食料や生活必需品等が不足する。
時間差発生に対する社会的な不安の影響	・量販店から一部の食料・物資等が買い占め等により購入が困難となるほか、燃料不足への懸念から、給油待ちの車両が長蛇の列を作る事態が発生する。
復旧計画の見直し	・一旦開始した復旧作業について、二度目の地震により新たな被災地域が発生する等、被害状況に応じて復旧計画の見直しをする必要が生じ、仮復旧までの時間がさらに延びることとなる。

最初の地震発生後概ね1か月後以降に次ぎの地震発生	
時間差発生に対する社会的な不安の影響	・耐震性の確保されていない建物に対する不安等により店舗や集客施設等への来客が減少する、津波が来るおそれのある臨海部については業務の場所を制限する等の対策により業務効率が落ちる、地域外からの観光客の減少や、被災地での事業展開（企業の進出等）が控えられる等、社会的な不安が増大する。

復旧、復興作業中の被害の発生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道路・橋梁、港湾等の社会基盤、ライフラインの仮復旧作業中に揺れや津波等によって再度、これらの設備が被害を受ける。</li> <li>・再建中の施設が破壊されることにより、がれき量が更に増加し、仮置き場の確保や最終処理が困難になる。</li> </ul>
多数の支援者の被災	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政や消防・警察・自衛隊等の応援部隊や、社会基盤・ライフラインの復旧作業員、被災者支援の NPO・ボランティア等、被災地で大量の人員が日常的に活動していることが予想される。これらの人々が、活動場所で被災し、揺れによる建物被害や津波等に巻き込まれて死傷する。</li> </ul>
社会経済機能の復旧の遅延	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>最初に</b>発生した<b>地震</b>から仮復旧・再開していた仮設店舗、市場等が再度被災する。</li> <li>・<b>最初に</b>発生した<b>地震</b>では被害を免れていた農業や漁業（養殖）業が、別の災害によって被災し、地域の産業が全般的に停滞する。</li> </ul>

#### 最初の地震発生後概ね1年後以降に次ぎの地震発生

復興、生活再建中の被災	<ul style="list-style-type: none"> <li>・応急仮設住宅（借り上げ型仮設住宅も含む）や復興住宅等での仮住まいや、再就職等の生活再建が進みつつある際に地震が発生することにより、被災者がふたたび立ち直るだけの財力・気力を保つことが困難になる。</li> </ul>
オープンスペース等の確保困難	<ul style="list-style-type: none"> <li>・確保可能なオープンスペースに、復興住宅や応急仮設住宅、及びがれきの仮置き場等が既に立ち上がっており、二度目の<b>地震による</b>被災時に活用可能なオープンスペースが不足する。</li> </ul>

区分	項目
⑦その他の被害	漁船・船舶、水産関連施設

### ■被害様相

地震発生直後	
漂流漁船・船舶、燃料、運搬物等の流出による陸上での被害の拡大	・津波被害が予想される地域には、漁船等に加え、港に出入りする大型の船舶や、危険物を輸送する船舶が存在しており、これらの船舶が市街地を漂流した場合、衝突等による人的・物的被害の拡大、危険物の流出・発火による延焼被害の拡大が発生する。
漁船、漁港、水産関連施設等の被災	・養殖業において設備の被害や養殖している魚介類の流失等の被害が発生する。

概ね数日後～	
漁船・船舶の撤去等の困難	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漁船等に加え大型の船舶が打ち上げられることで、交通の妨げとなり救助・救急活動や応急復旧作業が遅れる。</li> <li>・所有者が不明の船舶が多数陸上に打ち上げられ、解体・廃棄まで時間を要する。</li> <li>・打ち上げられた船舶を「災害遺構」として保存する動き等が発生し、解体・廃棄まで時間を要する。</li> </ul>
腐敗・劣化した水産加工品・工業製品等の処分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・津波による被害のほか、強い揺れによってライフラインが途絶し、魚介類等の冷凍・冷蔵保存を伴う業務が広範囲でできなくなる。そのために腐敗した魚介類や水産加工品等が大量に発生し、処分する必要がある。</li> <li>・工業製品を出荷していた港湾が利用できなくなることで、港湾周辺に大量の工業製品等が滞留し、劣化して経済的な損失につながる。</li> </ul>
漁港等の利用困難	・津波により漁港等が甚大な被害を受けることに加え、座礁・沈没した船舶や湾内の大量の漂流物により漁港の係船・陸揚げ機能が麻痺し、物資や応援の人員、復旧資機材等の輸送のための利用ができなくなる。

概ね1 か月後～	
漁船等の被災による生活困難	・大津波が発生する地域では漁船、漁港及び沿岸部の市場・加工施設等が壊滅的な被害を受け、国内外への流通品が減少するとともに、多数の漁業関係者が収入を得られず生活が困難となる。
漁業再開の困難	・漁港等の被害等による係留・陸揚げ機能の麻痺が続き、漁業活動の再開が困難となる。
県内生産物の搬送手段の困難	・県内の農畜産物の搬出の多くを占めるフェリー施設の被災により、陸送による迂回搬送となるため、県内生産物の他地域への販路に支障が生じる。

概ね1年後～	
漁業再開の困難	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東日本大震災では、水揚高が震災前の61%まで減少しており、漁港の流通・加工機能が十分に回復せず、全国からの外来漁船の利用・陸揚げが低迷する。</li> <li>・個別の事業者（漁師）の収入が回復せず、漁船や漁網等、漁業再開のための資機材確保が困難となる。</li> <li>・養殖業や海藻、魚介等の漁獲量が、津波による施設被害や海底地形の変動、災害廃棄物の堆積等の影響によって震災前と同様の水準に戻らない状態が続く。</li> </ul>

区分	項目
⑦その他の被害	治安

■被害様相

概ね数日後～	
避難エリアにおける空き巣等の発生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 店員等が避難して不在となった店舗で物品の盗難等の被害が発生する。</li> <li>・ 住民が避難して不在となった住宅への空き巣被害等が発生する。</li> <li>・ 工場や港湾等において、自動車等の製品や、燃料・資材等の盗難被害が発生する。</li> </ul>
避難所等における盗難	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 避難所等において、配給された救援物資、避難所施設の物品、避難者の持ち込んだ金品等の盗難が発生する。</li> </ul>
暴行・傷害行為の発生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 物資が不足している避難所や、生活環境が劣悪な避難所等において、避難者同士または避難者と支援者（行政職員やボランティア等）の暴力事件が発生する。</li> </ul>
悪質商法や義援金詐欺等の発生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 比較的被害の軽微だった地域を中心に、「時間差発生」等の説明を悪用して、家屋等の点検作業を働きかける悪質商法が発生する。</li> <li>・ 義援金詐欺による被害が被災地外で発生する。</li> </ul>
デマ等の発生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 時間差によって数日後に更に大きな被害が発生するなど、不安を煽るデマ情報が発生し、被災者の混乱、疲労につながる。</li> <li>・ 工業地帯の火災や爆発等に関するデマ情報が発生する。</li> <li>・ 製造業・加工業が被災することで、全国的な物資の枯渇を示唆するデマ情報が発生する。</li> <li>・ 信憑性の低い段階で、霧島の噴火や、えびの・小林地震に関するデマ情報が発生する。</li> </ul>

⑧経済被害

資産等の被害

(単位：兆円)

分類	被害	シナリオ	
		南海トラフ	宮崎県独自
建物被害	建物被害額	3.2	3.1
	家財資産被害額	0.1	0.1
	事業所償却資産被害額	0.5	0.4
	事業所棚卸資産被害額	0.2	0.2
ライフライン・インフラ施設被害	上水道被害額	0.0	0.0
	下水道被害額	0.1	0.1
	電気被害額	0.0	0.0
	通信被害額	0.0	0.0
	ガス被害額	0.0	0.0
	道路被害額	0.1	0.1
	鉄道被害額	0.0	0.0
	港湾被害額	0.2	0.2
	漁港被害額	0.1	0.1
その他土木施設被害	河川・海岸施設, 空港 等	0.2	0.2
土地の損壊・損失	農地被害額	0.1	0.1
災害廃棄物処理	災害廃棄物被害額	0.3	0.3
計		5.0	4.9

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

⑧経済被害

生産・サービス低下による影響

(単位：百億円)

産業	シナリオ	
	南海トラフ	宮崎県独自
農林水産業	1.4	1.4
鉱業	0.1	0.1
建設業	3.3	3.2
卸売・小売業	6.5	6.2
金融・保険業	7.9	7.6
不動産業	7.2	6.9
運輸・通信業	6.3	6.2
電気・ガス・水道業	3.0	2.8
サービス業	39.6	39.3
輸送機械製造業	0.7	0.7
食料品製造業	3.3	3.2
その他製造業	6.9	6.6
合計	86.1	84.1

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。



⑧経済被害

交通寸断による影響

(単位：百億円)

項目		復旧完了までに要する時間	想定ケース①	想定ケース②
道路	人流	1ヶ月の場合	1.1	1.1
		6ヶ月の場合	6.0	6.1
	物流	1ヶ月の場合	27.7	27.8
		6ヶ月の場合	103.4	90.1
鉄道	人流	1ヶ月の場合	0.04	0.04
		6ヶ月の場合	0.2	0.2
空港	人流・物流	1ヶ月の場合	0.2	0.2
合計		道路・鉄道が6ヶ月停止する場合	88.6	90.7
【参考】 港湾	物流	1年間	1.0	1.1

(注1) 港湾機能停止による損失額は、コンテナ貨物は代替港湾に陸送し、バラ貨物は輸送を取りやめると仮定して推計しており、参考値として記載します。

(注2) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

⑨減災効果

全半壊棟数（想定ケース① 冬 18 時 現状耐震化率約 80%）

市町村	液状化		揺れ		急傾斜地崩壊		津波		火災	合計	
	全壊 (棟)	半壊 (棟)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	焼失 (棟)	全壊・焼失 (棟)	半壊 (棟)
宮崎市	約1,800	約9,900	約15,000	約23,000	約70	約140	約5,200	約6,000	約2,100	約24,000	約39,000
都城市	約260	約1,400	約770	約6,200	約30	約60	-	-	約30	約1,100	約7,600
延岡市	約1,400	約5,600	約5,600	約9,300	約130	約240	約9,300	約6,000	約420	約17,000	約21,000
日南市	約660	約2,700	約770	約3,100	約60	約110	約2,700	約1,700	約20	約4,200	約7,600
小林市	約100	約600	約100	約1,200	約10	約10	-	-	-	約210	約1,800
日向市	約430	約2,500	約4,200	約5,000	約30	約60	約9,000	約3,500	約80	約14,000	約11,000
串間市	約50	約190	約40	約530	約10	約30	約80	約320	-	約180	約1,100
西都市	約190	約960	約2,800	約2,800	約10	約20	-	-	約50	約3,000	約3,800
えびの市	約130	約850	約280	約1,500	-	-	-	-	約10	約420	約2,300
三股町	約30	約260	約150	約980	約10	約10	-	-	約10	約190	約1,300
高原町	約10	約50	約10	約180	-	約10	-	-	-	約20	約240
国富町	約10	約50	約970	約1,800	約10	約20	-	-	約20	約1,000	約1,800
綾町	-	約30	約250	約600	-	約10	-	-	約10	約260	約640
高鍋町	約100	約530	約2,800	約2,000	-	約10	約450	約1,200	約90	約3,400	約3,800
新富町	約20	約150	約1,900	約1,500	約10	約20	約70	約290	約20	約2,000	約1,900
西米良村	-	-	-	約50	-	約10	-	-	-	約10	約60
木城町	約20	約110	約820	約600	-	約10	-	-	約10	約860	約720
川南町	-	約20	約2,700	約2,200	-	約10	約170	約70	約20	約2,900	約2,300
都農町	約10	約40	約1,000	約1,100	-	約10	約120	約60	約20	約1,200	約1,200
門川町	約350	約1,600	約960	約1,400	約20	約30	約3,400	約630	約20	約4,700	約3,600
諸塚村	-	-	-	約60	-	約10	-	-	-	約10	約70
椎葉村	-	-	約10	約100	-	約10	-	-	-	約10	約110
美郷町	-	約10	約70	約530	約20	約30	-	-	-	約90	約560
高千穂町	-	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	約10
日之影町	-	-	-	約30	-	-	-	-	-	-	約30
五ヶ瀬町	-	-	-	約20	-	-	-	-	-	-	約20
合計	約5,600	約28,000	約41,000	約65,000	約430	約860	約30,000	約20,000	約3,000	約80,000	約113,000

- : わずか

(注 1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

# 耐震化

全半壊棟数（想定ケース① 冬 18 時 耐震化率 90%）

市町村	液状化		揺れ		急傾斜地崩壊		津波		火災	合計	
	全壊 (棟)	半壊 (棟)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	焼失 (棟)	全壊・焼失 (棟)	半壊 (棟)
宮崎市	約540	約9,800	約7,200	約14,000	約80	約160	約5,800	約6,400	約2,100	約16,000	約31,000
都城市	約70	約1,400	約280	約2,300	約30	約60	-	-	約30	約410	約3,700
延岡市	約360	約5,700	約2,100	約4,600	約140	約280	約11,000	約7,000	約400	約14,000	約18,000
日南市	約190	約2,800	約290	約1,300	約60	約120	約3,100	約2,100	約20	約3,600	約6,200
小林市	約30	約590	約40	約420	約10	約20	-	-	-	約70	約1,000
日向市	約120	約2,400	約2,000	約3,400	約30	約60	約10,000	約3,600	約70	約13,000	約9,500
串間市	約10	約190	約10	約180	約10	約30	約90	約340	-	約130	約740
西都市	約60	約940	約1,200	約1,700	約10	約20	-	-	約60	約1,300	約2,700
えびの市	約40	約810	約110	約590	-	-	-	-	約10	約160	約1,400
三股町	約10	約240	約60	約390	約10	約10	-	-	約10	約80	約650
高原町	-	約50	-	約60	-	約10	-	-	-	約10	約120
国富町	-	約50	約370	約880	約10	約30	-	-	約20	約410	約950
綾町	-	約30	約90	約280	-	約10	-	-	約10	約100	約320
高鍋町	約30	約520	約1,300	約1,700	-	約10	約590	約1,300	約110	約2,100	約3,500
新富町	-	約140	約960	約1,200	約10	約20	約80	約270	約20	約1,100	約1,700
西米良村	-	-	-	約20	-	約10	-	-	-	-	約20
木城町	約10	約110	約380	約480	-	約10	-	-	約10	約400	約600
川南町	-	約20	約1,200	約1,700	-	約10	約220	約70	約20	約1,400	約1,800
都農町	-	約40	約430	約690	-	約10	約150	約70	約30	約620	約810
門川町	約100	約1,600	約390	約720	約20	約40	約3,900	約680	約20	約4,400	約3,000
諸塚村	-	-	-	約20	-	約10	-	-	-	約10	約30
椎葉村	-	-	-	約30	-	約10	-	-	-	約10	約40
美郷町	-	約10	約20	約180	約20	約30	-	-	-	約40	約220
高千穂町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日之影町	-	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	約10
五ヶ瀬町	-	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	約10
合計	約1,600	約27,000	約19,000	約37,000	約470	約970	約35,000	約22,000	約3,000	約59,000	約87,000

- : わずか

(注 1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

(注 2) 本想定では、被害要因の重複を避けるため、「液状化→揺れ→急傾斜地崩壊→津波→火災焼失」の順で想定することとした。よって、耐震化によって「揺れ」による全壊が免れても、その後の「津波」によって全壊する場合もあり、耐震化によって、津波による被害が増える結果になりました。

⑨減災効果

全半壊棟数（想定ケース② 冬 18 時 現状耐震化率約 80%）

市町村	液状化		揺れ		急傾斜地崩壊		津波		火災	合計	
	全壊 (棟)	半壊 (棟)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	焼失 (棟)	全壊・ 焼失 (棟)	半壊 (棟)
宮崎市	約1,800	約9,900	約14,000	約22,000	約70	約150	約3,700	約6,100	約2,300	約22,000	約38,000
都城市	約260	約1,400	約810	約6,600	約30	約60	-	-	約40	約1,100	約8,100
延岡市	約1,400	約5,600	約5,200	約9,300	約130	約240	約5,700	約5,200	約500	約13,000	約20,000
日南市	約660	約2,700	約6,700	約5,200	約60	約140	約2,300	約1,500	約110	約9,800	約9,500
小林市	約100	約600	約90	約1,200	約10	約10	-	-	-	約200	約1,800
日向市	約420	約2,500	約4,200	約5,000	約30	約60	約6,300	約4,300	約120	約11,000	約12,000
串間市	約50	約190	約2,100	約2,700	約20	約50	約250	約630	約50	約2,500	約3,600
西都市	約190	約960	約2,700	約2,800	約10	約20	-	-	約40	約2,900	約3,800
えびの市	約130	約850	約250	約1,400	-	-	-	-	約10	約390	約2,200
三股町	約30	約260	約120	約910	約10	約10	-	-	約10	約170	約1,200
高原町	約10	約50	約10	約250	-	約10	-	-	-	約30	約300
国富町	約10	約50	約940	約1,800	約10	約20	-	-	約30	約990	約1,800
綾町	-	約30	約240	約600	-	約10	-	-	約10	約260	約630
高鍋町	約100	約530	約2,800	約2,000	-	約10	約180	約740	約80	約3,100	約3,300
新富町	約20	約150	約2,000	約1,500	約10	約20	約30	約160	約20	約2,000	約1,800
西米良村	-	-	-	約50	-	約10	-	-	-	約10	約50
木城町	約20	約110	約860	約590	-	約10	-	-	約10	約890	約710
川南町	-	約20	約2,600	約2,200	-	約10	約150	約60	約20	約2,800	約2,300
都農町	約10	約40	約1,000	約1,100	-	約10	約120	約40	約30	約1,200	約1,100
門川町	約350	約1,600	約1,000	約1,400	約20	約30	約2,100	約1,100	約30	約3,500	約4,100
諸塚村	-	-	-	約60	-	約10	-	-	-	約10	約70
椎葉村	-	-	-	約100	-	約10	-	-	-	約10	約110
美郷町	-	約10	約70	約520	約10	約30	-	-	-	約80	約550
高千穂町	-	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	約10
日之影町	-	-	-	約30	-	-	-	-	-	-	約30
五ヶ瀬町	-	-	-	約20	-	-	-	-	-	-	約20
合計	約5,600	約28,000	約48,000	約69,000	約450	約920	約21,000	約20,000	約3,400	約78,000	約118,000

- : わずか

(注 1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

## 耐震化

全半壊棟数（想定ケース② 冬 18 時 耐震化率 90%）

市町村	液状化		揺れ		急傾斜地崩壊		津波		火災	合計	
	全壊 (棟)	半壊 (棟)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	焼失 (棟)	全壊・ 焼失 (棟)	半壊 (棟)
宮崎市	約540	約9,800	約6,800	約14,000	約80	約160	約4,200	約6,500	約2,100	約14,000	約30,000
都城市	約70	約1,300	約300	約2,400	約30	約60	-	-	約30	約430	約3,800
延岡市	約360	約5,700	約2,000	約4,500	約140	約280	約6,900	約6,100	約460	約9,800	約17,000
日南市	約190	約2,800	約3,100	約3,800	約80	約150	約3,600	約1,600	約120	約7,100	約8,400
小林市	約30	約590	約30	約410	約10	約10	-	-	-	約70	約1,000
日向市	約120	約2,400	約2,000	約3,400	約30	約60	約7,200	約4,500	約110	約9,400	約10,000
串間市	約10	約190	約780	約1,400	約30	約60	約410	約680	約40	約1,300	約2,400
西都市	約60	約940	約1,200	約1,700	約10	約20	-	-	約50	約1,300	約2,700
えびの市	約40	約810	約100	約550	-	-	-	-	約10	約140	約1,400
三股町	約10	約240	約50	約360	約10	約10	-	-	約10	約60	約610
高原町	-	約50	-	約90	-	約10	-	-	-	約10	約140
国富町	-	約50	約360	約870	約10	約30	-	-	約20	約400	約940
綾町	-	約30	約90	約280	-	約10	-	-	約10	約100	約310
高鍋町	約30	約520	約1,300	約1,700	-	約10	約240	約760	約100	約1,700	約3,000
新富町	-	約140	約990	約1,300	約10	約20	約40	約150	約20	約1,100	約1,600
西米良村	-	-	-	約20	-	約10	-	-	-	-	約20
木城町	約10	約110	約420	約490	-	約10	-	-	約10	約440	約610
川南町	-	約20	約1,200	約1,600	-	約10	約200	約60	約20	約1,400	約1,700
都農町	-	約40	約420	約680	-	約10	約150	約40	約30	約600	約780
門川町	約100	約1,600	約410	約750	約20	約40	約2,400	約1,200	約30	約2,900	約3,600
諸塚村	-	-	-	約20	-	約10	-	-	-	-	約30
椎葉村	-	-	-	約30	-	約10	-	-	-	約10	約40
美郷町	-	約10	約20	約170	約20	約30	-	-	-	約40	約210
高千穂町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日之影町	-	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	約10
五ヶ瀬町	-	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	約10
合計	約1,600	約27,000	約22,000	約41,000	約500	約1,000	約25,000	約22,000	約3,200	約52,000	約91,000

- : わずか

(注 1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

(注 2) 本想定では、被害要因の重複を避けるため、「液状化→揺れ→急傾斜地崩壊→津波→火災焼失」の順で想定することとしました。よって、耐震化によって「揺れ」による全壊が免れても、その後の「津波」によって全壊する場合もあり、耐震化によって、津波による被害が増える結果になりました。

⑨減災効果

死傷者数（想定ケース① 冬深夜 津波避難ビル無）

市町村	建物倒壊				急傾斜地崩壊		津波		火災		ブロック塀他		合計	
	死者 (人)	(家具) (人)	負傷者 (人)	(家具) (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)
宮崎市	約1,200	約70	約6,200	約960	約10	約10	約7,700	約2,100	約30	約60	-	-	約8,900	約8,400
都城市	約50	-	約960	約70	-	-	-	-	-	-	-	-	約60	約960
延岡市	約410	約20	約2,500	約300	約10	約20	約15,000	約1,900	約10	約10	-	-	約15,000	約4,400
日南市	約50	-	約590	約40	約10	約10	約2,000	約390	-	-	-	-	約2,000	約980
小林市	約10	-	約180	約20	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約180
日向市	約310	約10	約1,500	約190	-	-	約14,000	約1,300	-	-	-	-	約15,000	約2,800
串間市	-	-	約80	-	-	-	約70	約60	-	-	-	-	約70	約140
西都市	約200	約10	約810	約140	-	-	-	-	-	-	-	-	約200	約810
えびの市	約20	-	約310	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約20	約310
三股町	約10	-	約150	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約150
高原町	-	-	約30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約30
国富町	約70	-	約360	約40	-	-	-	-	-	-	-	-	約70	約360
綾町	約20	-	約120	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約20	約120
高鍋町	約190	約10	約760	約130	-	-	約850	約360	-	-	-	-	約1,000	約1,100
新富町	約140	約10	約500	約110	-	-	約220	約140	-	-	-	-	約350	約640
西米良村	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
木城町	約60	-	約200	約40	-	-	-	-	-	-	-	-	約60	約200
川南町	約180	約10	約760	約90	-	-	約340	約10	-	-	-	-	約520	約770
都農町	約70	-	約300	約40	-	-	約180	約20	-	-	-	-	約250	約320
門川町	約70	-	約380	約50	-	-	約3,400	約240	-	-	-	-	約3,500	約620
諸塚村	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
椎葉村	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
美郷町	-	-	約70	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約70
高千穂町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日之影町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
五ヶ瀬町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	約3,000	約160	約17,000	約2,200	約50	約60	約44,000	約6,500	約50	約80	-	-	約47,000	約23,000

- : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

⑨減災効果 死傷者数（想定ケース① 冬深夜 現状の津波避難ビル有 耐震化率約80% 県民意識調査による早期避難者比率）

市町村	建物倒壊				急傾斜地崩壊		津波		火災		ブロック塀他		合計	
	死者 (人)	(家具) (人)	負傷者 (人)	(家具) (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)
宮崎市	約1,200	約70	約6,200	約960	約10	約10	約920	約130	約30	約60	-	-	約2,100	約6,400
都城市	約50	-	約960	約70	-	-	-	-	-	-	-	-	約60	約960
延岡市	約410	約20	約2,500	約300	約10	約20	約2,900	約290	約10	約10	-	-	約3,300	約2,800
日南市	約50	-	約590	約40	約10	約10	約960	約150	-	-	-	-	約1,000	約750
小林市	約10	-	約180	約20	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約180
日向市	約310	約10	約1,500	約190	-	-	約5,600	約540	-	-	-	-	約5,900	約2,000
串間市	-	-	約80	-	-	-	約70	約50	-	-	-	-	約70	約130
西都市	約200	約10	約810	約140	-	-	-	-	-	-	-	-	約200	約810
えびの市	約20	-	約310	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約20	約310
三股町	約10	-	約150	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約150
高原町	-	-	約30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約30
国富町	約70	-	約360	約40	-	-	-	-	-	-	-	-	約70	約360
綾町	約20	-	約120	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約20	約120
高鍋町	約190	約10	約760	約130	-	-	約200	約20	-	-	-	-	約400	約780
新富町	約140	約10	約500	約110	-	-	約110	約30	-	-	-	-	約250	約530
西米良村	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
木城町	約60	-	約200	約40	-	-	-	-	-	-	-	-	約60	約200
川南町	約180	約10	約760	約90	-	-	約340	約10	-	-	-	-	約520	約770
都農町	約70	-	約300	約40	-	-	約180	約20	-	-	-	-	約250	約320
門川町	約70	-	約380	約50	-	-	約940	約70	-	-	-	-	約1,000	約450
諸塚村	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
椎葉村	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
美郷町	-	-	約70	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約70
高千穂町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日之影町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
五ヶ瀬町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	約3,000	約160	約17,000	約2,200	約50	約60	約12,000	約1,300	約50	約80	-	-	約15,000	約18,000

- : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

耐震化

+ 早期避難高

死傷者数（想定ケース① 冬深夜 現状の津波避難ビル有 耐震化率90% 早期避難者比率高+呼びかけ）

市町村	建物倒壊				急傾斜地崩壊		津波		火災		ブロック塀他		合計	
	死者 (人)	(家具) (人)	負傷者 (人)	(家具) (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)
宮崎市	約640	約40	約3,900	約640	約10	約10	約230	約10	約20	約40	-	-	約900	約4,000
都城市	約20	-	約410	約60	-	-	-	-	-	-	-	-	約20	約410
延岡市	約160	約10	約1,200	約170	約10	約20	約170	-	-	-	-	-	約350	約1,200
日南市	約20	-	約270	約30	約10	約10	約140	約40	-	-	-	-	約160	約310
小林市	-	-	約70	約20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約70
日向市	約160	約10	約910	約120	-	-	約490	約60	-	-	-	-	約650	約980
串間市	-	-	約30	-	-	-	約40	約30	-	-	-	-	約40	約60
西都市	約90	約10	約470	約80	-	-	-	-	-	-	-	-	約90	約470
えびの市	約10	-	約120	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約120
三股町	-	-	約70	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約70
高原町	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
国富町	約30	-	約190	約30	-	-	-	-	-	-	-	-	約30	約190
綾町	約10	-	約60	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約60
高鍋町	約90	約10	約510	約80	-	-	約30	-	-	-	-	-	約120	約510
新富町	約70	-	約350	約70	-	-	約10	-	-	-	-	-	約80	約350
西米良村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
木城町	約30	-	約130	約20	-	-	-	-	-	-	-	-	約30	約130
川南町	約80	-	約480	約50	-	-	約20	-	-	-	-	-	約100	約480
都農町	約30	-	約180	約20	-	-	約10	-	-	-	-	-	約40	約180
門川町	約30	-	約200	約30	-	-	約40	-	-	-	-	-	約70	約200
諸塚村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
椎葉村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
美郷町	-	-	約30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約30
高千穂町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日之影町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
五ヶ瀬町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	約1,500	約90	約9,600	約1,400	約50	約60	約1,200	約150	約30	約50	-	-	約2,700	約9,900

- : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

⑨減災効果

死傷者数（想定ケース② 冬深夜 津波避難ビル無）

市町村	建物倒壊				急傾斜地崩壊		津波		火災		ブロック塀他		合計	
	死者 (人)	(家具) (人)	負傷者 (人)	(家具) (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)
宮崎市	約1,100	約70	約6,100	約920	約10	約10	約6,600	約1,900	約30	約70	-	-	約7,700	約8,100
都城市	約60	-	約1,000	約70	-	-	-	-	-	-	-	-	約60	約1,000
延岡市	約390	約20	約2,400	約280	約10	約20	約8,700	約2,000	約10	約10	-	-	約9,100	約4,400
日南市	約470	約20	約1,800	約280	約10	約10	約3,800	約580	約20	約10	-	-	約4,300	約2,400
小林市	約10	-	約180	約20	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約180
日向市	約310	約10	約1,500	約200	-	-	約9,800	約1,600	-	-	-	-	約10,000	約3,100
串間市	約140	-	約650	約50	-	-	約410	約270	-	-	-	-	約560	約930
西都市	約190	約10	約790	約130	-	-	-	-	-	-	-	-	約190	約790
えびの市	約20	-	約280	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約20	約290
三股町	約10	-	約140	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約140
高原町	-	-	約40	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約40
国富町	約60	-	約350	約40	-	-	-	-	-	-	-	-	約70	約360
綾町	約20	-	約120	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約20	約120
高鍋町	約190	約10	約750	約130	-	-	約460	約260	-	-	-	-	約660	約1,000
新富町	約140	約10	約500	約110	-	-	約80	約50	-	-	-	-	約220	約550
西米良村	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
木城町	約60	-	約210	約40	-	-	-	-	-	-	-	-	約60	約210
川南町	約170	約10	約750	約80	-	-	約350	約10	-	-	-	-	約520	約760
都農町	約70	-	約300	約40	-	-	約180	約10	-	-	-	-	約250	約310
門川町	約70	-	約400	約50	-	-	約2,800	約370	-	-	-	-	約2,900	約770
諸塚村	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
椎葉村	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
美郷町	-	-	約60	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約70
高千穂町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日之影町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
五ヶ瀬町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	約3,500	約180	約18,000	約2,500	約50	約60	約33,000	約7,100	約70	約110	-	-	約37,000	約26,000

ー：わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

⑨減災効果 死傷者数（想定ケース② 冬深夜 現状の津波避難ビル有 耐震化率約80% 県民意識調査による早期避難者比率）

市町村	建物倒壊				急傾斜地崩壊		津波		火災		ブロック塀他		合計	
	死者 (人)	(家具) (人)	負傷者 (人)	(家具) (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)
宮崎市	約1,100	約70	約6,100	約920	約10	約10	約860	約110	約30	約70	-	-	約2,000	約6,300
都城市	約60	-	約1,000	約70	-	-	-	-	-	-	-	-	約60	約1,000
延岡市	約390	約20	約2,400	約280	約10	約20	約2,000	約280	約10	約10	-	-	約2,400	約2,700
日南市	約470	約20	約1,800	約280	約10	約10	約2,100	約310	約20	約10	-	-	約2,600	約2,100
小林市	約10	-	約180	約20	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約180
日向市	約310	約10	約1,500	約200	-	-	約3,500	約370	-	-	-	-	約3,800	約1,900
串間市	約140	-	約650	約50	-	-	約360	約250	-	-	-	-	約510	約910
西都市	約190	約10	約790	約130	-	-	-	-	-	-	-	-	約190	約790
えびの市	約20	-	約280	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約20	約290
三股町	約10	-	約140	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約140
高原町	-	-	約40	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約40
国富町	約60	-	約350	約40	-	-	-	-	-	-	-	-	約70	約360
綾町	約20	-	約120	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約20	約120
高鍋町	約190	約10	約750	約130	-	-	約110	約30	-	-	-	-	約310	約790
新富町	約140	約10	約500	約110	-	-	約50	約20	-	-	-	-	約200	約530
西米良村	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
木城町	約60	-	約210	約40	-	-	-	-	-	-	-	-	約60	約210
川南町	約170	約10	約750	約80	-	-	約350	約10	-	-	-	-	約520	約760
都農町	約70	-	約300	約40	-	-	約180	約10	-	-	-	-	約250	約310
門川町	約70	-	約400	約50	-	-	約910	約80	-	-	-	-	約990	約480
諸塚村	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
椎葉村	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
美郷町	-	-	約60	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約70
高千穂町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日之影町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
五ヶ瀬町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	約3,500	約180	約18,000	約2,500	約50	約60	約10,000	約1,500	約70	約110	-	-	約14,000	約20,000

- : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

耐震化

+ 早期避難高

死傷者数（想定ケース② 冬深夜 現状の津波避難ビル有 耐震化率90% 早期避難者比率高+呼びかけ）

市町村	建物倒壊				急傾斜地崩壊		津波		火災		ブロック塀他		合計	
	死者 (人)	(家具) (人)	負傷者 (人)	(家具) (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)
宮崎市	約610	約40	約3,800	約610	約10	約10	約250	約10	約20	約40	-	-	約980	約3,800
都城市	約20	-	約430	約60	-	-	-	-	-	-	-	-	約20	約430
延岡市	約150	約10	約1,100	約160	約10	約20	約160	-	-	-	-	-	約330	約1,200
日南市	約210	約10	約1,200	約160	約10	約20	約340	約40	約10	約10	-	-	約570	約1,300
小林市	-	-	約70	約20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約70
日向市	約160	約10	約920	約120	-	-	約490	約60	-	-	-	-	約660	約990
串間市	約50	-	約340	約30	-	-	約50	約30	-	-	-	-	約110	約370
西都市	約80	約10	約460	約70	-	-	-	-	-	-	-	-	約80	約460
えびの市	約10	-	約110	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約110
三股町	-	-	約60	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約60
高原町	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
国富町	約30	-	約180	約30	-	-	-	-	-	-	-	-	約30	約180
綾町	約10	-	約60	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約60
高鍋町	約90	約10	約510	約80	-	-	約30	-	-	-	-	-	約120	約510
新富町	約80	約10	約350	約70	-	-	約10	-	-	-	-	-	約90	約350
西米良村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
木城町	約30	-	約140	約20	-	-	-	-	-	-	-	-	約30	約140
川南町	約70	-	約470	約50	-	-	約20	-	-	-	-	-	約100	約470
都農町	約30	-	約170	約20	-	-	約10	-	-	-	-	-	約40	約170
門川町	約30	-	約210	約30	-	-	約50	-	-	-	-	-	約80	約210
諸塚村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
椎葉村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
美郷町	-	-	約20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約30
高千穂町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日之影町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
五ヶ瀬町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	約1,700	約100	約11,000	約1,600	約50	約60	約1,400	約150	約40	約60	-	-	約3,200	約11,000

- : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

⑨減災効果

宮崎県(2013.10)における死傷者数(想定ケース① 冬深夜)

市町村	建物倒壊				急傾斜地崩壊		津波		火災		ブロック塀他		合計	
	死者(人)	(家具)負傷者(人)	(家具)負傷者(人)	(家具)負傷者(人)	死者(人)	負傷者(人)	死者(人)	負傷者(人)	死者(人)	負傷者(人)	死者(人)	負傷者(人)	死者(人)	負傷者(人)
宮崎市	約1,500	約80	約7,700	約1,100	約10	約10	約1,500	約560	約60	約70	-	-	約3,100	約8,300
都城市	約60	-	約1,100	約70	-	-	-	-	-	-	-	-	約60	約1,100
延岡市	約490	約20	約2,800	約340	約10	約20	約7,900	約960	約10	約10	-	-	約8,400	約3,800
日南市	約70	-	約710	約40	約10	約10	約2,000	約380	-	-	-	-	約2,100	約1,100
小林市	約10	-	約240	約20	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約240
日向市	約370	約20	約1,600	約230	-	-	約14,000	約1,700	約10	-	-	-	約15,000	約3,300
串間市	-	-	約100	-	-	-	約310	約120	-	-	-	-	約320	約220
西都市	約250	約10	約950	約160	-	-	-	-	-	-	-	-	約250	約960
えびの市	約20	-	約360	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約20	約360
三股町	約10	-	約180	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約180
高原町	-	-	約30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約30
国富町	約80	-	約420	約50	-	-	-	-	-	-	-	-	約80	約420
綾町	約20	-	約130	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約20	約130
高鍋町	約230	約10	約840	約150	-	-	約760	約230	約10	-	-	-	約1,000	約1,100
新富町	約160	約10	約520	約130	-	-	約190	約150	-	-	-	-	約350	約680
西米良村	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
木城町	約70	-	約220	約40	-	-	-	-	-	-	-	-	約70	約220
川南町	約210	約10	約860	約100	-	-	約400	約20	-	-	-	-	約620	約890
都農町	約90	-	約350	約50	-	-	約200	約20	-	-	-	-	約290	約370
門川町	約80	-	約440	約50	-	-	約3,600	約330	-	-	-	-	約3,600	約780
諸塚村	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
椎葉村	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約20
美郷町	約10	-	約80	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約80
高千穂町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日之影町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
五ヶ瀬町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	約3,700	約190	約20,000	約2,600	約50	約60	約31,000	約4,500	約90	約110	-	-	約35,000	約24,000

- : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

津波避難タワー等の整備

津波避難意識の反映

死傷者数(想定ケース① 冬深夜 現状の津波避難ビル有 宮崎県(2013.10)における早期避難者比率)

市町村	建物倒壊				急傾斜地崩壊		津波		火災		ブロック塀他		合計	
	死者(人)	(家具)負傷者(人)	(家具)負傷者(人)	(家具)負傷者(人)	死者(人)	負傷者(人)	死者(人)	負傷者(人)	死者(人)	負傷者(人)	死者(人)	負傷者(人)	死者(人)	負傷者(人)
宮崎市	約1,200	約70	約6,200	約960	約10	約10	約1,300	約250	約30	約60	-	-	約2,500	約6,600
都城市	約50	-	約960	約70	-	-	-	-	-	-	-	-	約60	約960
延岡市	約410	約20	約2,500	約300	約10	約20	約4,700	約500	約10	約10	-	-	約5,100	約3,000
日南市	約50	-	約590	約40	約10	約10	約1,500	約260	-	-	-	-	約1,600	約850
小林市	約10	-	約180	約20	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約180
日向市	約310	約10	約1,500	約190	-	-	約9,100	約970	-	-	-	-	約9,500	約2,500
串間市	-	-	約80	-	-	-	約70	約50	-	-	-	-	約70	約130
西都市	約200	約10	約810	約140	-	-	-	-	-	-	-	-	約200	約810
えびの市	約20	-	約310	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約20	約310
三股町	約10	-	約150	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約150
高原町	-	-	約30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約30
国富町	約70	-	約360	約40	-	-	-	-	-	-	-	-	約70	約360
綾町	約20	-	約120	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約20	約120
高鍋町	約190	約10	約760	約130	-	-	約470	約110	-	-	-	-	約670	約870
新富町	約140	約10	約500	約110	-	-	約160	約40	-	-	-	-	約290	約540
西米良村	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
木城町	約60	-	約200	約40	-	-	-	-	-	-	-	-	約60	約200
川南町	約180	約10	約760	約90	-	-	約370	約20	-	-	-	-	約550	約780
都農町	約70	-	約300	約40	-	-	約190	約20	-	-	-	-	約260	約330
門川町	約70	-	約380	約50	-	-	約2,100	約200	-	-	-	-	約2,100	約590
諸塚村	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
椎葉村	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
美郷町	-	-	約70	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約70
高千穂町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日之影町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
五ヶ瀬町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	約3,000	約160	約17,000	約2,200	約50	約60	約20,000	約2,400	約50	約80	-	-	約23,000	約19,000

- : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。



⑨減災効果 死傷者数（想定ケース① 冬深夜 現状の津波避難ビル有 県民意識調査による早期避難者比率）

市町村	建物倒壊				急傾斜地崩壊		津波		火災		ブロック塀他		合計	
	死者 (人)	(家具) (人)	負傷者 (人)	(家具) (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)
宮崎市	約1,200	約70	約6,200	約960	約10	約10	約920	約130	約30	約60	-	-	約2,100	約6,400
都城市	約50	-	約960	約70	-	-	-	-	-	-	-	-	約60	約960
延岡市	約410	約20	約2,500	約300	約10	約20	約2,900	約290	約10	約10	-	-	約3,300	約2,800
日南市	約50	-	約590	約40	約10	約10	約960	約150	-	-	-	-	約1,000	約750
小林市	約10	-	約180	約20	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約180
日向市	約310	約10	約1,500	約190	-	-	約5,600	約540	-	-	-	-	約5,900	約2,000
串間市	-	-	約80	-	-	-	約70	約50	-	-	-	-	約70	約130
西都市	約200	約10	約810	約140	-	-	-	-	-	-	-	-	約200	約810
えびの市	約20	-	約310	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約20	約310
三股町	約10	-	約150	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約150
高原町	-	-	約30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約30
国富町	約70	-	約360	約40	-	-	-	-	-	-	-	-	約70	約360
綾町	約20	-	約120	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約20	約120
高鍋町	約190	約10	約760	約130	-	-	約200	約20	-	-	-	-	約400	約780
新富町	約140	約10	約500	約110	-	-	約110	約30	-	-	-	-	約250	約530
西米良村	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
木城町	約60	-	約200	約40	-	-	-	-	-	-	-	-	約60	約200
川南町	約180	約10	約760	約90	-	-	約340	約10	-	-	-	-	約520	約770
都農町	約70	-	約300	約40	-	-	約180	約20	-	-	-	-	約250	約320
門川町	約70	-	約380	約50	-	-	約940	約70	-	-	-	-	約1,000	約450
諸塚村	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
椎葉村	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
美郷町	-	-	約70	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約70
高千穂町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日之影町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
五ヶ瀬町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	約3,000	約160	約17,000	約2,200	約50	約60	約12,000	約1,300	約50	約80	-	-	約15,000	約18,000

- : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

耐震化

+ 早期避難高

死傷者数（想定ケース① 冬深夜 現状の津波避難ビル有 耐震化率 90% 早期避難者比率高+呼びかけ）

市町村	建物倒壊				急傾斜地崩壊		津波		火災		ブロック塀他		合計	
	死者 (人)	(家具) (人)	負傷者 (人)	(家具) (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)
宮崎市	約640	約40	約3,900	約640	約10	約10	約230	約10	約20	約40	-	-	約900	約4,000
都城市	約20	-	約410	約60	-	-	-	-	-	-	-	-	約20	約410
延岡市	約160	約10	約1,200	約170	約10	約20	約170	-	-	-	-	-	約350	約1,200
日南市	約20	-	約270	約30	約10	約10	約140	約40	-	-	-	-	約160	約310
小林市	-	-	約70	約20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約70
日向市	約160	約10	約910	約120	-	-	約490	約60	-	-	-	-	約650	約980
串間市	-	-	約30	-	-	-	約40	約30	-	-	-	-	約40	約60
西都市	約90	約10	約470	約80	-	-	-	-	-	-	-	-	約90	約470
えびの市	約10	-	約120	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約120
三股町	-	-	約70	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約70
高原町	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
国富町	約30	-	約190	約30	-	-	-	-	-	-	-	-	約30	約190
綾町	約10	-	約60	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約60
高鍋町	約90	約10	約510	約80	-	-	約30	-	-	-	-	-	約120	約510
新富町	約70	-	約350	約70	-	-	約10	-	-	-	-	-	約80	約350
西米良村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
木城町	約30	-	約130	約20	-	-	-	-	-	-	-	-	約30	約130
川南町	約80	-	約480	約50	-	-	約20	-	-	-	-	-	約100	約480
都農町	約30	-	約180	約20	-	-	約10	-	-	-	-	-	約40	約180
門川町	約30	-	約200	約30	-	-	約40	-	-	-	-	-	約70	約200
諸塚村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
椎葉村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
美郷町	-	-	約30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約30
高千穂町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日之影町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
五ヶ瀬町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	約1,500	約90	約9,600	約1,400	約50	約60	約1,200	約150	約30	約50	-	-	約2,700	約9,900

- : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

⑨減災効果

宮崎県(2013.10)における死傷者数(想定ケース② 冬深夜)

市町村	建物倒壊				急傾斜地崩壊		津波		火災		ブロック塀他		合計	
	死者(人)	(家具)負傷者(人)	(家具)負傷者(人)	(家具)負傷者(人)	死者(人)	負傷者(人)	死者(人)	負傷者(人)	死者(人)	負傷者(人)	死者(人)	負傷者(人)	死者(人)	負傷者(人)
宮崎市	約1,400	約80	約7,500	約1,100	約10	約10	約1,500	約450	約60	約70	-	-	約2,900	約8,000
都城市	約70	-	約1,200	約70	-	-	-	-	-	-	-	-	約70	約1,200
延岡市	約460	約20	約2,700	約320	約10	約20	約3,900	約1,100	約10	約10	-	-	約4,400	約3,900
日南市	約560	約30	約2,100	約340	約10	約10	約4,500	約670	約20	約10	-	-	約5,100	約2,800
小林市	約10	-	約230	約20	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約230
日向市	約370	約20	約1,600	約240	-	-	約9,600	約1,900	約10	-	-	-	約10,000	約3,500
串間市	約180	約10	約790	約70	-	-	約640	約170	-	-	-	-	約820	約970
西都市	約240	約10	約940	約160	-	-	-	-	-	-	-	-	約240	約940
えびの市	約20	-	約340	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約20	約340
三股町	約10	-	約160	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約160
高原町	-	-	約50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約50
国富町	約80	-	約410	約50	-	-	-	-	-	-	-	-	約80	約410
綾町	約20	-	約130	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約20	約130
高鍋町	約230	約10	約830	約150	-	-	約370	約170	約10	-	-	-	約610	約1,000
新富町	約160	約10	約530	約130	-	-	約60	約20	-	-	-	-	約230	約550
西米良村	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
木城町	約70	-	約230	約40	-	-	-	-	-	-	-	-	約70	約230
川南町	約210	約10	約850	約100	-	-	約390	約10	-	-	-	-	約600	約860
都農町	約80	-	約340	約50	-	-	約200	約10	-	-	-	-	約290	約360
門川町	約90	-	約460	約60	-	-	約2,800	約450	-	-	-	-	約2,900	約910
諸塚村	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
椎葉村	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約20
美郷町	約10	-	約80	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約80
高千穂町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日之影町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
五ヶ瀬町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	約4,200	約210	約21,000	約2,900	約50	約60	約24,000	約5,000	約110	約120	-	-	約28,000	約27,000

- : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

津波避難タワー等の整備

津波避難意識の反映

死傷者数(想定ケース② 冬深夜 現状の津波避難ビル有 宮崎県(2013.10)における早期避難者比率)

市町村	建物倒壊				急傾斜地崩壊		津波		火災		ブロック塀他		合計	
	死者(人)	(家具)負傷者(人)	(家具)負傷者(人)	(家具)負傷者(人)	死者(人)	負傷者(人)	死者(人)	負傷者(人)	死者(人)	負傷者(人)	死者(人)	負傷者(人)	死者(人)	負傷者(人)
宮崎市	約1,100	約70	約6,100	約920	約10	約10	約1,200	約180	約30	約70	-	-	約2,400	約6,300
都城市	約60	-	約1,000	約70	-	-	-	-	-	-	-	-	約60	約1,000
延岡市	約390	約20	約2,400	約280	約10	約20	約2,700	約410	約10	約10	-	-	約3,100	約2,900
日南市	約470	約20	約1,800	約280	約10	約10	約3,700	約610	約20	約10	-	-	約4,200	約2,400
小林市	約10	-	約180	約20	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約180
日向市	約310	約10	約1,500	約200	-	-	約6,200	約920	-	-	-	-	約6,600	約2,400
串間市	約140	-	約650	約50	-	-	約430	約280	-	-	-	-	約580	約940
西都市	約190	約10	約790	約130	-	-	-	-	-	-	-	-	約190	約790
えびの市	約20	-	約280	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約20	約290
三股町	約10	-	約140	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約140
高原町	-	-	約40	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約40
国富町	約60	-	約350	約40	-	-	-	-	-	-	-	-	約70	約360
綾町	約20	-	約120	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約20	約120
高鍋町	約190	約10	約750	約130	-	-	約270	約80	-	-	-	-	約460	約840
新富町	約140	約10	約500	約110	-	-	約60	約20	-	-	-	-	約200	約530
西米良村	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
木城町	約60	-	約210	約40	-	-	-	-	-	-	-	-	約60	約210
川南町	約170	約10	約750	約80	-	-	約360	約10	-	-	-	-	約540	約760
都農町	約70	-	約300	約40	-	-	約190	約20	-	-	-	-	約260	約320
門川町	約70	-	約400	約50	-	-	約1,600	約230	-	-	-	-	約1,700	約630
諸塚村	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
椎葉村	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
美郷町	-	-	約60	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約70
高千穂町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日之影町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
五ヶ瀬町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	約3,500	約180	約18,000	約2,500	約50	約60	約17,000	約2,800	約70	約110	-	-	約20,000	約21,000

- : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

⑨減災効果 死傷者数（想定ケース② 冬深夜 現状の津波避難ビル有 耐震化率約80% 県民意識調査による早期避難者比率）

市町村	建物倒壊				急傾斜地崩壊		津波		火災		ブロック塀他		合計	
	死者 (人)	(家具) (人)	負傷者 (人)	(家具) (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)
宮崎市	約1,100	約70	約6,100	約920	約10	約10	約860	約110	約30	約70	-	-	約2,000	約6,300
都城市	約60	-	約1,000	約70	-	-	-	-	-	-	-	-	約60	約1,000
延岡市	約390	約20	約2,400	約280	約10	約20	約2,000	約280	約10	約10	-	-	約2,400	約2,700
日南市	約470	約20	約1,800	約280	約10	約10	約2,100	約310	約20	約10	-	-	約2,600	約2,100
小林市	約10	-	約180	約20	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約180
日向市	約310	約10	約1,500	約200	-	-	約3,500	約370	-	-	-	-	約3,800	約1,900
串間市	約140	-	約650	約50	-	-	約360	約250	-	-	-	-	約510	約910
西都市	約190	約10	約790	約130	-	-	-	-	-	-	-	-	約190	約790
えびの市	約20	-	約280	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約20	約290
三股町	約10	-	約140	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約140
高原町	-	-	約40	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約40
国富町	約60	-	約350	約40	-	-	-	-	-	-	-	-	約70	約360
綾町	約20	-	約120	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約20	約120
高鍋町	約190	約10	約750	約130	-	-	約110	約30	-	-	-	-	約310	約790
新富町	約140	約10	約500	約110	-	-	約50	約20	-	-	-	-	約200	約530
西米良村	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
木城町	約60	-	約210	約40	-	-	-	-	-	-	-	-	約60	約210
川南町	約170	約10	約750	約80	-	-	約350	約10	-	-	-	-	約520	約760
都農町	約70	-	約300	約40	-	-	約180	約10	-	-	-	-	約250	約310
門川町	約70	-	約400	約50	-	-	約910	約80	-	-	-	-	約990	約480
諸塚村	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
椎葉村	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
美郷町	-	-	約60	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約70
高千穂町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日之影町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
五ヶ瀬町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	約3,500	約180	約18,000	約2,500	約50	約60	約10,000	約1,500	約70	約110	-	-	約14,000	約20,000

- : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

耐震化

+ 早期避難高

死傷者数（想定ケース② 冬深夜 現状の津波避難ビル有 耐震化率90% 早期避難者比率高+呼びかけ）

市町村	建物倒壊				急傾斜地崩壊		津波		火災		ブロック塀他		合計	
	死者 (人)	(家具) (人)	負傷者 (人)	(家具) (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)
宮崎市	約610	約40	約3,800	約610	約10	約10	約250	約10	約20	約40	-	-	約880	約3,800
都城市	約20	-	約430	約60	-	-	-	-	-	-	-	-	約20	約430
延岡市	約150	約10	約1,100	約160	約10	約20	約160	-	-	-	-	-	約330	約1,200
日南市	約210	約10	約1,200	約160	約10	約10	約340	約40	約10	約10	-	-	約570	約1,300
小林市	-	-	約70	約20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約70
日向市	約160	約10	約920	約120	-	-	約490	約60	-	-	-	-	約660	約990
串間市	約50	-	約340	約30	-	-	約50	約30	-	-	-	-	約110	約370
西都市	約80	約10	約460	約70	-	-	-	-	-	-	-	-	約80	約460
えびの市	約10	-	約110	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約110
三股町	-	-	約60	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約60
高原町	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
国富町	約30	-	約180	約30	-	-	-	-	-	-	-	-	約30	約180
綾町	約10	-	約60	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約60
高鍋町	約90	約10	約510	約80	-	-	約30	-	-	-	-	-	約120	約510
新富町	約80	約10	約350	約70	-	-	約10	-	-	-	-	-	約90	約350
西米良村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
木城町	約30	-	約140	約20	-	-	-	-	-	-	-	-	約30	約140
川南町	約70	-	約470	約50	-	-	約20	-	-	-	-	-	約100	約470
都農町	約30	-	約170	約20	-	-	約10	-	-	-	-	-	約40	約170
門川町	約30	-	約210	約30	-	-	約50	-	-	-	-	-	約80	約210
諸塚村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
椎葉村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
美郷町	-	-	約20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約30
高千穂町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日之影町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
五ヶ瀬町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	約1,700	約100	約11,000	約1,600	約50	約60	約1,400	約150	約40	約60	-	-	約3,200	約11,000

- : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

⑨減災効果

死傷者数（想定ケース① 冬深夜 仮に住民が全く避難しない場合）

市町村	建物倒壊				急傾斜地崩壊		津波		火災		ブロック塀他		合計	
	死者 (人)	(家具) 負傷者 (人)	負傷者 (人)	(家具) (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)
宮崎市	約1,200	約70	約6,200	約960	約10	約10	約24,000	約6,400	約30	約60	-	-	約25,000	約13,000
都城市	約50	-	約960	約70	-	-	/	/	-	-	-	-	約60	約960
延岡市	約410	約20	約2,500	約300	約10	約20	約43,000	約5,400	約10	約10	-	-	約44,000	約8,000
日南市	約50	-	約590	約40	約10	約10	約6,600	約1,200	-	-	-	-	約6,600	約1,700
小林市	約10	-	約180	約20	-	-	/	/	-	-	-	-	約10	約180
日向市	約310	約10	約1,500	約190	-	-	約31,000	約2,700	-	-	-	-	約31,000	約4,100
串間市	-	-	約80	-	-	-	約220	約210	-	-	-	-	約220	約290
西都市	約200	約10	約810	約140	-	-	/	/	-	-	-	-	約200	約810
えびの市	約20	-	約310	約10	-	-	/	/	-	-	-	-	約20	約310
三股町	約10	-	約150	約10	-	-	/	/	-	-	-	-	約10	約150
高原町	-	-	約30	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	約30
国富町	約70	-	約360	約40	-	-	/	/	-	-	-	-	約70	約360
綾町	約20	-	約120	約10	-	-	/	/	-	-	-	-	約20	約120
高鍋町	約190	約10	約760	約130	-	-	約2,600	約1,200	-	-	-	-	約2,800	約1,900
新富町	約140	約10	約500	約110	-	-	約680	約490	-	-	-	-	約820	約990
西米良村	-	-	約10	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	約10
木城町	約60	-	約200	約40	-	-	/	/	-	-	-	-	約60	約200
川南町	約180	約10	約760	約90	-	-	約1,100	約30	-	-	-	-	約1,200	約790
都農町	約70	-	約300	約40	-	-	約550	約60	-	-	-	-	約630	約360
門川町	約70	-	約380	約50	-	-	約11,000	約580	-	-	-	-	約11,000	約970
諸塚村	-	-	約10	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	約10
椎葉村	-	-	約10	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	約10
美郷町	-	-	約70	-	-	-	/	/	-	-	-	-	約70	約70
高千穂町	-	-	-	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	-
日之影町	-	-	-	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	-
五ヶ瀬町	-	-	-	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	-
合計	約3,000	約160	約17,000	約2,200	約50	約60	約121,000	約18,000	約50	約80	-	-	約124,000	約35,000

— : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

⑨減災効果

死傷者数（想定ケース② 冬深夜 仮に住民が全く避難しない場合）

市町村	建物倒壊				急傾斜地崩壊		津波		火災		ブロック塀他		合計	
	死者 (人)	(家具) 負傷者 (人)	負傷者 (人)	(家具) (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)
宮崎市	約1,100	約70	約6,100	約920	約10	約10	約22,000	約6,500	約30	約70	-	-	約23,000	約13,000
都城市	約60	-	約1,000	約70	-	-	-	-	-	-	-	-	約60	約1,000
延岡市	約390	約20	約2,400	約280	約10	約20	約29,000	約6,500	約10	約10	-	-	約29,000	約8,900
日南市	約470	約20	約1,800	約280	約10	約10	約11,000	約1,400	約20	約10	-	-	約12,000	約3,300
小林市	約10	-	約180	約20	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約180
日向市	約310	約10	約1,500	約200	-	-	約24,000	約4,100	-	-	-	-	約24,000	約5,600
串間市	約140	-	約650	約50	-	-	約1,200	約860	-	-	-	-	約1,400	約1,500
西都市	約190	約10	約790	約130	-	-	-	-	-	-	-	-	約190	約790
えびの市	約20	-	約280	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約20	約290
三股町	約10	-	約140	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約140
高原町	-	-	約40	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約40
国富町	約60	-	約350	約40	-	-	-	-	-	-	-	-	約70	約360
綾町	約20	-	約120	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約20	約120
高鍋町	約190	約10	約750	約130	-	-	約1,500	約900	-	-	-	-	約1,600	約1,700
新富町	約140	約10	約500	約110	-	-	約240	約160	-	-	-	-	約380	約670
西米良村	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
木城町	約60	-	約210	約40	-	-	-	-	-	-	-	-	約60	約210
川南町	約170	約10	約750	約80	-	-	約1,100	約30	-	-	-	-	約1,300	約780
都農町	約70	-	約300	約40	-	-	約590	約50	-	-	-	-	約660	約350
門川町	約70	-	約400	約50	-	-	約9,300	約1,100	-	-	-	-	約9,400	約1,500
諸塚村	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
椎葉村	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
美郷町	-	-	約60	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約70
高千穂町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日之影町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
五ヶ瀬町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	約3,500	約180	約18,000	約2,500	約50	約60	約100,000	約22,000	約70	約110	-	-	約103,000	約40,000

－：わずか

（注1）今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

⑨減災効果

資産等の被害

(単位：兆円)

分類	被害	減災前		宮崎県独自	
		減災前	減災後	減災前	減災後
建物被害	建物被害額	3.2	2.6	3.1	2.4
	家財資産被害額	0.05	0.05	0.06	0.05
	事業所償却資産被害額	0.5	0.4	0.4	0.4
	事業所棚卸資産被害額	0.2	0.2	0.2	0.2
ライフライン・インフラ施設被害	上水道被害額	0.02	0.02	0.02	0.02
	下水道被害額	0.1	0.1	0.1	0.1
	電気被害額	0.01	0.01	0.01	0.01
	通信被害額	0.02	0.02	0.02	0.02
	ガス被害額	0.001	0.001	0.001	0.001
	道路被害額	0.06	0.06	0.06	0.06
	鉄道被害額	0.02	0.02	0.02	0.02
	港湾被害額	0.2	0.2	0.2	0.2
	漁港被害額	0.09	0.09	0.09	0.09
その他土木施設被害	河川・海岸施設, 空港 等	0.2	0.2	0.2	0.2
土地の損壊・損失	農地被害額	0.1	0.1	0.1	0.1
災害廃棄物処理	災害廃棄物被害額	0.3	0.3	0.3	0.3
	計	5.0	4.3	4.9	4.2

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

⑨減災効果

生産・サービス低下による影響

(単位：百億円)

産業	減災前		宮崎県独自	
	減災前	減災後	減災前	減災後
農林水産業	1.4	1.1	1.4	1.1
鉱業	0.1	0.1	0.1	0.1
建設業	3.3	2.7	3.2	2.6
卸売・小売業	6.5	5.2	6.2	4.7
金融・保険業	7.9	6.3	7.6	5.9
不動産業	7.2	6.0	6.9	5.4
運輸・通信業	6.3	5.0	6.2	4.8
電気・ガス・水道業	3.0	2.4	2.8	2.2
サービス業	39.6	38.0	39.3	37.6
輸送機械製造業	0.7	0.6	0.7	0.5
食料品製造業	3.3	2.7	3.2	2.5
その他製造業	6.9	5.7	6.6	5.2
合計	86.1	75.7	84.1	72.6

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

⑨減災効果

交通寸断による影響

(単位：百億円)

項目		復旧完了までに要する時間	想定ケース①		想定ケース②	
			減災前	減災後	減災前	減災後
道路	人流	1ヶ月の場合	1.1	1.1	1.1	1.1
		6ヶ月の場合	6.0	5.1	6.1	5.3
	物流	1ヶ月の場合	27.7	27.7	27.8	27.8
		6ヶ月の場合	82.3	72.3	84.2	74.4
鉄道	人流	1ヶ月の場合	0.04	0.04	0.04	0.04
		6ヶ月の場合	0.2	0.2	0.2	0.2
空港	人流・物流	1ヶ月の場合	0.2	0.1	0.2	0.0
合計		道路・鉄道が6ヶ月停止する場合	88.6	77.7	90.7	80.1

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。



⑨減災効果

串間市の浸水想定更新による建物被害数の変化  
更新前の全半壊棟数（想定ケース① 冬深夜）

市町村	液状化		揺れ		急傾斜地崩壊		津波		火災	合計	
	全壊 (棟)	半壊 (棟)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	焼失 (棟)	全壊・ 焼失 (棟)	半壊 (棟)
宮崎市	約1,800	約9,900	約15,000	約23,000	約70	約140	約5,200	約6,000	約2,100	約24,000	約39,000
都城市	約260	約1,400	約770	約6,200	約30	約60	-	-	約30	約1,100	約7,600
延岡市	約1,400	約5,600	約5,600	約9,300	約130	約240	約9,300	約6,000	約420	約17,000	約21,000
日南市	約660	約2,700	約770	約3,100	約60	約110	約2,700	約1,700	約20	約4,200	約7,600
小林市	約100	約600	約100	約1,200	約10	約10	-	-	-	約210	約1,800
日向市	約430	約2,500	約4,200	約5,000	約30	約60	約9,000	約3,500	約80	約14,000	約11,000
串間市	約50	約190	約40	約530	約10	約30	約130	約610	-	約230	約1,400
西都市	約190	約960	約2,800	約2,800	約10	約20	-	-	約50	約3,000	約3,800
えびの市	約130	約850	約280	約1,500	-	-	-	-	約10	約420	約2,300
三股町	約30	約260	約150	約980	約10	約10	-	-	約10	約190	約1,300
高原町	約10	約50	約10	約180	-	約10	-	-	-	約20	約240
国富町	約10	約50	約970	約1,800	約10	約20	-	-	約20	約1,000	約1,800
綾町	-	約30	約250	約600	-	約10	-	-	約10	約260	約640
高鍋町	約100	約530	約2,800	約2,000	-	約10	約450	約1,200	約90	約3,400	約3,800
新富町	約20	約150	約1,900	約1,500	約10	約20	約70	約290	約20	約2,000	約1,900
西米良村	-	-	-	約50	-	約10	-	-	-	約10	約60
木城町	約20	約110	約820	約600	-	約10	-	-	約10	約860	約720
川南町	-	約20	約2,700	約2,200	-	約10	約170	約70	約20	約2,900	約2,300
都農町	約10	約40	約1,000	約1,100	-	約10	約120	約60	約20	約1,200	約1,200
門川町	約350	約1,600	約960	約1,400	約20	約30	約3,400	約630	約20	約4,700	約3,600
諸塚村	-	-	-	約60	-	約10	-	-	-	約10	約70
椎葉村	-	-	約100	約100	-	約10	-	-	-	約10	約110
美郷町	-	約10	約70	約530	約20	約30	-	-	-	約90	約560
高千穂町	-	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	約10
日之影町	-	-	-	約30	-	-	-	-	-	-	約30
五ヶ瀬町	-	-	-	約20	-	-	-	-	-	-	約20
合計	約5,600	約28,000	約41,000	約65,000	約430	約860	約30,000	約20,000	約3,000	約80,000	約114,000

更新後の全半壊棟数（想定ケース① 冬深夜）

市町村	液状化		揺れ		急傾斜地崩壊		津波		火災	合計	
	全壊 (棟)	半壊 (棟)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	焼失 (棟)	全壊・ 焼失 (棟)	半壊 (棟)
宮崎市	約1,800	約9,900	約15,000	約23,000	約70	約140	約5,200	約6,000	約2,100	約24,000	約39,000
都城市	約260	約1,400	約770	約6,200	約30	約60	-	-	約30	約1,100	約7,600
延岡市	約1,400	約5,600	約5,600	約9,300	約130	約240	約9,300	約6,000	約420	約17,000	約21,000
日南市	約660	約2,700	約770	約3,100	約60	約110	約2,700	約1,700	約20	約4,200	約7,600
小林市	約100	約600	約100	約1,200	約10	約10	-	-	-	約210	約1,800
日向市	約430	約2,500	約4,200	約5,000	約30	約60	約9,000	約3,500	約80	約14,000	約11,000
串間市	約50	約190	約40	約530	約10	約30	約80	約320	-	約180	約1,100
西都市	約190	約960	約2,800	約2,800	約10	約20	-	-	約50	約3,000	約3,800
えびの市	約130	約850	約280	約1,500	-	-	-	-	約10	約420	約2,300
三股町	約30	約260	約150	約980	約10	約10	-	-	約10	約190	約1,300
高原町	約10	約50	約10	約180	-	約10	-	-	-	約20	約240
国富町	約10	約50	約970	約1,800	約10	約20	-	-	約20	約1,000	約1,800
綾町	-	約30	約250	約600	-	約10	-	-	約10	約260	約640
高鍋町	約100	約530	約2,800	約2,000	-	約10	約450	約1,200	約90	約3,400	約3,800
新富町	約20	約150	約1,900	約1,500	約10	約20	約70	約290	約20	約2,000	約1,900
西米良村	-	-	-	約50	-	約10	-	-	-	約10	約60
木城町	約20	約110	約820	約600	-	約10	-	-	約10	約860	約720
川南町	-	約20	約2,700	約2,200	-	約10	約170	約70	約20	約2,900	約2,300
都農町	約10	約40	約1,000	約1,100	-	約10	約120	約60	約20	約1,200	約1,200
門川町	約350	約1,600	約960	約1,400	約20	約30	約3,400	約630	約20	約4,700	約3,600
諸塚村	-	-	-	約60	-	約10	-	-	-	約10	約70
椎葉村	-	-	約100	約100	-	約10	-	-	-	約10	約110
美郷町	-	約10	約70	約530	約20	約30	-	-	-	約90	約560
高千穂町	-	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	約10
日之影町	-	-	-	約30	-	-	-	-	-	-	約30
五ヶ瀬町	-	-	-	約20	-	-	-	-	-	-	約20
合計	約5,600	約28,000	約41,000	約65,000	約430	約860	約30,000	約20,000	約3,000	約80,000	約113,000

- : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

⑨減災効果

串間市の浸水想定更新による建物被害数の変化  
更新前の全半壊棟数（想定ケース② 冬深夜）

市町村	液状化		揺れ		急傾斜地崩壊		津波		火災	合計	
	全壊 (棟)	半壊 (棟)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	焼失 (棟)	全壊・ 焼失 (棟)	半壊 (棟)
宮崎市	約1,800	約9,900	約14,000	約22,000	約70	約150	約3,700	約6,100	約2,300	約22,000	約38,000
都城市	約260	約1,400	約810	約6,600	約30	約60	-	-	約40	約1,100	約8,100
延岡市	約1,400	約5,600	約5,200	約9,300	約130	約240	約5,700	約5,200	約500	約13,000	約20,000
日南市	約660	約2,700	約6,700	約5,200	約60	約140	約2,300	約1,500	約110	約9,800	約9,500
小林市	約100	約600	約90	約1,200	約10	約10	-	-	-	約200	約1,800
日向市	約420	約2,500	約4,200	約5,000	約30	約60	約6,300	約4,300	約120	約11,000	約12,000
串間市	約50	約190	約2,100	約2,700	約20	約50	約370	約650	約50	約2,600	約3,600
西都市	約190	約960	約2,700	約2,800	約10	約20	-	-	約40	約2,900	約3,800
えびの市	約130	約850	約250	約1,400	-	-	-	-	約10	約390	約2,200
三股町	約30	約260	約120	約910	約10	約10	-	-	約10	約170	約1,200
高原町	約10	約50	約10	約250	-	約10	-	-	-	約30	約300
国富町	約10	約50	約940	約1,800	約10	約20	-	-	約30	約990	約1,800
綾町	-	約30	約240	約600	-	約10	-	-	約10	約260	約630
高鍋町	約100	約530	約2,800	約2,000	-	約10	約180	約740	約80	約3,100	約3,300
新富町	約20	約150	約2,000	約1,500	約10	約20	約30	約160	約20	約2,000	約1,800
西米良村	-	-	-	約50	-	約10	-	-	-	約10	約50
木城町	約20	約110	約860	約590	-	約10	-	-	約10	約890	約710
川南町	-	約20	約2,600	約2,200	-	約10	約150	約60	約20	約2,800	約2,300
都農町	約10	約40	約1,000	約1,100	-	約10	約120	約40	約30	約1,200	約1,100
門川町	約350	約1,600	約1,000	約1,400	約20	約30	約2,100	約1,100	約30	約3,500	約4,100
諸塚村	-	-	-	約60	-	約10	-	-	-	約10	約70
椎葉村	-	-	-	約100	-	約10	-	-	-	約10	約110
美郷町	-	約10	約70	約520	約10	約30	-	-	-	約80	約550
高千穂町	-	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	約10
日之影町	-	-	-	約30	-	-	-	-	-	-	約30
五ヶ瀬町	-	-	-	約20	-	-	-	-	-	-	約20
合計	約5,600	約28,000	約48,000	約69,000	約450	約920	約21,000	約20,000	約3,400	約78,000	約118,000

更新後の全半壊棟数（想定ケース① 冬深夜）

市町村	液状化		揺れ		急傾斜地崩壊		津波		火災	合計	
	全壊 (棟)	半壊 (棟)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	焼失 (棟)	全壊・ 焼失 (棟)	半壊 (棟)
宮崎市	約1,800	約9,900	約14,000	約22,000	約70	約150	約3,700	約6,100	約2,300	約22,000	約38,000
都城市	約260	約1,400	約810	約6,600	約30	約60	-	-	約40	約1,100	約8,100
延岡市	約1,400	約5,600	約5,200	約9,300	約130	約240	約5,700	約5,200	約500	約13,000	約20,000
日南市	約660	約2,700	約6,700	約5,200	約60	約140	約2,300	約1,500	約110	約9,800	約9,500
小林市	約100	約600	約90	約1,200	約10	約10	-	-	-	約200	約1,800
日向市	約420	約2,500	約4,200	約5,000	約30	約60	約6,300	約4,300	約120	約11,000	約12,000
串間市	約50	約190	約2,100	約2,700	約20	約50	約250	約630	約50	約2,500	約3,600
西都市	約190	約960	約2,700	約2,800	約10	約20	-	-	約40	約2,900	約3,800
えびの市	約130	約850	約250	約1,400	-	-	-	-	約10	約390	約2,200
三股町	約30	約260	約120	約910	約10	約10	-	-	約10	約170	約1,200
高原町	約10	約50	約10	約250	-	約10	-	-	-	約30	約300
国富町	約10	約50	約940	約1,800	約10	約20	-	-	約30	約990	約1,800
綾町	-	約30	約240	約600	-	約10	-	-	約10	約260	約630
高鍋町	約100	約530	約2,800	約2,000	-	約10	約180	約740	約80	約3,100	約3,300
新富町	約20	約150	約2,000	約1,500	約10	約20	約30	約160	約20	約2,000	約1,800
西米良村	-	-	-	約50	-	約10	-	-	-	約10	約50
木城町	約20	約110	約860	約590	-	約10	-	-	約10	約890	約710
川南町	-	約20	約2,600	約2,200	-	約10	約150	約60	約20	約2,800	約2,300
都農町	約10	約40	約1,000	約1,100	-	約10	約120	約40	約30	約1,200	約1,100
門川町	約350	約1,600	約1,000	約1,400	約20	約30	約2,100	約1,100	約30	約3,500	約4,100
諸塚村	-	-	-	約60	-	約10	-	-	-	約10	約70
椎葉村	-	-	-	約100	-	約10	-	-	-	約10	約110
美郷町	-	約10	約70	約520	約10	約30	-	-	-	約80	約550
高千穂町	-	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	約10
日之影町	-	-	-	約30	-	-	-	-	-	-	約30
五ヶ瀬町	-	-	-	約20	-	-	-	-	-	-	約20
合計	約5,600	約28,000	約48,000	約69,000	約450	約920	約21,000	約20,000	約3,400	約78,000	約118,000

- : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

⑨減災効果

串間市の浸水想定更新による人的被害数の変化  
更新前の死傷者数（想定ケース① 冬深夜 避難ビル無）

市町村	建物倒壊				急傾斜地崩壊		津波		火災		ブロック塀他		合計	
	死者 (人)	(家具) (人)	負傷者 (人)	(家具) (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)
宮崎市	約1,200	約70	約6,200	約960	約10	約10	約7,700	約2,100	約30	約60	-	-	約8,900	約8,400
都城市	約50	-	約960	約70	-	-	-	-	-	-	-	-	約60	約960
延岡市	約410	約20	約2,500	約300	約10	約20	約15,000	約1,900	約10	約10	-	-	約15,000	約4,400
日南市	約50	-	約590	約40	約10	約10	約2,000	約390	-	-	-	-	約2,000	約980
小林市	約10	-	約180	約20	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約180
日向市	約310	約10	約1,500	約190	-	-	約14,000	約1,300	-	-	-	-	約15,000	約2,800
串間市	-	-	約80	-	-	-	約300	約110	-	-	-	-	約300	約190
西都市	約200	約10	約810	約140	-	-	-	-	-	-	-	-	約200	約810
えびの市	約20	-	約310	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約20	約310
三股町	約10	-	約150	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約150
高原町	-	-	約30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約30
国富町	約70	-	約360	約40	-	-	-	-	-	-	-	-	約70	約360
綾町	約20	-	約120	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約20	約120
高鍋町	約190	約10	約760	約130	-	-	約850	約360	-	-	-	-	約1,000	約1,100
新富町	約140	約10	約500	約110	-	-	約220	約140	-	-	-	-	約350	約640
西米良村	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
木城町	約60	-	約200	約40	-	-	-	-	-	-	-	-	約60	約200
川南町	約180	約10	約760	約90	-	-	約340	約10	-	-	-	-	約520	約770
都農町	約70	-	約300	約40	-	-	約180	約20	-	-	-	-	約250	約320
門川町	約70	-	約380	約50	-	-	約3,400	約240	-	-	-	-	約3,500	約620
諸塚村	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
椎葉村	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
美郷町	-	-	約70	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約70
高千穂町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日之影町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
五ヶ瀬町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	約3,000	約160	約17,000	約2,200	約50	約60	約44,000	約6,500	約50	約80	-	-	約47,000	約23,000

更新前の死傷者数（想定ケース① 冬深夜 避難ビル有）

市町村	建物倒壊				急傾斜地崩壊		津波		火災		ブロック塀他		合計	
	死者 (人)	(家具) (人)	負傷者 (人)	(家具) (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)
宮崎市	約1,200	約70	約6,200	約960	約10	約10	約920	約130	約30	約60	-	-	約2,100	約6,400
都城市	約50	-	約960	約70	-	-	-	-	-	-	-	-	約60	約960
延岡市	約410	約20	約2,500	約300	約10	約20	約2,900	約290	約10	約10	-	-	約3,300	約2,800
日南市	約50	-	約590	約40	約10	約10	約960	約150	-	-	-	-	約1,000	約750
小林市	約10	-	約180	約20	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約180
日向市	約310	約10	約1,500	約190	-	-	約5,600	約540	-	-	-	-	約5,900	約2,000
串間市	-	-	約80	-	-	-	約190	約90	-	-	-	-	約190	約170
西都市	約200	約10	約810	約140	-	-	-	-	-	-	-	-	約200	約810
えびの市	約20	-	約310	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約20	約310
三股町	約10	-	約150	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約150
高原町	-	-	約30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約30
国富町	約70	-	約360	約40	-	-	-	-	-	-	-	-	約70	約360
綾町	約20	-	約120	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約20	約120
高鍋町	約190	約10	約760	約130	-	-	約200	約20	-	-	-	-	約400	約780
新富町	約140	約10	約500	約110	-	-	約110	約30	-	-	-	-	約250	約530
西米良村	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
木城町	約60	-	約200	約40	-	-	-	-	-	-	-	-	約60	約200
川南町	約180	約10	約760	約90	-	-	約340	約10	-	-	-	-	約520	約770
都農町	約70	-	約300	約40	-	-	約180	約20	-	-	-	-	約250	約320
門川町	約70	-	約380	約50	-	-	約940	約70	-	-	-	-	約1,000	約450
諸塚村	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
椎葉村	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
美郷町	-	-	約70	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約70
高千穂町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日之影町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
五ヶ瀬町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	約3,000	約160	約17,000	約2,200	約50	約60	約12,000	約1,400	約50	約80	-	-	約15,000	約18,000

— : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

更新後の死傷者数（想定ケース① 冬深夜 避難ビル無）

市町村	建物倒壊				急傾斜地崩壊		津波		火災		ブロック塀他		合計	
	死者 (人)	(家具) 負傷者 (人)	負傷者 (人)	(家具) 負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)
宮崎市	約1,200	約70	約6,200	約960	約10	約10	約7,700	約2,100	約30	約60	-	-	約8,900	約8,400
都城市	約50	-	約960	約70	-	-	-	-	-	-	-	-	約60	約960
延岡市	約410	約20	約2,500	約300	約10	約20	約15,000	約1,900	約10	約10	-	-	約15,000	約4,400
日南市	約50	-	約590	約40	約10	約10	約2,000	約390	-	-	-	-	約2,000	約980
小林市	約10	-	約180	約20	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約180
日向市	約310	約10	約1,500	約190	-	-	約14,000	約1,300	-	-	-	-	約15,000	約2,800
串間市	-	-	約80	-	-	-	約70	約60	-	-	-	-	約70	約140
西都市	約200	約10	約810	約140	-	-	-	-	-	-	-	-	約200	約810
えびの市	約20	-	約310	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約20	約310
三股町	約10	-	約150	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約150
高原町	-	-	約30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約30
国富町	約70	-	約360	約40	-	-	-	-	-	-	-	-	約70	約360
綾町	約20	-	約120	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約20	約120
高鍋町	約190	約10	約760	約130	-	-	約850	約360	-	-	-	-	約1,000	約1,100
新富町	約140	約10	約500	約110	-	-	約220	約140	-	-	-	-	約350	約640
西米良村	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
木城町	約60	-	約200	約40	-	-	-	-	-	-	-	-	約60	約200
川南町	約180	約10	約760	約90	-	-	約340	約10	-	-	-	-	約520	約770
都農町	約70	-	約300	約40	-	-	約180	約20	-	-	-	-	約250	約320
門川町	約70	-	約380	約50	-	-	約3,400	約240	-	-	-	-	約3,500	約620
諸塚村	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
椎葉村	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
美郷町	-	-	約70	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約70
高千穂町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日之影町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
五ヶ瀬町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	約3,000	約160	約17,000	約2,200	約50	約60	約44,000	約6,500	約50	約80	-	-	約47,000	約23,000

更新後の死傷者数（想定ケース① 冬深夜 避難ビル有）

市町村	建物倒壊				急傾斜地崩壊		津波		火災		ブロック塀他		合計	
	死者 (人)	(家具) 負傷者 (人)	負傷者 (人)	(家具) 負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)
宮崎市	約1,200	約70	約6,200	約960	約10	約10	約920	約130	約30	約60	-	-	約2,100	約6,400
都城市	約50	-	約960	約70	-	-	-	-	-	-	-	-	約60	約960
延岡市	約410	約20	約2,500	約300	約10	約20	約2,900	約290	約10	約10	-	-	約3,300	約2,800
日南市	約50	-	約590	約40	約10	約10	約960	約150	-	-	-	-	約1,000	約750
小林市	約10	-	約180	約20	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約180
日向市	約310	約10	約1,500	約190	-	-	約5,600	約540	-	-	-	-	約5,900	約2,000
串間市	-	-	約80	-	-	-	約70	約50	-	-	-	-	約70	約130
西都市	約200	約10	約810	約140	-	-	-	-	-	-	-	-	約200	約810
えびの市	約20	-	約310	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約20	約310
三股町	約10	-	約150	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約150
高原町	-	-	約30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約30
国富町	約70	-	約360	約40	-	-	-	-	-	-	-	-	約70	約360
綾町	約20	-	約120	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約20	約120
高鍋町	約190	約10	約760	約130	-	-	約200	約20	-	-	-	-	約400	約780
新富町	約140	約10	約500	約110	-	-	約110	約30	-	-	-	-	約250	約530
西米良村	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
木城町	約60	-	約200	約40	-	-	-	-	-	-	-	-	約60	約200
川南町	約180	約10	約760	約90	-	-	約340	約10	-	-	-	-	約520	約770
都農町	約70	-	約300	約40	-	-	約180	約20	-	-	-	-	約250	約320
門川町	約70	-	約380	約50	-	-	約940	約70	-	-	-	-	約1,000	約450
諸塚村	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
椎葉村	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
美郷町	-	-	約70	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約70
高千穂町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日之影町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
五ヶ瀬町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	約3,000	約160	約17,000	約2,200	約50	約60	約12,000	約1,300	約50	約80	-	-	約15,000	約18,000

－：わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

⑨減災効果

串間市の浸水想定更新による人的被害数の変化  
更新前の死傷者数（想定ケース② 冬深夜 避難ビル無）

市町村	建物倒壊				急傾斜地崩壊		津波		火災		ブロック塀他		合計	
	死者 (人)	(家具) (人)	負傷者 (人)	(家具) (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)
宮崎市	約1,100	約70	約6,100	約920	約10	約10	約6,600	約1,900	約30	約70	-	-	約7,700	約8,100
都城市	約60	-	約1,000	約70	-	-	-	-	-	-	-	-	約60	約1,000
延岡市	約390	約20	約2,400	約280	約10	約20	約8,700	約2,000	約10	約10	-	-	約9,100	約4,400
日南市	約470	約20	約1,800	約280	約10	約10	約3,800	約580	約20	約10	-	-	約4,300	約2,400
小林市	約10	-	約180	約20	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約180
日向市	約310	約10	約1,500	約200	-	-	約9,800	約1,600	-	-	-	-	約10,000	約3,100
串間市	約140	-	約650	約50	-	-	約550	約120	-	-	-	-	約700	約780
西都市	約190	約10	約790	約130	-	-	-	-	-	-	-	-	約190	約790
えびの市	約20	-	約280	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約20	約290
三股町	約10	-	約140	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約140
高原町	-	-	約40	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約40
国富町	約60	-	約350	約40	-	-	-	-	-	-	-	-	約70	約360
綾町	約20	-	約120	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約20	約120
高鍋町	約190	約10	約750	約130	-	-	約460	約260	-	-	-	-	約660	約1,000
新富町	約140	約10	約500	約110	-	-	約80	約50	-	-	-	-	約220	約550
西米良村	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
木城町	約60	-	約210	約40	-	-	-	-	-	-	-	-	約60	約210
川南町	約170	約10	約750	約80	-	-	約350	約10	-	-	-	-	約520	約760
都農町	約70	-	約300	約40	-	-	約180	約10	-	-	-	-	約250	約310
門川町	約70	-	約400	約50	-	-	約2,800	約370	-	-	-	-	約2,900	約770
諸塚村	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
椎葉村	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
美郷町	-	-	約60	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約70
高千穂町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日之影町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
五ヶ瀬町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	約3,500	約180	約18,000	約2,500	約50	約60	約33,000	約6,900	約70	約110	-	-	約37,000	約25,000

更新前の死傷者数（想定ケース② 冬深夜 避難ビル有）

市町村	建物倒壊				急傾斜地崩壊		津波		火災		ブロック塀他		合計	
	死者 (人)	(家具) (人)	負傷者 (人)	(家具) (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)
宮崎市	約1,100	約70	約6,100	約920	約10	約10	約860	約110	約30	約70	-	-	約2,000	約6,300
都城市	約60	-	約1,000	約70	-	-	-	-	-	-	-	-	約60	約1,000
延岡市	約390	約20	約2,400	約280	約10	約20	約2,000	約280	約10	約10	-	-	約2,400	約2,700
日南市	約470	約20	約1,800	約280	約10	約10	約2,100	約310	約20	約10	-	-	約2,600	約2,100
小林市	約10	-	約180	約20	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約180
日向市	約310	約10	約1,500	約200	-	-	約3,500	約370	-	-	-	-	約3,800	約1,900
串間市	約140	-	約650	約50	-	-	約490	約110	-	-	-	-	約640	約770
西都市	約190	約10	約790	約130	-	-	-	-	-	-	-	-	約190	約790
えびの市	約20	-	約280	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約20	約290
三股町	約10	-	約140	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約140
高原町	-	-	約40	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約40
国富町	約60	-	約350	約40	-	-	-	-	-	-	-	-	約70	約360
綾町	約20	-	約120	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約20	約120
高鍋町	約190	約10	約750	約130	-	-	約110	約30	-	-	-	-	約310	約790
新富町	約140	約10	約500	約110	-	-	約50	約20	-	-	-	-	約200	約530
西米良村	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
木城町	約60	-	約210	約40	-	-	-	-	-	-	-	-	約60	約210
川南町	約170	約10	約750	約80	-	-	約350	約10	-	-	-	-	約520	約760
都農町	約70	-	約300	約40	-	-	約180	約10	-	-	-	-	約250	約310
門川町	約70	-	約400	約50	-	-	約910	約80	-	-	-	-	約990	約480
諸塚村	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
椎葉村	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
美郷町	-	-	約60	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約70
高千穂町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日之影町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
五ヶ瀬町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	約3,500	約180	約18,000	約2,500	約50	約60	約11,000	約1,300	約70	約110	-	-	約14,000	約20,000

－：わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

更新後の死傷者数（想定ケース② 冬深夜 避難ビル無）

市町村	建物倒壊				急傾斜地崩壊		津波		火災		ブロック塀他		合計	
	死者 (人)	(家具) 負傷者 (人)	負傷者 (人)	(家具) (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)
宮崎市	約1,100	約70	約6,100	約920	約10	約10	約6,600	約1,900	約30	約70	-	-	約7,700	約8,100
都城市	約60	-	約1,000	約70	-	-	-	-	-	-	-	-	約60	約1,000
延岡市	約390	約20	約2,400	約280	約10	約20	約8,700	約2,000	約10	約10	-	-	約9,100	約4,400
日南市	約470	約20	約1,800	約280	約10	約10	約3,800	約580	約20	約10	-	-	約4,300	約2,400
小林市	約10	-	約180	約20	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約180
日向市	約310	約10	約1,500	約200	-	-	約9,800	約1,600	-	-	-	-	約10,000	約3,100
串間市	約140	-	約650	約50	-	-	約410	約270	-	-	-	-	約560	約930
西都市	約190	約10	約790	約130	-	-	-	-	-	-	-	-	約190	約790
えびの市	約20	-	約280	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約20	約290
三股町	約10	-	約140	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約140
高原町	-	-	約40	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約40
国富町	約60	-	約350	約40	-	-	-	-	-	-	-	-	約70	約360
綾町	約20	-	約120	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約20	約120
高鍋町	約190	約10	約750	約130	-	-	約460	約260	-	-	-	-	約660	約1,000
新富町	約140	約10	約500	約110	-	-	約80	約50	-	-	-	-	約220	約550
西米良村	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
木城町	約60	-	約210	約40	-	-	-	-	-	-	-	-	約60	約210
川南町	約170	約10	約750	約80	-	-	約350	約10	-	-	-	-	約520	約760
都農町	約70	-	約300	約40	-	-	約180	約10	-	-	-	-	約250	約310
門川町	約70	-	約400	約50	-	-	約2,800	約370	-	-	-	-	約2,900	約770
諸塚村	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
椎葉村	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
美郷町	-	-	約60	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約70
高千穂町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日之影町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
五ヶ瀬町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	約3,500	約180	約18,000	約2,500	約50	約60	約33,000	約7,100	約70	約110	-	-	約37,000	約26,000

更新後の死傷者数（想定ケース② 冬深夜 避難ビル有）

市町村	建物倒壊				急傾斜地崩壊		津波		火災		ブロック塀他		合計	
	死者 (人)	(家具) 負傷者 (人)	負傷者 (人)	(家具) (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)
宮崎市	約1,100	約70	約6,100	約920	約10	約10	約860	約110	約30	約70	-	-	約2,000	約6,300
都城市	約60	-	約1,000	約70	-	-	-	-	-	-	-	-	約60	約1,000
延岡市	約390	約20	約2,400	約280	約10	約20	約2,000	約280	約10	約10	-	-	約2,400	約2,700
日南市	約470	約20	約1,800	約280	約10	約10	約2,100	約310	約20	約10	-	-	約2,600	約2,100
小林市	約10	-	約180	約20	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約180
日向市	約310	約10	約1,500	約200	-	-	約3,500	約370	-	-	-	-	約3,800	約1,900
串間市	約140	-	約650	約50	-	-	約360	約250	-	-	-	-	約510	約910
西都市	約190	約10	約790	約130	-	-	-	-	-	-	-	-	約190	約790
えびの市	約20	-	約280	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約20	約290
三股町	約10	-	約140	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約140
高原町	-	-	約40	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約40
国富町	約60	-	約350	約40	-	-	-	-	-	-	-	-	約70	約360
綾町	約20	-	約120	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約20	約120
高鍋町	約190	約10	約750	約130	-	-	約110	約30	-	-	-	-	約310	約790
新富町	約140	約10	約500	約110	-	-	約50	約20	-	-	-	-	約200	約530
西米良村	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
木城町	約60	-	約210	約40	-	-	-	-	-	-	-	-	約60	約210
川南町	約170	約10	約750	約80	-	-	約350	約10	-	-	-	-	約520	約760
都農町	約70	-	約300	約40	-	-	約180	約10	-	-	-	-	約250	約310
門川町	約70	-	約400	約50	-	-	約910	約80	-	-	-	-	約990	約480
諸塚村	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
椎葉村	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
美郷町	-	-	約60	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約70
高千穂町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日之影町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
五ヶ瀬町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	約3,500	約180	約18,000	約2,500	約50	約60	約10,000	約1,500	約70	約110	-	-	約14,000	約20,000

－：わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。